

鳥取県がん検診実績報告書

令和7年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

は じ め に

国立がん研究センターが令和5年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。鳥取県の死亡率は、男女計62.9（全国17位）、男性81.4（全国29位）、女性45.6（全国3位）で、昨年の男女計73.7より減少したが、第四次鳥取県がん対策推進計画（令和6年度～11年度）の目標値61.0未満は達成出来ていない。死亡率改善にがん検診の重要性は論を待たないが、新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降も低迷するがん検診受診率の向上は長年の課題として残されている。一方、国は自治体検診DXを進めており、今後、がん検診情報の管理や受診勧奨等の効率的な実施が期待される。職域検診も含めたがん検診情報の一体的把握については情報収集の方法論など難しい点もあるが実効性のあるシステムが構築される事が期待される。

このたび、例年通り、令和6年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。当県におけるがん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸いに存じます。

令和7年3月

鳥取県健康対策協議会

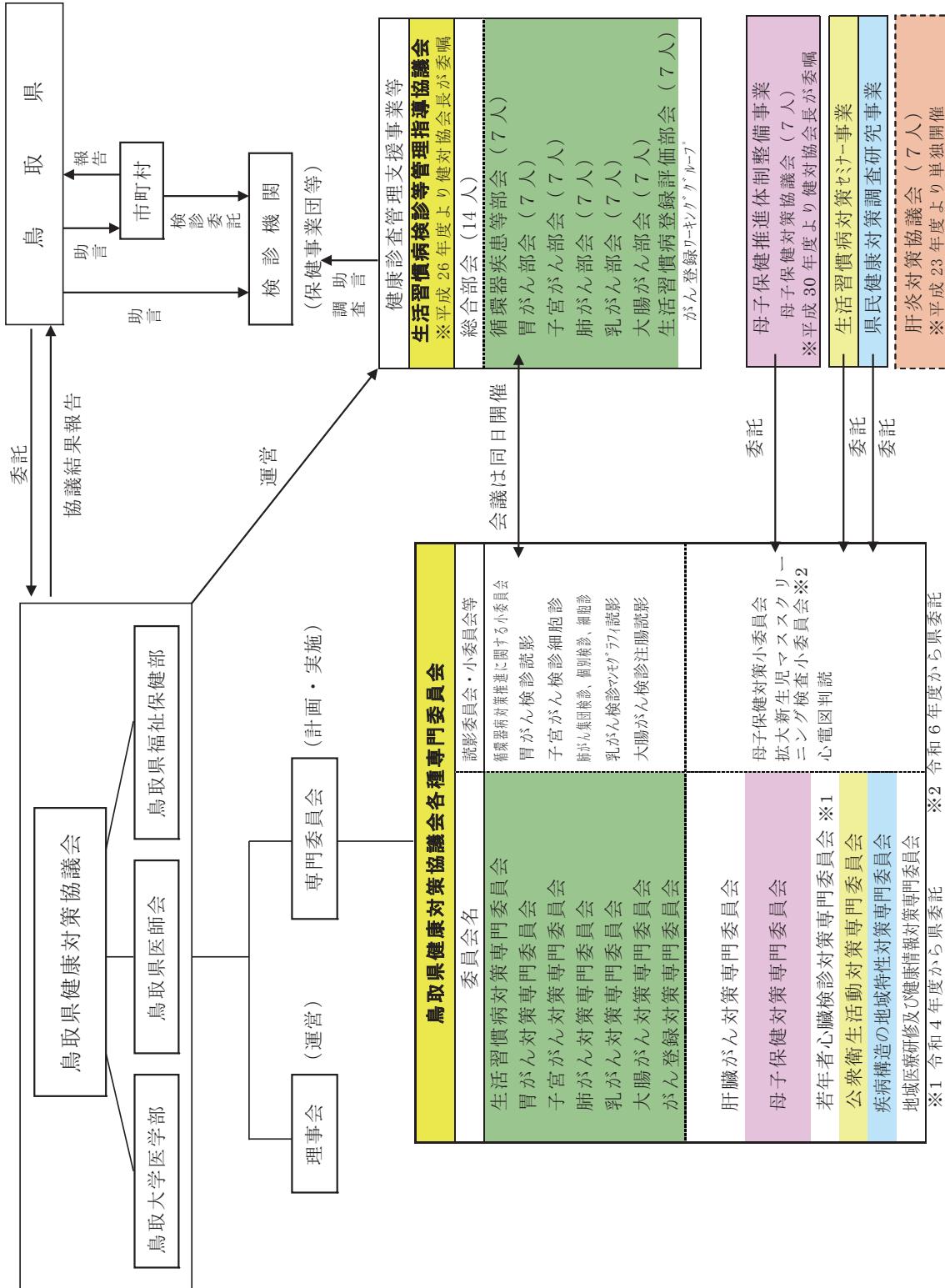
会長 清水正人

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 令和5年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	40
5. 大腸がん検診	47
6. 肝臓がん検診	56
7. 全国がん検診実績との比較	72
III. 令和6年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	76
2. 子宮がん検診症例研討会報告	78
3. 肺がん検診症例研究会報告	80
4. 乳がん検診症例研討会報告	82
5. 大腸がん検診症例研究会報告	84
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	85
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	89

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 令和5年度各がん検診事業実績

指標の解説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数。

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\begin{array}{l} \text{推計} \\ \text{対象者数} \end{array} = \begin{array}{l} \text{市区町村} \\ \text{人 口} \end{array} - \left(\begin{array}{l} \text{就業者数} \\ - \end{array} \begin{array}{l} \text{農林水産業} \\ \text{従業者数} \end{array} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上。

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者。
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃　　が　　ん　　検　　診

1. 胃がん検診実績

令和5年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）181,414人のうち、受診者数はX線検査7,156人、内視鏡検査は40,086人で合計47,242人、受診率は26.0%と令和4年度に比べ0.2ポイント減少した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は84.9%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳の値は、対象者数63,987人、受診者数21,168人、受診率33.1%であった。

検査の結果、胃がんであった者は146人発見され（X線検査10人、内視鏡検査136人）、がん発見率は0.31%となり、前年度比0.03ポイント減少した。

X線検査でのがん発見率は0.140%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.339%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.9%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ11.5%であった。

確定調査の結果、確定癌は152例、発見癌率は0.33%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は7,156人で、受診率は3.9%である。一次検診の要精検査者は518人で、要精検率は7.2%で、前年度より0.6ポイント増加した。精検受診者数430人、精検受診率は83.0%で前年度より1.1ポイント減少した。車検診の要精検率7.2%（東部7.0%、中部8.5%、西部6.4%）、施設検診は7.7%（東部7.8%、中部18.8%、西部6.7%）だった。

精検結果は、胃がんであった者は10人で、胃がん発見率は0.140%であった。

X線検査における国のプロセス指標（対象年齢50～74歳、検診間隔1年）の基準値は、要精検率7.6%以下、精密検査受診率90%以上、がん発見率0.11%以上、陽性反応適中度1.5%以上としているが、鳥取県は要精検率以外は国の基準値に届いていない状況である。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は40,086人で、検査結果は胃がんであった者は136人が発見され、発見率は0.339%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,184人で、組織診実施率3.0%、東部3.4%、中部3.9%、西部2.1%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は11.5%で、東部9.5%、中部11.7%、西部14.3%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X線検診	19	0	7,156 (15.1%)	10	0.140
内視鏡検診	19	0	40,086 (84.9%)	136	0.339
計	/		47,242 (100%)	146	0.309

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	6,506 (90.9%)	468	7.2	7.0	8.5	6.4
施設検診 (病院・診療所)	650 (9.1%)	50	7.7	7.8	18.8	6.7
計	7,156 (100%)	518	7.2	7.1	8.6	6.4

・精密検査

区分	精 檢 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	393	84.0	10	0.154	0.193	0.063	0.165
施 設 検 診	37	74.0	—	0.000	0.000	0.000	0.000
計	430	83.0	10	0.140	0.171	0.063	0.146

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診 実施者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	10,761	427	40	0.372	0.294	0.387	0.514
診 療 所	29,325	757	96	0.327	0.341	0.492	0.258
計	40,086	1,184	136	0.339	0.324	0.461	0.302

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
東 部	3,510	249	7.1	215	86.3	6	0.171
中 部	1,592	137	8.6	114	83.2	1	0.063
西 部	2,054	132	6.4	101	76.5	3	0.146
計	7,156	518	7.2	430	83.0	10	0.140

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率(%)	陽性反応適中度(%)
東 部	16,045	545	3.4	52	0.324	9.5
中 部	7,151	282	3.9	33	0.461	11.7
西 部	16,890	357	2.1	51	0.302	14.3
計	40,086	1,184	3.0	136	0.339	11.5

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

令和5年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃癌は152例（一次検査がX線検査：車検診11例、一次検査が内視鏡検査：141例）で、癌発見率は0.326%（東部0.318%、中部0.401%、西部0.299%）で、前年度に比べ、癌は13例減少した。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は129例、進行癌は23例であった。早期癌率は84.9%（東部86.9%、中部82.9%、西部83.9%）であった。
- (2) 切除は20例で、内視鏡切除が120例であった。非切除例が12例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性112例、女性40例であった。40歳代2例、50歳代1例、60歳代32例、70歳代82例、80歳以上35例で、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が63%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が35%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが61%を占めている。一方で5cm以上のものが14例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstageⅠAが9例で90.00%、内視鏡検査ではstageⅠAが107例で85.60%であった。StageⅣが、内視鏡検査で2例、見つかっている。
- (7) 逐年検診発見進行癌は6例（東部3例、中部2例、西部1例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数、受診率等の推移

区分		平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	10,415	41,196	51,611	9,649	42,845	52,494	7,738	38,430	46,168
	受診率(%) C = B/A	5.5	21.8	27.3	5.1	22.7	27.8	4.1	20.3	24.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	9,520			8,863			7,183		
	要精検者数(人) E	895			786			555		
	要精検率(%) F = E/B	8.6			8.1			7.2		
精密検査	精検受診者数(人) G	795			679			473		
	精検受診率(%) H = G/E	88.8			86.4			85.2		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(2)	149(42)	164(44)	14(4)	193(74)	207(78)	9(0)	129(71)	138(71)
	胃がん発見率(%) J = I/B	0.14	0.36	0.32	0.15	0.45	0.39	0.12	0.34	0.3
	陽性反応適中度(%) K = I/E	1.7			1.8			1.6		
確定調査結果	確定がん数(人) L	14	141	155	17	188	205	9	124	133
	確定がん率(%) M = L/B	0.13	0.34	0.30	0.18	0.44	0.39	0.12	0.32	0.29

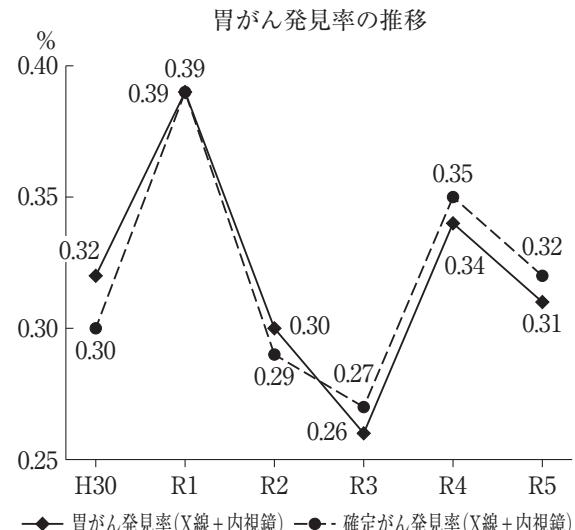
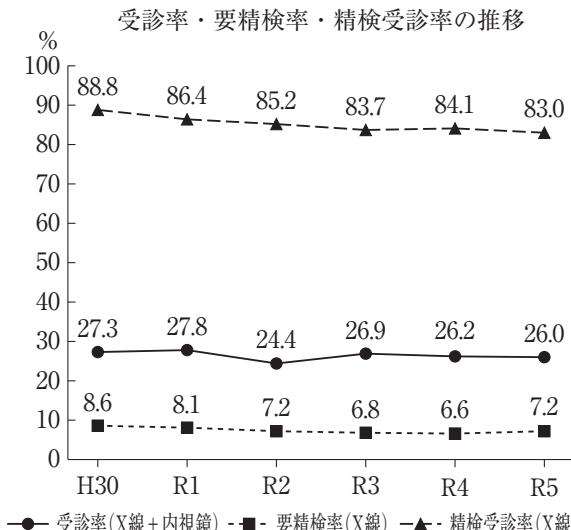
区分		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			181,414			181,414			181,414
	受診者数(人) B	7,943	40,801	48,744	7,579	39,920	47,499	7,156	40,086	47,242
	受診率(%) C = B/A	4.4	22.5	26.9	4.2	22	26.2	3.9	22.1	26
一次検診結果	異常認めず(人) D	7,403			7,077			6,638		
	要精検者数(人) E	540			502			518		
	要精検率(%) F = E/B	6.8			6.6			7.2		
精密検査	精検受診者数(人) G	452			422			430		
	精検受診率(%) H = G/E	83.7			84.1			83.0		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	8(1)	121(49)	129(49)	17(1)	144(47)	161(48)	10(1)	136(47)	146(48)
	胃がん発見率(%) J = I/B	0.1	0.3	0.26	0.22	0.36	0.34	0.14	0.34	0.31
	陽性反応適中度(%) K = I/E	1.48			3.39			1.93		
確定調査結果	確定がん数(人) L	8	122	130	16	149	165	11	141	152
	確定がん率(%) M = L/B	0.1	0.3	0.27	0.21	0.37	0.35	0.15	0.35	0.32

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和5年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
								要精検者数		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40~44歳	2,972	3,512	178	343	6.0	9.8	8.0	10	8	168	335	5.6	2.3	3.5
45~49歳	3,210	3,799	194	314	6.0	8.3	7.2	6	9	188	305	3.1	2.9	3.0
50~54歳	2,743	3,589	231	344	8.4	9.6	9.1	13	5	218	339	5.6	1.5	3.1
55~59歳	2,891	4,281	187	324	6.5	7.6	7.1	10	11	177	313	5.3	3.4	4.1
60~64歳	5,176	7,615	343	526	6.6	6.9	6.8	21	19	322	507	6.1	3.6	4.6
65~69歳	10,744	13,455	572	712	5.3	5.3	5.3	47	64	525	648	8.2	9.0	8.6
70~74歳	14,256	17,509	653	731	4.6	4.2	4.4	75	55	578	676	11.5	7.5	9.4
75~79歳	11,216	15,094	463	452	4.1	3.0	3.5	65	42	398	410	14.0	9.3	11.7
80歳以上	19,085	40,267	310	279	1.6	0.7	1.0	37	21	273	258	11.9	7.5	9.8
計	72,293	109,121	3,131	4,025	4.3	3.7	3.9	284	234	2,847	3,791	9.1	5.8	7.2
合計	181,414		7,156		3.9			518		6,638		7.2		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査 受診者数		精密検査 受診率 (%)		精密検査結果				胃がん発見率 (%)		陽性反応適中度 (%)			
					異常認めず	その他の 疾病	胃がん 疑い	胃がん h						
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40~44歳	7	8	70.0	100.0	83.3	3	1	4	7	0	0	0.000	0.000	0.000
45~49歳	5	5	83.3	55.6	66.7	2	4	3	1	0	0	0.000	0.000	0.000
50~54歳	12	5	92.3	100.0	94.4	3	0	9	5	0	0	0.000	0.000	0.000
55~59歳	7	9	70.0	81.8	76.2	2	5	5	4	0	0	0.000	0.000	0.000
60~64歳	15	17	71.4	89.5	80.0	1	2	14	15	0	0	0.000	0.000	0.000
65~69歳	41	54	87.2	84.4	85.6	7	14	33	40	0	0	0.175	0.000	0.078
70~74歳	58	50	77.3	90.9	83.1	11	5	46	44	0	0	0.153	0.137	0.145
75~79歳	53	38	81.5	90.5	85.0	7	4	42	31	0	1	4	0.864	0.442
80歳以上	31	15	83.8	71.4	79.3	6	3	24	12	0	0	1	0	0.323
計	229	201	80.6	85.9	83.0	42	38	180	159	0	1	7	3	0.224
合計	430		83.0		80		339		1		10		0.140	
														1.9

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数		一次検診結果				要精検率 (%)			
			要精検者数		異常認めず					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健事業団	2,728	3,551	256	198	2,472	3,353	9.4	5.6	7.2	
中国労働衛生協会		88	139	4	10	84	129	4.5	7.2	6.2
病院	227	256	15	18	212	238	6.6	7.0	6.8	
診療所	88	79	9	8	79	71	10.2	10.1	10.2	
計	3,131	4,025	284	234	2,847	3,791	9.1	5.8	7.2	
合計	7,156		518		6,638		7.2			

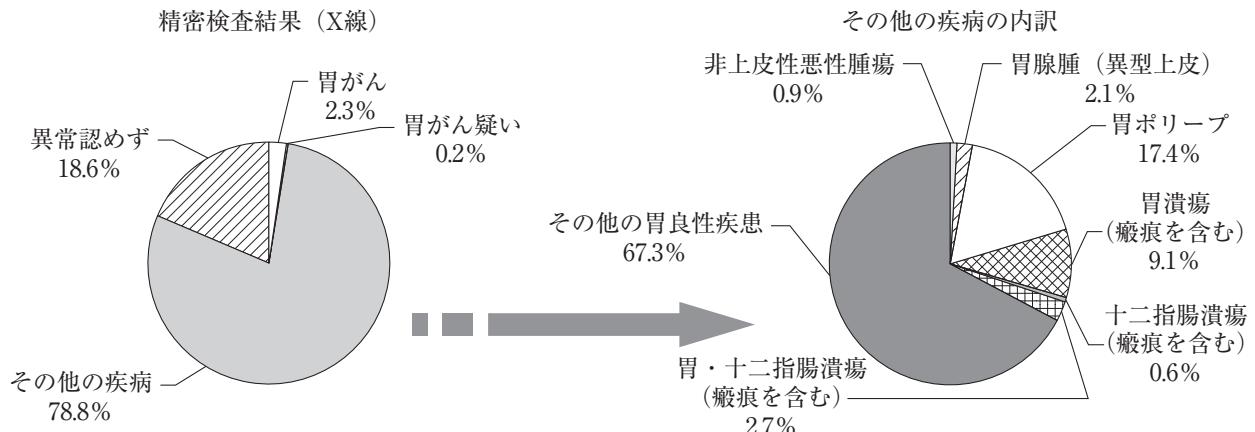
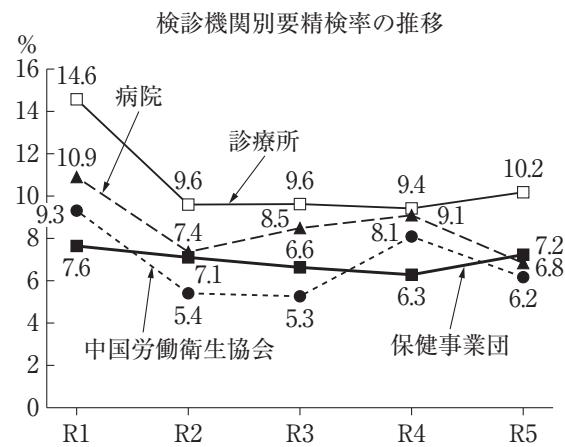
b. 検診機関別

年齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率(%) $e' = d'/b'$			精密検査結果						胃がん発見率(%) $g' = f'/a'$			陽性反応適中度(%) $h' = f'/b'$						
					異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い											
		男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
保健事業団	209	172	82	87	84	39	31	163	137	0	1	7	3	0.257	0.084	0.159	2.7	1.5	2.2	
中国労働衛生協会	2	10	50	100	86	1	3	1	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
車検診小計	211	182	81	88	84	40	34	164	144	0	1	7	3	0.249	0.081	0.154	2.7	1.4	2.1	
病院	12	12	80	67	73	0	2	12	10	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
診療所	6	7	67	88	76	2	2	4	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
施設検診小計	18	19	75	73	74	2	4	16	15	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
計	229	201	80.6	85.9	83.0	42	38	180	159	0	1	7	3	0.224	0.075	0.140	2.5	1.3	1.9	
合計		430		83.0		80		339		1		10			0.140			1.9		

・検診機関別要精検率の推移

(単位: %)

一次検診機関	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保健事業団	7.6	7.1	6.6	6.3	7.2
中国労働衛生協会	9.3	5.4	5.3	8.1	6.2
車検診小計	7.7	7.0	6.6	6.4	7.2
病院	10.9	7.4	8.5	9.1	6.8
診療所	14.6	9.6	9.6	9.4	10.2
施設検診小計	12.4	8.3	8.9	9.2	7.7
合計	8.6	7.2	6.8	6.6	7.2



4) 令和5年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率(%)	陽性反応 適中度(%)	がん発見者 数	P = M+N+0	Q = O/D	R = O/H
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	精 受診者 数 I = H/D	精 受診者 数 J	要精検率 (%) K = J/H	精 受診者 数 M	異常 認めず L	その他 の疾 病 M	がん N	がん O	P = M+N+0	Q = O/D	R = O/H	
鳥取市	57,633	1,895	376	2,271	3.9	118	31	149	6.6	127	85.2	19	106	2	0	108	0.088	1.3
米子市	43,796	328	135	463	1.1	19	11	30	6.5	27	90.0	3	23	1	0	24	0.216	3.3
倉吉市	16,163	315	5	320	2.0	24	2	26	8.1	22	84.6	7	15	0	0	15	0.000	0.0
境港市	10,796	283	84	367	3.4	18	3	21	5.7	14	66.7	2	11	1	0	12	0.272	4.8
岩美町	4,245	349	2	351	8.3	32	0	32	9.1	30	93.8	3	25	2	0	27	0.570	6.3
八頭町	5,674	706	16	722	12.7	47	0	47	6.5	41	87.2	3	35	2	1	38	0.277	4.3
若桜町	1,336	59	1	60	4.5	6	0	6	10.0	5	83.3	0	5	0	0	5	0.000	0.0
智頭町	2,723	106	0	106	3.9	15	0	15	14.2	12	80.0	1	11	0	0	11	0.000	0.0
湯梨浜町	5,319	401	2	403	7.6	29	1	30	7.4	27	90.0	5	22	0	0	22	0.000	0.0
三朝町	2,336	209	0	209	8.9	22	0	22	10.5	14	63.6	3	11	0	0	11	0.000	0.0
北栄町	5,250	338	6	344	6.6	30	0	30	8.7	26	86.7	11	14	1	0	15	0.291	3.3
琴浦町	6,243	313	3	316	5.1	29	0	29	9.2	25	86.2	10	15	0	0	15	0.000	0.0
南部町	3,722	141	0	141	3.8	4	0	4	2.8	3	75.0	2	1	0	0	1	0.000	0.0
伯耆町	4,091	226	13	239	5.8	12	2	14	5.9	9	64.3	1	8	0	0	8	0.000	0.0
日吉津村	981	96	7	103	10.5	8	0	8	7.8	5	62.5	4	1	0	0	1	0.000	0.0
大山町	6,342	437	0	437	6.9	27	0	27	6.2	27	100.0	3	23	1	0	24	0.229	3.7
日南町	2,198	137	0	137	6.2	16	0	16	11.7	6	37.5	0	6	0	0	6	0.000	0.0
日野町	1,340	90	0	90	6.7	5	0	5	5.6	4	80.0	0	4	0	0	4	0.000	0.0
江府町	1,226	77	0	77	6.3	7	0	7	9.1	6	85.7	3	3	0	0	3	0.000	0.0
合 計	181,414	6,506	650	7,156	3.9	468	50	518	7.2	430	83.0	80	339	10	1	350	0.140	1.9
東 部	71,611	3,115	395	3,510	4.9	218	31	249	7.1	215	86.3	26	182	6	1	189	0.171	2.4
中 部	35,311	1,576	16	1,592	4.5	134	3	137	8.6	114	83.2	36	77	1	0	78	0.063	0.7
西 部	74,492	1,815	239	2,054	2.8	116	16	132	6.4	101	76.5	18	80	3	0	83	0.146	2.3

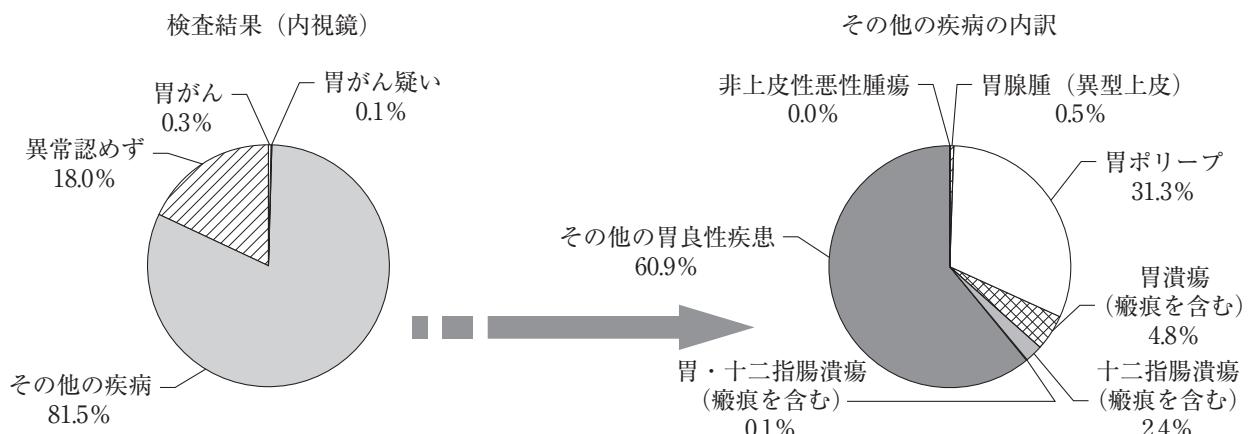
(3) 令和5年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年齢	一次検診受診者数 a	検査結果										胃がん発見率 (%) c = b / a		
		異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
40~44歳	472	736	172	288	300	448	0	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45~49歳	582	1,051	207	353	373	697	0	0	2	1	1	0.344	0.095	0.184
50~54歳	676	1,279	200	366	475	912	1	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000
55~59歳	770	1,389	176	290	592	1,099	1	0	1	0	0	0.130	0.000	0.046
60~64歳	1,234	2,337	219	500	1,008	1,831	1	2	6	4	4	0.486	0.171	0.280
65~69歳	2,789	3,585	422	583	2,350	2,993	3	3	14	6	6	0.502	0.167	0.314
70~74歳	4,233	4,902	600	807	3,599	4,082	8	4	26	9	9	0.614	0.184	0.383
75~79歳	3,316	4,038	463	647	2,821	3,379	6	4	26	8	8	0.784	0.198	0.462
80歳以上	2,953	3,744	354	579	2,566	3,152	5	8	28	5	5	0.948	0.134	0.493
計	17,025	23,061	2,813	4,413	14,084	18,593	25	22	103	33	33	0.605	0.143	0.339
合計	40,086		7,226		32,677		47		136		0.339			

2) 検診機関別

年齢	一次検診受診者数 a'	検査結果										胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
		異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
病院	4,867	5,894	600	767	4,229	5,108	10	7	28	12	12	0.575	0.204	0.372
診療所	12,158	17,167	2,213	3,646	9,855	13,485	15	15	75	21	21	0.617	0.122	0.327
計	17,025	23,061	2,813	4,413	14,084	18,593	25	22	103	33	33	0.605	0.143	0.339
合計	40,086		7,226		32,677		47		136		0.339			



3) 令和5年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他の 疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん 発見率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	12,727	430	3.4	1,760	10,916	12	39	10,967	0.306	9.1
米子市	10,705	160	1.5	2,038	8,635	6	26	8,667	0.243	16.3
倉吉市	3,171	116	3.7	556	2,591	6	18	2,615	0.568	15.5
境港市	2,606	138	5.3	699	1,894	2	11	1,907	0.422	8.0
岩美町	728	38	5.2	59	666	1	2	669	0.275	5.3
八頭町	1,320	55	4.2	218	1,090	1	11	1,102	0.833	20.0
若桜町	552	0	0.0	41	511	0	0	511	0.000	0.0
智頭町	718	22	3.1	46	672	0	0	672	0.000	0.0
湯梨浜町	1,187	57	4.8	289	890	3	5	898	0.421	8.8
三朝町	442	0	0.0	286	154	2	0	156	0.000	0.0
北栄町	1,248	45	3.6	242	996	6	4	1,006	0.321	8.9
琴浦町	1,103	64	5.8	345	750	2	6	758	0.544	9.4
南部町	1,186	43	3.6	84	1,093	4	5	1,102	0.422	11.6
伯耆町	904	2	0.2	78	824	0	2	826	0.221	100.0
日吉津村	263	7	2.7	88	175	0	0	175	0.000	0.0
大山町	560	2	0.4	116	440	1	3	444	0.536	150.0
日南町	298	0	0.0	46	249	1	2	252	0.671	0.0
日野町	116	5	4.3	55	61	0	0	61	0.000	0.0
江府町	252	0	0.0	180	70	0	2	72	0.794	0.0
合計	40,086	1,184	3.0	7,226	32,677	47	136	32,860	0.339	11.5
東部	16,045	545	3.4	2,124	13,855	14	52	13,921	0.324	9.5
中部	7,151	282	3.9	1,718	5,381	19	33	5,433	0.461	11.7
西部	16,890	357	2.1	3,384	13,441	14	51	13,506	0.302	14.3

(4) 令和5年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受 診 者 数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					がん 発見率 (%) K = I / D
		X 線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	異常 認めず F	その他の 疾病 G	がん 疑い H	がん I	有所 見者 J = G + H + I	
鳥取市	57,633	2,271	12,727	14,998	26.0	1,779	11,022	12	41	11,075	0.273
米子市	43,796	463	10,705	11,168	25.5	2,041	8,658	6	27	8,691	0.242
倉吉市	16,163	320	3,171	3,491	21.6	563	2,606	6	18	2,630	0.516
境港市	10,796	367	2,606	2,973	27.5	701	1,905	2	12	1,919	0.404
岩美町	4,245	351	728	1,079	25.4	62	691	1	4	696	0.371
八頭町	5,674	722	1,320	2,042	36.0	221	1,125	2	13	1,140	0.637
若桜町	1,336	60	552	612	45.8	41	516	0	0	516	0.000
智頭町	2,723	106	718	824	30.3	47	683	0	0	683	0.000
湯梨浜町	5,319	403	1,187	1,590	29.9	294	912	3	5	920	0.314
三朝町	2,336	209	442	651	27.9	289	165	2	0	167	0.000
北栄町	5,250	344	1,248	1,592	30.3	253	1010	6	5	1021	0.314
琴浦町	6,243	316	1,103	1,419	22.7	355	765	2	6	773	0.423
南部町	3,722	141	1,186	1,327	35.7	86	1,094	4	5	1,103	0.377
伯耆町	4,091	239	904	1,143	27.9	79	832	0	2	834	0.175
日吉津村	981	103	263	366	37.3	92	176	0	0	176	0.000
大山町	6,342	437	560	997	15.7	119	463	1	4	468	0.401
日南町	2,198	137	298	435	19.8	46	255	1	2	258	0.460
日野町	1,340	90	116	206	15.4	55	65	0	0	65	0.000
江府町	1,226	77	252	329	26.8	183	73	0	2	75	0.608
合 計	181,414	7,156	40,086	47,242	26.0	7,306	33,016	48	146	33,210	0.309
東 部	71,611	3,510	16,045	19,555	27.3	2,150	14,037	15	58	14,110	0.297
中 部	35,311	1,592	7,151	8,743	24.8	1,754	5,458	19	34	5,511	0.389
西 部	74,492	2,054	16,890	18,944	25.4	3,402	13,521	14	54	13,589	0.285

(5) 令和5年度胃がん検診発見胃がん確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
確定胃癌数 癌発見率%	7 0.225	0 0.000	54 0.337	1 0.063	0 0.000	34 0.475	3 0.165	0 0.000	53 0.314	152 0.326
	61 0.318			35 0.401			56 0.299			
早期癌数 早期癌率%	6 53 86.9	0	47	1 29 82.9	0 29 82.9	28	3 47 83.9	0 0 0	44	129 84.9
進行癌数	1	0	7	0	0	6	0	0	9	23
切除例 内視鏡切除例	1 6	0	9 43	0 1	0 0	5 26	0 3	0 0	5 41	20 120
非切除例	0	0	2	0	0	3	0	0	7	12

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	1	1	21	61	28	112
女	1	0	11	21	7	40

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
I	1	0	1	0	0	2	0	0	6	10 8%
I + II a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0%
II a	0	0	3	0	0	7	0	0	7	17 13%
II a + II b	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 1%
II b	0	0	4	0	0	0	0	0	1	5 4%
II c	4	0	34	1	0	14	3	0	25	81 63%
II c + I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0%
II c + II a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0%
II c + III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0%
II b + II c	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1 1%
II a + II c	1	0	4	0	0	2	0	0	4	11 9%
III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0%
不明	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3 2%
計	6	0	47	1	0	28	3	0	44	129

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診		
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4%
2	1	0	4	0	0	1	0	0	2	8	35%
3	0	0	1	0	0	3	0	0	2	6	26%
4	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	13%
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5	22%
計	1	0	7	0	0	6	0	0	9	23	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診		
t1a	6	0	39	1	0	22	2	0	33	103	
t1b	0	0	8	0	0	5	1	0	9	23	
t2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	
t3	0	0	5	0	0	3	0	0	4	12	
t4a	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	
t4b	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
計	7	0	54	1	0	33	3	0	48	146	
不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	5	6	

表6 切除例の大きさ

mm	~ 10	11 ~ 20	小計 (%)		21 ~ 50	51 ~	計	不 明
車	2	7	9	82%	2	0	11	0
施	0	0	0	0%	0	0	0	0
内	33	41	74	59%	38	14	126	15
計	35	48	83	61%	40	14	137	15

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	20
M	6	0	46
L	4	0	51
全 体	0	0	0
計	10	0	117
不 明	0	0	2

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	1	0	40
大 弯	2	0	20
前 壁	5	0	28
後 壁	1	0	28
全 周	0	0	0
計	9	0	116
不 明	1	0	3

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	2
M	1	0	10
L	0	0	6
D	0	0	0
全 体	0	0	0
計	1	0	18
不 明	0	0	4

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	1	0	3
大 弯	0	0	1
前 壁	0	0	5
後 壁	0	0	4
全 周	0	0	4
計	1	0	17
不 明	0	0	5

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	X 線	内		
I A	6	0	44	0	0	22	3	0	41	9	0	107	9	90.00%	107	85.60%
I B	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	3	1	10.00%	3	2.40%
II A	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0.00%	4	3.20%
II B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%	0	0.00%
III A	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	5	0	0.00%	5	4.00%
III B	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0.00%	3	2.40%
III C	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0.00%	1	0.80%
IV	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0.00%	2	1.60%
計	7	0	51	0	0	28	3	0	46	10	0	125	10	100%	125	100%
不明	0	0	3	1	0	6	0	0	7	1	0	16	1		16	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

令和5年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）121,933人のうち、受診者数29,942人、受診率24.6%で、令和4年度に比べ、受診率は0.3ポイント減であった。

このうち、20歳から69歳の値は、対象者数49,063人、受診者数23,444人、受診率47.8%であった。

要精検者数は202人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が13人であった。要精検率は0.67%で、令和4年度に比べ0.49ポイント減少した。

精検受診者数169人、精検受診率83.7%で令和4年度に比べ2.8ポイント増加した。

精検の結果、がん1人、がん発見率（がん/受診者数）は0.003%で、令和4年度に比べ0.017ポイント減少した。

陽性反応適中度（がん/要精検者数）は0.5%であった。上皮内病変は73人（CIN3 16人、CIN2 14人、CIN1 42人、CIN2か3区別不能0人）であった。

国のプロセス指標（対象年齢20～74歳）と比較すると、精検受診率及びがん発見率は国の基準値には届いていないが、要精検率及び陽性反応適中度は基準値を満たしている状況である。

精密検査結果のうち、上皮内病変が43.3%を占めており、若年者層から多く見つかっている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	8,818 (29.5%)	45 (44)	0.51 (0.50)	0.62	0.38	0.42
施設検診 (病院・診療所)	21,124 (70.5%)	157 (149)	0.74 (0.71)	0.88	0.45	0.72
計	29,942 (100%)	202 (193)	0.67 (0.64)	0.78	0.42	0.68

※要精検者数の（ ）は、判定不能の者のうち、再検が未実施者のを除く

(2) 精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
車検診	37	82.2	0	0.000	0.000	0.000	0.000
施設検診	132	84.1	1	0.005	0.013	0.000	0.000
計	169	83.7	1	0.003	0.008	0.000	0.000

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	上皮内病変	がん	がん発見率(%)
東 部	4,540	28	0.62	25	89.3	13	0	0.000
中 部	2,392	9	0.38	6	66.7	1	0	0.000
西 部	1,886	8	0.42	6	75.0	2	0	0.000
計	8,818	45	0.51	37	82.2	16	0	0.000

(2) 施設検診検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	上皮内病変	がん	がん発見率(%)
東 部	7,864	69	0.88	59	85.5	37	1	0.013
中 部	2,898	13	0.45	9	69.2	5	0	0.000
西 部	10,362	75	0.72	64	85.3	15	0	0.000
計	21,124	157	0.74	132	84.1	57	1	0.005

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者29,942人中、体部がん検診対象者数は1,222人、一次検診会場での受診者は1,003人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は153人、受診者の合計は1,156人、受診率は94.6%であった。

一次検診の結果、要精検となった者は0人であった。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

令和5年度は子宮頸部癌は1例で、I B期以上であった。治療対象のCIN3またはAISは17例であった。CIN1、2または腺異形成は57例であった。令和4年度に比べ、子宮頸部癌は5例減少、CIN3またはAISは3例増加した。なお、I B期以上1例の検診歴は、初回受診であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌と子宮内膜増殖症は0例であった。

4. その他

1) 令和5年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

令和5年度実績は、妊婦健康診査受診者3,134人中、子宮頸部がん検診受診者数3,109人、受診率99.2%で、要精検者数38人、要精検率1.2%、精検受診者数33人、精検受診率86.8%で精検結果はがんが2人（20～24歳1人、35～39歳1人）発見された。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一次検診	対象者数(人) A	129,896	129,896	129,896	121,933	121,933	121,933
	受診者数(人) B	32,455	32,318	29,851	30,942	30,310	29,942
	受診率(%) C = B / A	25.0	24.9	23.0	25.4	24.9	24.6
一次検診結果	異常認めず(人) D	31,906	31,838	29,304	30,555	29,936	29,740
	要精検者数(人) E	549	466	534	369	351	202
	判定不能(人) F	45	14	13	18	23	13
精密検査	要精検率(%) G = E / B	1.69	1.44	1.79	1.19	1.16	0.67
	精検受診者数(人) H	430	396	467	297	284	169
	精検受診率(%) I = H / E	78.3	85.0	87.5	80.5	80.9	83.7
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	9(189)	6(127)	6(144)	2(118)	6(90)	1(73)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.00
	陽性反応適中度(%) L = J / E	1.6	1.3	1.1	0.5	1.7	0.5
確定調査結果	確定がん数(人) M	5	5	6	2	6	1
	確定がん率(%) N = M / B	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.00

* 1 精密検査結果欄の（ ）内の数値は、平成29年度までは異形成者の、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上

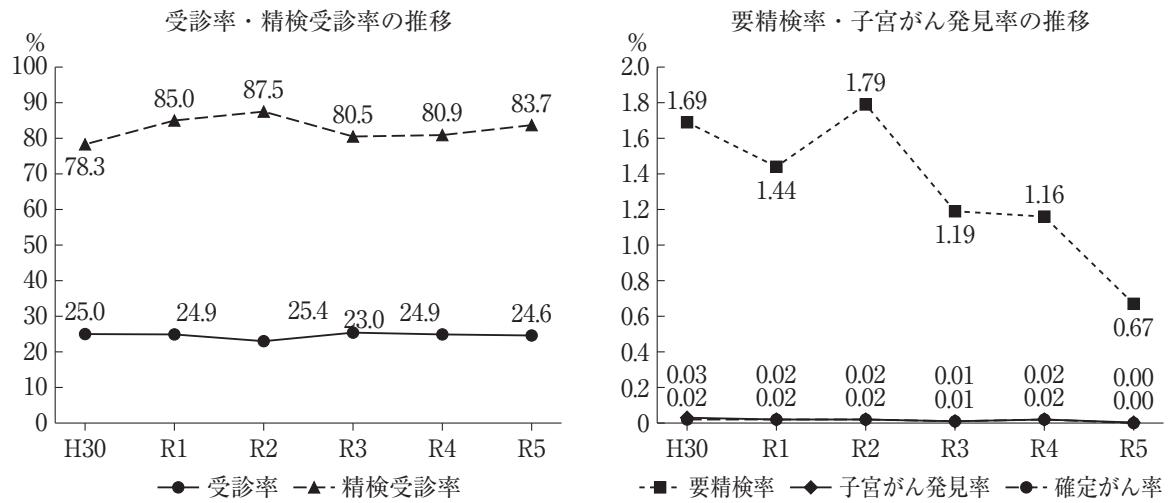
* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

* 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

* 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上

* 5 対象者数について、平成20年度報告から、20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚労省が示す算定式により算出した推計数を計上

* 6 要精検者数について、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上



(2) 令和5年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20~24歳	3,556	589	16.6	180	15	0	574	2.55
25~29歳	2,496	1,105	44.3	566	25	0	1,080	2.26
30~34歳	3,195	1,673	52.4	1,064	25	0	1,648	1.49
35~39歳	3,565	2,255	63.3	1,666	36	2	2,219	1.60
40~44歳	3,512	2,900	82.6	2,192	28	0	2,872	0.97
45~49歳	3,799	3,108	81.8	2,473	35	1	3,073	1.13
50~54歳	3,589	2,895	80.7	2,359	11	3	2,884	0.38
55~59歳	4,281	2,469	57.7	2,049	7	1	2,462	0.28
60~64歳	7,615	3,036	39.9	2,541	6	3	3,030	0.20
65~69歳	13,455	3,414	25.4	3,000	5	0	3,409	0.15
70~74歳	17,509	3,398	19.4	3,064	7	3	3,391	0.21
75~79歳	15,094	2,085	13.8	1,940	2	0	2,083	0.10
80歳以上	40,267	1,015	2.5	831	0	0	1,015	0.00
計	121,933	29,942	24.6	23,925	202	13	29,740	0.67

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数	精密検査受診率 (%)	精密検査結果											子宮がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
			異常認めず	子宮がん	うち微小浸潤がん	上皮内病変			その他			未受診	未把握		
f	g = f/d	h	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患						i = h/b	k = h/d
20~24歳	12	80.0	4	0	0	0	1	3	0	2	2	1	1	0.000	0.0
25~29歳	24	96.0	8	0	0	0	1	7	0	5	3	0	1	0.000	0.0
30~34歳	21	84.0	4	0	0	0	3	10	0	2	2	1	4	0.000	0.0
35~39歳	28	77.8	6	0	0	4	2	9	0	3	4	2	2	0.000	0.0
40~44歳	27	96.4	4	0	0	6	5	3	0	4	5	0	0	0.000	0.0
45~49歳	32	91.4	9	1	0	2	1	7	0	6	6	1	1	0.032	2.9
50~54歳	7	63.6	2	0	0	2	0	1	0	0	2	1	2	0.000	0.0
55~59歳	5	71.4	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0.000	0.0
60~64歳	3	50.0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.000	0.0
65~69歳	5	100.0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0.000	0.0
70~74歳	4	57.1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0.000	0.0
75~79歳	1	50.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	169	83.7	42	1	0	17	14	42	0	26	27	6	12	0.003	0.5

3) 検診機関別

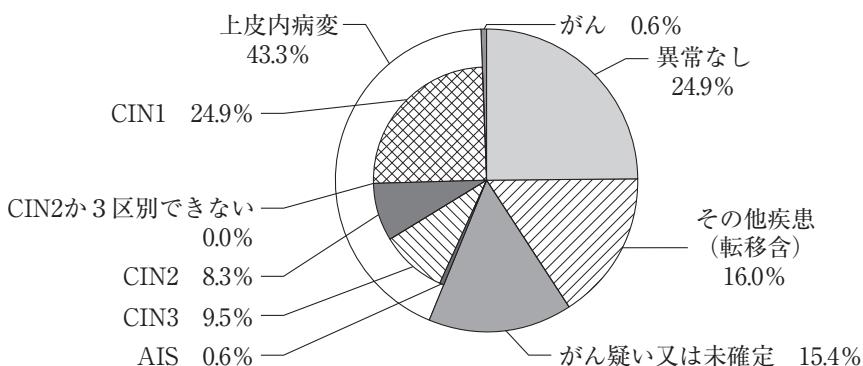
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	8,489	43	0	8,446	0.51
中国労働衛生協会	329	2	1	327	0.61
病院	6,551	16	3	6,535	0.24
診療所	14,573	141	9	14,432	0.97
計	29,942	202	13	29,740	0.67

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数	精密検査受診率 (%)	精密検査結果											子宮がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
			異常認めず	子宮がん	うち微小浸潤がん	上皮内病変			その他			未受診	未把握		
d'	e' = d'/b'	f'	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患						g' = f'/a'	h' = f'/b'
保健事業団	36	83.7	17	0	0	4	4	7	0	3	1	3	2	0.000	0.0
中国労働衛生協会	1	50.0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
病院	11	68.8	3	0	0	1	0	4	0	0	3	0	1	0.000	0.0
診療所	121	85.8	22	1	0	12	9	31	0	23	23	3	9	0.007	0.7
計	169	83.7	42	1	0	17	14	42	0	26	27	6	12	0.003	0.5

精密検査結果 (受診者数 = 169人)



4) 令和5年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員											
		車検診	施設検診	計	受診率(%)	車検診	施設検診	計	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	異常認めず	その他疾患等	がん又は上皮内病変	がん	上皮内病変	有所見者	がん発見率(%)	陽性反応適中度(%)
	A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N = O + P	O	P	Q = M + N	R = O/D	S = O/H
鳥取市	39,440	2,833	6,978	9,811	24.9	20	59	79	0.81	72	91.1	17	10	45	1	44	55	0.010	1.3
米子市	31,241	86	7,134	7,220	23.1	0	57	57	0.79	50	87.7	9	29	12	0	12	41	0.000	0.0
倉吉市	10,745	423	1,510	1,933	18.0	2	7	9	0.47	5	55.6	2	1	2	0	2	3	0.000	0.0
境港市	7,293	401	1,540	1,941	26.6	3	10	13	0.67	10	76.9	3	5	2	0	2	7	0.000	0.0
岩美町	2,633	449	282	731	27.8	3	4	7	0.96	7	100.0	5	0	2	0	2	2	0.000	0.0
八頭町	3,578	859	372	1,231	34.4	4	4	8	0.65	3	37.5	0	0	3	0	3	3	0.000	0.0
若桜町	810	173	55	228	28.1	0	1	1	0.44	1	100.0	0	1	0	0	0	1	0.000	0.0
智頭町	1,680	226	177	403	24.0	1	1	2	0.50	1	50.0	0	0	1	0	1	1	0.000	0.0
湯梨浜町	3,362	566	466	1,032	30.7	4	3	7	0.68	5	71.4	3	0	2	0	2	2	0.000	0.0
三朝町	1,461	250	127	377	25.8	1	1	2	0.53	2	100.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
北栄町	3,293	589	453	1,042	31.6	2	0	2	0.19	1	50.0	0	1	0	0	0	1	0.000	0.0
琴浦町	3,907	564	342	906	23.2	0	2	2	0.22	2	100.0	0	0	2	0	2	2	0.000	0.0
南部町	2,324	220	463	683	29.4	0	2	2	0.29	2	100.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
伯耆町	2,610	313	238	551	21.1	1	2	3	0.54	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	714	68	236	304	42.6	1	1	2	0.66	2	100.0	0	1	1	0	1	2	0.000	0.0
大山町	3,884	504	414	918	23.6	2	3	5	0.54	5	100.0	1	3	1	0	1	4	0.000	0.0
日南町	1,329	132	61	193	14.5	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	853	162	13	175	20.5	1	0	1	0.57	1	100.0	0	0	1	0	1	1	0.000	0.0
江府町	776	0	263	263	33.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合 計	121,933	8,818	21,124	29,942	24.6	45	157	202	0.67	169	83.7	42	53	74	1	73	127	0.003	0.5
東 部	48,141	4,540	7,864	12,404	25.8	28	69	97	0.78	84	86.6	22	11	51	1	50	62	0.008	1.0
中 部	22,768	2,392	2,898	5,290	23.2	9	13	22	0.42	15	68.2	6	3	6	0	6	9	0.000	0.0
西 部	51,024	1,886	10,362	12,248	24.0	8	75	83	0.68	70	84.3	14	39	17	0	17	56	0.000	0.0

※1 令和5年度から上皮内病変には「AIS」「CIN3」「CIN2」「CIN1」及び「HSIL」の合計を計上

※2 平成30年度から「その他疾患には「子宮頸部がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんを含む」」を計上

(3) 子宮体部がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区分		平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計
一次検診	対象者数(人) A	1,197		1,197	1,476		1,476	1,231		1,231
	受診者数(人) B	964	157	1,121	1,031	163	1,194	1,040	126	1,166
	受診率(%) C = B / A	80.5		93.7	69.9		80.9	84.5		94.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	919			1,000			1,006		
	要精検者数(人) E	32			24			26		
	判定不能(人) F	13			7			8		
	要精検率(%) G = E / B	3.32			2.33			2.50		
精密検査	精検受診者数(人) H	24			19			23		
	精検受診率(%) I = H / E	75.0			79.2			88.5		
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	4(2)	0(1)	4(3)	3(2)	3(1)	6(3)	4(6)	0(0)	4(6)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.41	0.00	0.36	0.29	1.84	0.50	0.38	0.00	0.34
	陽性反応適中度(%) L = J / E	12.5			12.5			15.4		
確定調査結果	確定がん数(人)	4	0	4	3	3	6	4	0	4
	確定がん率(%)			0.36			0.50			0.34
区分		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計
一次検診	対象者数(人) A	1,502		1,502	1,227		1,227	1,222		1,222
	受診者数(人) B	1,093	125	1,218	984	170	1,154	1,003	153	1,156
	受診率(%) C = B / A	72.8		81.1	80.2		94.1	82.1		94.6
一次検診結果	異常認めず(人) D	1,055			953			995		
	要精検者数(人) E	29			25			0		
	判定不能(人) F	9			6			8		
	要精検率(%) G = E / B	2.65			2.54			0.00		
精密検査	精検受診者数(人) H	23			20			0		
	精検受診率(%) I = H / E	79.3			80.0			0.0		
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	6(3)	3(2)	9(5)	6(3)	1(1)	7(4)	0(0)	0(0)	0(0)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.55	2.40	0.74	0.61	0.59	0.61	0.00	0.00	0.00
	陽性反応適中度(%) L = J / E	20.7			24.0			0.0		
確定調査結果	確定がん数(人)	6	3	9	6	3	9	0	0	0
	確定がん率(%)			0.74			0.78			0.00

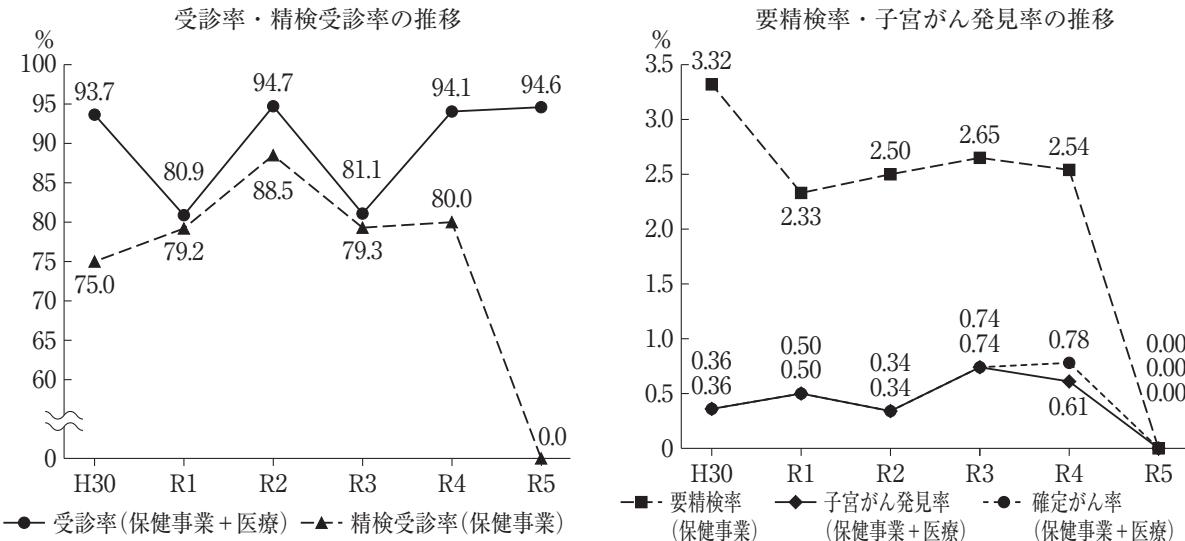
※1 「保健事業分」 = 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」 = 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者

※2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上

※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

※4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 令和5年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	一次検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検 f	異常認めず	判定不能	
20~24歳	589	0	0.00	—	0.0	0	0	0	0.00
25~29歳	1,105	12	1.09	8	66.7	0	8	0	0.00
30~34歳	1,673	66	3.95	52	78.8	0	52	0	0.00
35~39歳	2,255	104	4.61	86	82.7	0	86	0	0.00
40~44歳	2,900	152	5.24	121	79.6	0	119	2	0.00
45~49歳	3,108	279	8.98	236	84.6	0	233	3	0.00
50~54歳	2,895	254	8.77	207	81.5	0	207	0	0.00
55~59歳	2,469	110	4.46	93	84.5	0	93	0	0.00
60~64歳	3,036	85	2.80	64	75.3	0	64	0	0.00
65~69歳	3,414	65	1.90	54	83.1	0	53	1	0.00
70~74歳	3,398	58	1.71	48	82.8	0	47	1	0.00
75~79歳	2,085	31	1.49	28	90.3	0	27	1	0.00
80歳以上	1,015	6	0.59	6	100.0	0	6	0	0.00
計	29,942	1,222	4.08	1,003	82.1	0	995	8	0.00

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん 発見率 (%) k = j / d	陽性反応 適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮がん j		
20~24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25~29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30~34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35~39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40~44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45~49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
50~54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55~59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
60~64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65~69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70~74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75~79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年齢	体部がん検診受診者数	精密検査結果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20~24歳	0	0	0	0	0	0.00
25~29歳	3	3	0	0	0	0.00
30~34歳	9	9	0	0	0	0.00
35~39歳	10	10	0	0	0	0.00
40~44歳	18	18	0	0	0	0.00
45~49歳	31	31	0	0	0	0.00
50~54歳	37	37	0	0	0	0.00
55~59歳	14	14	0	0	0	0.00
60~64歳	15	15	0	0	0	0.00
65~69歳	8	8	0	0	0	0.00
70~74歳	6	6	0	0	0	0.00
75~79歳	2	2	0	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0.00
計	153	153	0	0	0	0.00

4) 令和5年度子宮体部がん検診受診状況（保健事業分）

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率（%）	陽性反応適中度（%）	
		車検診A	施設検診B	車検診C	受診率（%）E = D/A	車検診F	施設検診G	車検診H = F + G	精検受診者数I = H/D	精検受診率（%）K = J/H	異常認めずL	その他Mの疾病	がん又は子宮内膜増殖症N = O + P	がんP	子宮内膜増殖症Q = M + N	R = O/D
鳥取市	503	0	319	319	63.4	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
米子市	309	0	292	292	94.5	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
倉吉市	128	0	125	125	97.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
境港市	63	0	63	63	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	15	0	11	11	73.3	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	35	0	29	29	82.9	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	4	0	4	4	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	8	0	8	8	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	31	0	30	30	96.8	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	12	0	12	12	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	43	0	43	43	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	36	0	34	34	94.4	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	5	0	5	5	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	15	0	13	13	86.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	2	0	2	2	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	3	0	3	3	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	10	0	10	10	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
合 計	1,222	0	1,003	1,003	82.1	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
東 部	565	0	371	371	65.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
中 部	250	0	244	244	97.6	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
西 部	407	0	388	388	95.3	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0

(5) 令和5年度子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車 検 診		施 設 検 診	
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度
CIN1、2または腺異形成	8	12	63	45
CIN 3 または AIS	5	4	9	13
頸癌 I A 期	0	0	1	0
頸癌 I B 期以上	1	0	4	1
合 計	14	16	77	59

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	令和4年度	令和5年度
内膜増殖症	7	0
体癌 I A 期	3	0
体癌 I B 期以上	1	0
合 計	11	0

表3 発見子宮がん症例（I B 期以上）のがん検診受診歴

受 診 歴	車 検 診	施 設 検 診	計
前 年 受 診	0	0	0
2 年 間 隔	0	0	0
3 年 以 上 の 間 隔	0	0	0
初 回 受 診	0	1	1

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	5	0	0	5
鳥取県立中央	4	0	0	4
鳥取県立厚生病院	2	0	0	2
鳥取市立病院	2	0	0	2
山陰労災病院	1	0	0	1
鳥取赤十字病院	1	0	0	1
彦名クリニック	1	0	0	1
脇田産婦人科医院	1	0	0	1
県外など	0	0	1	1
計	17	0	1	18

3. 肺がん検診

1. 肺がん検診実績

令和5年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数52,503人、受診率28.9%で令和4年度に比べ0.5ポイント減であった。

このうち、40歳から69歳の値は、対象者数63,987人、受診者数20,045人、受診率31.3%であった。

要精検者は1,937人、要精検率3.69%で前年度より0.31ポイント増であった。精密検査受診者は1,714人、精検受診率は88.5%で前年度より0.5ポイント増であった。原発性肺がんは35人で令和4年度に比べ2人減少した。肺がん疑いは96人であった。肺がん発見率は0.067%、陽性反応適中度は1.8%で、令和4年度に比べがん発見率は0.002ポイント、陽性反応適中度は0.3ポイント減少した。

国のプロセス指標（対象年齢40～74歳）と比較すると、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも基準値に届いていない状況である。

施設検診受診者数の増加と車検診受診者数の減少傾向とが続いているが、施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診3.80%、車検診3.45%であり、施設健診の方が0.35ポイント高かった。地区別では、西部地区の要精検率が高い。

X線受診者総数52,503人のうち経年受診者は38,366人、経年受診率73.1%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,263人（13.8%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は1,626人で、X線検査受診者の3.1%、要精検者は1人、精検受診者1人で、がんが1人発見されている。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者ががん発見率の比較では、経年受診者ががん発見率は0.068%、非経年受診者ががん発見率は0.064%であった。また、高危険群所属者7,263人のうち、がんが12人発見され、がん発見率0.165%、非高危険群所属者45,240人のうち、がんが23人発見され、がん発見率0.051%で、高危険群所属者の方が約3倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	16,867 (32.1%)	582	3.45	3.08	2.75	4.49
施設検診 (病院・診療所)	35,636 (67.9%)	1,355	3.80	3.81	3.91	3.76
計	52,503 (100%)	1,937	3.69	3.59	3.36	3.96

(2) 精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
車検診	510	87.6	10	0.059	0.090	0.021	0.054
施設検診	1,204	88.9	25	0.070	0.087	0.059	0.056
計	1,714	88.5	35	0.067	0.088	0.041	0.055

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん疑い	がん	がん発見率(%)
東部	6,664	205	3.08	187	91.2	13	6	0.090
中部	4,663	128	2.75	108	84.4	17	1	0.021
西部	5,540	249	4.49	215	86.3	8	3	0.054
計	16,867	582	3.45	510	87.6	38	10	0.059

(2) 施設検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん疑い	がん	がん発見率(%)
東部	16,153	615	3.81	550	89.4	30	14	0.087
中部	5,111	200	3.91	177	88.5	11	3	0.059
西部	14,372	540	3.76	477	88.3	17	8	0.056
計	35,636	1,355	3.80	1,204	88.9	58	25	0.070

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者 = 昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年度	全体(X線受診者数)			経年受診者数(率)		
	男	女	計	男	女	計
R 3	21,875	32,019	53,894	14,452 (66.1%)	20,968 (65.5%)	35,420 (65.7%)
R 4	21,897	31,380	53,277	15,937 (72.8%)	23,023 (73.4%)	38,960 (73.1%)
R 5	21,614	30,889	52,503	15,777 (73.0%)	22,589 (73.1%)	38,366 (73.1%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経年受診者			非経年受診者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	がん	がん発見率(%)	受診者数	がん	がん発見率(%)	
R 3	35,420	14	0.040	18,474	10	0.054	1.37
R 4	38,960	25	0.064	14,317	12	0.084	1.31
R 5	38,366	26	0.068	14,137	9	0.064	0.94

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者 = 肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体(X線受診者数)			高危険群所属者数(率)			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	男	女	計	男	女	計	
R 3	21,875	32,019	53,894	6,874 (31.4%)	364 (1.1%)	7,238 (13.4%)	
R 4	21,897	31,380	53,277	7,109 (32.5%)	369 (1.2%)	7,478 (14.0%)	
R 5	21,614	30,889	52,503	6,894 (31.9%)	369 (1.2%)	7,263 (13.8%)	

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	がん	がん発見率(%)	受診者数	がん	がん発見率(%)	
R 3	7,238	10	0.138	46,656	14	0.030	4.60
R 4	7,478	16	0.214	45,799	21	0.046	4.67
R 5	7,263	12	0.165	45,240	23	0.051	3.25

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者 = X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	がん	がん発見率 (%)
R 3	7,238	2,079	2	0.10	2	0	0.000
R 4	7,478	1,739	1	0.06	1	1	0.058
R 5	7,263	1,626	1	0.06	1	1	0.062

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数(人)

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
R 3	24	24	0	0
R 4	37	36	0	1
R 5	35	34	0	1

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年度から令和5年度までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,825例、内訳は原発性肺癌1,659例、転移性肺腫瘍166例であった。

令和5年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺癌47例、転移性肺腫瘍2例、合計49例の肺がん確定診断を得た。
- (2) 発見された原発性肺癌は46例（97.9%）が胸部X線で発見され、胸部X線と喀痰細胞診で1例（2.1%）発見された。
- (3) 対人口10万人あたりの原発性肺癌発見者は90人であった。
- (4) 原発性肺癌の平均年齢は76.4歳、男性33例、女性は14例、臨床病期はⅠA期15例（31.9%）、Ⅰ期17例（36.2%）であった。組織型は、腺癌は29例（61.7%）であった。
- (5) 手術症例の割合は22例（46.8%）、術後病期Ⅰ期の肺癌は13例（59.1%）であった。腺癌が18例（81.8%）で圧倒的に多かった。
- (6) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均31.4mm（前年度30.9mm）であった。最高は77mmだった。
- (7) 転移性肺腫瘍は2例あり、甲状腺癌1例、膵癌1例であった。
- (8) 原発性肺癌確定者の施設検診と車検診の比較では、手術なしが施設検診では多かった。

(1) 肺がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一次検診	対象者数(人) A	189,132	189,132	189,132	181,414	181,414	181,414
	受診者数(人) B	55,050	54,671	49,733	53,894	53,277	52,503
	受診率(%) C = B / A	29.1	28.9	26.3	29.7	29.4	28.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	53,032	52,549	47,886	51,933	51,476	50,566
	要精検者数(人) E	2,023	2,123	1,850	1,963	1,801	1,937
	要精検率(%) F = E / B	3.67	3.88	3.72	3.64	3.38	3.69
精密検査	精検受診者数(人) G	1,839	1,887	1,664	1,759	1,584	1,714
	精検受診率(%) H = G / E	90.9	88.9	89.9	89.6	88.0	88.5
精密検査結果	肺がんの者(人) I	31(115)	46(104)	42(68)	28(90)	42(75)	36(96)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	31	38	32	24	37	35
	肺がん発見率(%) K = J / B	0.06	0.07	0.06	0.04	0.07	0.07
確定調査結果	陽性反応適中度(%) L = J / E	1.5	1.8	1.7	1.2	2.1	1.8
	確定がん数(人) M	52	63	59	41	50	49
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	49	59	55	38	48	47
確定調査結果	確定がん率(%) O = N / B	0.09	0.12	0.12	0.08	0.09	0.09

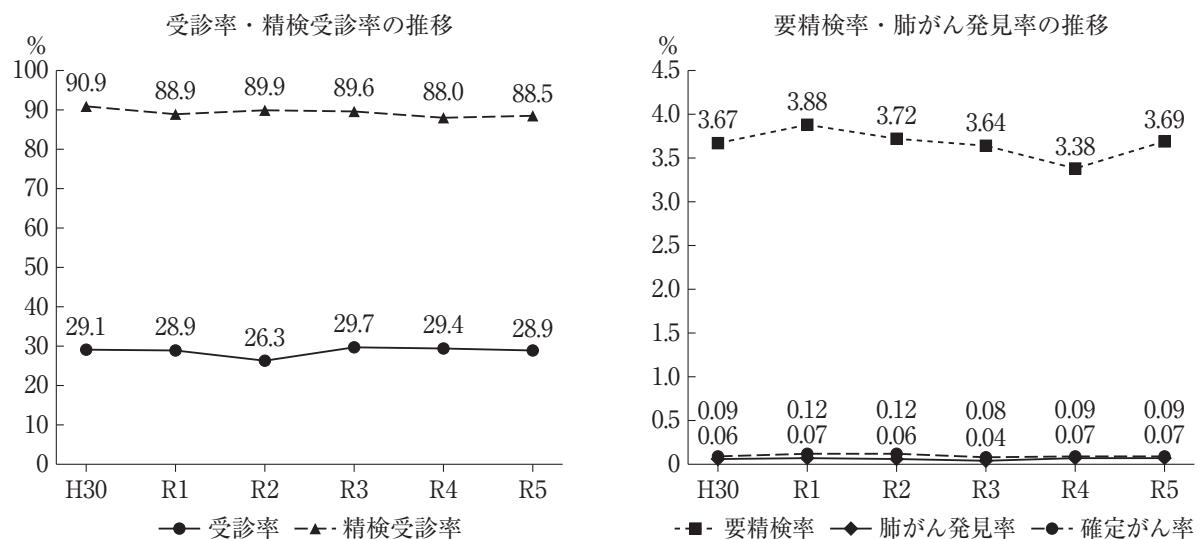
* 1 精密検査結果中の（ ）内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上

* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

* 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出

* 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上

* 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E 判定者数を計上



(2) 令和5年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸部エックス線検査								エックス線フィルム読影結果						
			一次検診受診者数		受診率(%)			経年受診者数再掲※		経年受診者割合(%)		要精検者数		要精検率(%)			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
40~44歳	2,972	3,512	609	1,069	20.5	30.4	25.9	210	403	34.5	37.7	10	16	1.64	1.50	1.55	
45~49歳	3,210	3,799	677	1,097	21.1	28.9	25.3	380	620	56.1	56.5	19	13	2.81	1.19	1.80	
50~54歳	2,743	3,589	759	1,263	27.7	35.2	31.9	461	764	60.7	60.5	19	27	2.50	2.14	2.27	
55~59歳	2,891	4,281	756	1,374	26.2	32.1	29.7	444	867	58.7	63.1	23	35	3.04	2.55	2.72	
60~64歳	5,176	7,615	1,415	2,658	27.3	34.9	31.8	852	1,760	60.2	66.2	61	74	4.31	2.78	3.31	
65~69歳	10,744	13,455	3,458	4,910	32.2	36.5	34.6	2,393	3,625	69.2	73.8	123	163	3.56	3.32	3.42	
70~74歳	14,256	17,509	5,475	6,824	38.4	39.0	38.7	4,256	5,340	77.7	78.3	213	224	3.89	3.28	3.55	
75~79歳	11,216	15,094	4,245	5,610	37.8	37.2	37.5	3,429	4,523	80.8	80.6	162	227	3.82	4.05	3.95	
80歳以上	19,085	40,267	4,220	6,084	22.1	15.1	17.4	3,352	4,687	79.4	77.0	224	304	5.31	5.00	5.12	
計	72,293	109,121	21,614	30,889	29.9	28.3	28.9	15,777	22,589	73.0	73.1	854	1,083	3.95	3.51	3.69	
合計	181,414		52,503			28.9			38,366			73.1		1,937		3.69	

※経年受診者 = 昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 咳痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中高危険群所属者※	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とともに要精検	一次検診総合結果						
				要精検者数	精 檢 不 要	要精検率(%)	要精検者数		要精検率(%)			要精検者数		要精検率(%)			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	男	女	男	女	計	
40~44歳	0	0	2	0	0	0	2	0	0.00	0.00	0	0	10	16	1.64	1.50	1.55
45~49歳	0	0	2	0	0	0	2	0	0.00	0.00	0	0	19	13	2.81	1.19	1.80
50~54歳	160	38	27	11	0	0	27	11	0.00	0.00	0	0	19	27	2.50	2.14	2.27
55~59歳	202	32	60	6	0	0	60	6	0.00	0.00	0	0	23	35	3.04	2.55	2.72
60~64歳	474	49	124	6	0	0	124	6	0.00	0.00	0	0	61	74	4.31	2.78	3.31
65~69歳	1,201	64	298	15	0	0	298	15	0.00	0.00	0	0	123	163	3.56	3.32	3.42
70~74歳	2,111	80	505	20	0	0	505	20	0.00	0.00	0	0	213	224	3.89	3.28	3.55
75~79歳	1,611	64	322	11	1	0	321	11	0.31	0.00	1	0	162	227	3.82	4.05	3.95
80歳以上	1,135	42	204	13	0	0	204	13	0.00	0.00	0	0	224	304	5.31	5.00	5.12
計	6,894	369	1,544	82	1	0	1,543	82	0.06	0.00	1	0	854	1,083	3.95	3.51	3.69
合 計	7,263		1,626		1		1,625		0.06		1		1,937		3.69		

※高危険群所属者 = 肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの

年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲) n		精密検査受診者数 o		精密検査受診率 (%) p = o / n		精密検査結果						肺がん発見率(%)			陽性反応適中度 (%) s = q / n								
							異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん											
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計							
40~44歳	10	16	8	13	80.0	81.3	80.8	7	7	1	5	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0					
45~49歳	19	13	16	11	84.2	84.6	84.4	7	5	7	5	2	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0					
50~54歳	19	27	15	22	78.9	81.5	80.4	10	17	4	5	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0					
55~59歳	23	35	15	31	65.2	88.6	79.3	9	16	6	12	0	3	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0					
60~64歳	61	74	54	67	88.5	90.5	89.6	26	31	27	32	1	4	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0					
65~69歳	123	163	107	152	87.0	93.3	90.6	49	67	51	82	4	3	3	0	0.087	0.000	0.036	2.4 0.0 1.0					
70~74歳	213	224	175	210	82.2	93.8	88.1	66	96	88	96	13	13	8	5	0.146	0.073	0.106	3.8 2.2 3.0					
75~79歳	162	227	154	217	95.1	95.6	95.4	58	96	77	109	12	9	7	3	0.165	0.053	0.101	4.3 1.3 2.6					
80歳以上	224	304	191	256	85.3	84.2	84.7	67	116	104	122	14	15	6	3	0.142	0.049	0.087	2.7 1.0 1.7					
計	854	1,083	735	979	86.1	90.4	88.5	299	451	365	468	47	49	24	11	0.111	0.036	0.067	2.8 1.0 1.8					
合計	1,937		1,714		88.5		750		833		96		35		0.067		1.8							
X線のみ要精検	1,936		1,713		88.5		750		833		96		34		1.8									
喀痰のみ要精検	0		0		0.0		0		0		0		0											
X線+喀痰要精検	1		1		100.0		0		0		0		1											

3) 検診機関別

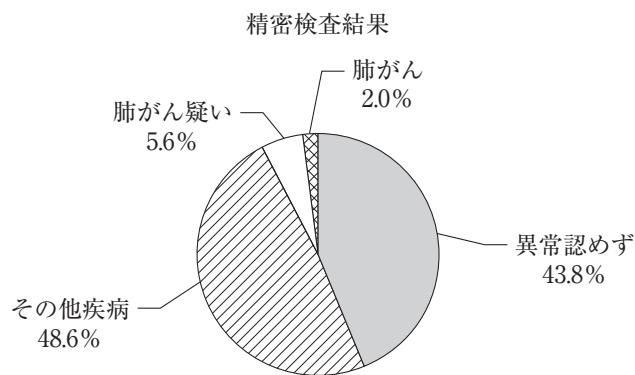
a. 一次検診結果

一次検診機関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果						X線検査受診者中高危険群所属者		
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率(%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保健事業団	6,169	9,777	4,733	7,400	238	316	5,931	9,461	3.86	3.23	3.47	1,949	90
中国労働衛生協会	309	612	244	457	11	17	298	595	3.56	2.78	3.04	34	3
病院	4,227	5,324	2,990	3,742	172	184	4,055	5,140	4.07	3.46	3.73	1,307	59
診療所	10,909	15,176	7,810	10,990	433	566	10,476	14,610	3.97	3.73	3.83	3,604	217
計	21,614	30,889	15,777	22,589	854	1,083	20,760	29,806	3.95	3.51	3.69	6,894	369
合計	52,503		38,366		1,937		50,566		3.69		7,263		

一次検診機関	喀痰容器提出者数 d'	喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とともに要精検(C) g'	一次検診総合結果						
		要精検者数 e'		精検不要		要精検率(%) f' = e'/d'			要精検者数 h'		要精検率 (%) I' = h'/a'				
		男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	計		
保健事業団	272	11	0	0	272	11	0.00	0.00	0	0	238	316	3.86	3.23	3.47
中国労働衛生協会	22	0	0	0	22	0	0.00	0.00	0	0	11	17	3.56	2.78	3.04
病院	353	11	0	0	353	11	0.00	0.00	0	0	172	184	4.07	3.46	3.73
診療所	897	60	1	0	896	60	0.11	0.00	1	0	433	566	3.97	3.73	3.83
計	1,544	82	1	0	1,543	82	0.06	0.00	1	0	854	1,083	3.95	3.51	3.69
合計	1,626		1		1,625		0.06		1		1,937		3.69		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 j'		精密検査受診率 (%) k' = j'/h'			精密検査結果						肺がん発見率(%) m' = l'/a'			陽性反応適中度 (%) n' = l'/h'				
						異常認めず	その他疾病	肺がん疑い	肺がん l'										
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
保健事業団	202	283	84.9	89.6	87.5	85	116	93	144	18	20	6	3	0.097	0.031	0.056	2.5	0.9	1.6
中国労働衛生協会	8	17	72.7	100.0	89.3	3	8	4	9	0	0	1	0	0.324	0.000	0.109	9.1	0.0	3.6
病院	140	172	81.4	93.5	87.6	54	85	73	81	7	3	6	3	0.142	0.056	0.094	3.5	1.6	2.5
診療所	385	507	88.9	89.6	89.3	157	242	195	234	22	26	11	5	0.101	0.033	0.061	2.5	0.9	1.6
計	735	979	86.1	90.4	88.5	299	451	365	468	47	49	24	11	0.111	0.036	0.067	2.8	1.0	1.8
合計	1,714		88.5		750		833		96		35		0.067			1.8			



4) 令和5年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数	車検診			施設検診			受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員			がん陽性反応率(%)	発見率(%)
		A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+0	Q=O/D
鳥取市	57,633	3,505	13,402	16,907	29.3	110	501	611	3.61	547	89.5	246	257	30	14	301	0.083	2.3
米子市	43,796	894	10,432	11,326	25.9	37	407	444	3.92	402	90.5	188	192	15	7	214	0.062	1.6
倉吉市	16,163	549	2,778	3,327	20.6	20	105	125	3.76	113	90.4	51	49	10	3	62	0.090	2.4
境港市	10,796	752	2,511	3,263	30.2	35	81	116	3.56	101	87.1	25	73	3	0	76	0.000	0.0
岩美町	4,245	905	587	1,492	35.1	33	27	60	4.02	54	90.0	29	18	1	6	25	0.402	10.0
八頭町	5,674	1,794	927	2,721	48.0	52	45	97	3.56	87	89.7	35	44	8	0	52	0.000	0.0
若桜町	1,336	111	643	754	56.4	1	25	26	3.45	23	88.5	7	15	1	0	16	0.000	0.0
智頭町	2,723	349	594	943	34.6	9	17	26	2.76	26	100.0	10	13	3	0	16	0.000	0.0
湯梨浜町	5,319	1,102	891	1,993	37.5	35	35	70	3.51	58	82.9	20	32	6	0	38	0.000	0.0
三朝町	2,336	796	201	997	42.7	17	11	28	2.81	20	71.4	10	6	4	0	10	0.000	0.0
北栄町	5,250	1,197	738	1,935	36.9	33	25	58	3.00	51	87.9	23	21	6	1	28	0.052	1.7
琴浦町	6,243	1,019	503	1,522	24.4	23	24	47	3.09	43	91.5	21	20	2	0	22	0.000	0.0
南部町	3,722	279	1,184	1,463	39.3	9	47	56	3.83	44	78.6	20	23	0	1	24	0.068	1.8
伯耆町	4,091	864	245	1,109	27.1	46	5	51	4.60	44	86.3	18	21	4	1	26	0.090	2.0
日吉津村	981	232	0	232	23.6	5	0	5	2.16	4	80.0	3	1	0	0	1	0.000	0.0
大山町	6,342	1,347	0	1,347	21.2	58	0	58	4.31	46	79.3	23	22	1	0	23	0.000	0.0
日南町	2,198	389	0	389	17.7	29	0	29	7.46	24	82.8	11	12	1	0	13	0.000	0.0
日野町	1,340	227	0	227	16.9	9	0	9	3.96	9	100.0	3	4	1	1	6	0.441	11.1
江府町	1,226	556	0	556	45.4	21	0	21	3.78	18	85.7	7	10	0	1	11	0.180	4.8
合計	181,414	16,867	35,636	52,503	28.9	582	1,355	1,937	3.69	1,714	88.5	750	833	96	35	964	0.067	1.8
東部	71,611	6,664	16,153	22,817	31.9	205	615	820	3.59	737	89.9	327	347	43	20	410	0.088	2.4
中部	35,311	4,663	5,111	9,774	27.7	128	200	328	3.36	285	86.9	125	128	28	4	160	0.041	1.2
西部	74,492	5,540	14,372	19,912	26.7	249	540	789	3.96	692	87.7	298	358	25	11	394	0.055	1.4

(3) 令和5年度肺がん検診発見肺がん追跡調査の確定について

2025. 2. 6 現在

肺がん確定診断 (原発性1,659、転移性166)	1,825例
他部位癌 (鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5)	12例
総 計	1,837例

1) 肺がん確定診断

(単位: 例)

	昭和 62年	昭和 63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年	平成 10年	平成 11年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53	40	41
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2	7	7
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55	47	48

	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年
原発性肺癌	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65	55	49
転移性肺腫瘍	6	7	6	3	2	5	6	7	3	8	4	6	5
合 計	48	37	54	68	52	62	68	55	55	49	69	61	54

	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	合計
原発性肺癌	58	74	47	46	50	49	59	55	38	48	47	1,659
転移性肺腫瘍	4	7	1	4	3	3	4	4	3	2	2	166
合 計	62	81	48	50	53	52	63	59	41	50	49	1,825

2) 原発性肺がん診断方法

[令和5年度集計]									
胸 X 積 接 Dのみ 245例	1,549例(93.4%)					Dのみ 0例	46例(97.9%)		
Eのみ 1,304例						Eのみ 46例			
細胞診 Dのみ 23例	58例(3.5%)					Dのみ 0例	0例(0.0%)		
Eのみ 35例						Eのみ 0例			
胸X線間接と細胞診 D + D 11例	49例(3.0%)					D + D 0例	1例(2.1%)		
D + E 9例						D + E 0例			
E + D 6例						E + D 0例			
E + E 23例						E + E 1例			
不明 3例	3例(0.2%)					不明 0例	0例(0.0%)		
計 1,659例						計 47例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 元	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(73.7%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H 10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H 11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H 12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H 13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H 14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H 15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H 16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H 17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H 18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H 19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H 20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H 21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H 22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H 23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H 24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H 25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H 26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H 27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H 28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H 29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H 30	55,050	2,021(3.67%)	1,839(91.0%)	49	89
R 元	54,671	2,123(3.88%)	1,887(88.9%)	59	106
R 2	49,733	1,850(3.72%)	1,666(90.1%)	55	111
R 3	53,894	1,963(3.64%)	1,759(89.6%)	38	71
R 4	53,277	1,801(3.38%)	1,584(88.0%)	48	90
R 5	52,503	1,937(3.69%)	1,714(88.5%)	47	90
計	2,064,031	44,260(2.14%)	38,758(87.6%)	1,659	80

4) 原発性肺癌 (1,659例)

(1) 年齢・性別

[R 5 年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
~59歳	93	5.6%
60~69歳	484	29.2%
70~79歳	771	46.5%
80~	311	18.7%
計	1,659	100%

平均年齢 = 72.4
男 : 女 = 993例 : 665例 (不明 : 1例)

区分	原発性肺癌	比率 (%)
~59歳	0	0.0%
60~69歳	4	8.5%
70~79歳	29	61.7%
80~	14	29.8%
計	47	100%

平均年齢 = 76.4
男 : 女 = 33例 : 14例 (不明 : 0例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類 (第7版+8版)

臨床病期	
Occult	2
0	2
I A	700(42.2%)
I B	245
II A	61
II B	88
III A	185
III B	94
III C	6
IV	235
不明	41
計	1,659

[R5年度集計] (第8版)

臨床病期	(%)
Occult	0
0	0
I A	15(31.9%)
I B	2
II A	1
II B	4
III A	7
III B	1
III C	1
IV	13
不明	3
計	47

17(36.2%)
I期肺癌

多発癌は病期の
進んだ方を採用

I A の内訳……臨床病期 I A1: 1例、I A2: 7例、I A3: 7例

b. 組織型

組織型	
扁平上皮癌	347
腺癌	1055(63.5%)
大細胞癌	22
小細胞癌	98
腺扁平上皮癌	15
腺様囊胞癌	1
カルチノイド	1
不明	123
計	1,662*

[R5年度集計]

組織型	
扁平上皮癌	10
腺癌	29(61.7%)
大細胞癌	1
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	0
腺様囊胞癌	0
カルチノイド	0
不明	4
計	47

扁平上皮癌と腺癌混在
は主たる病変を採用

* 3例: 扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌、腺癌と腺癌 (**) の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(1,028例、手術率: 62.0%)

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期(例)	術後病期(例)
Occult	2
0	0(0.0%)
I A	620(60.3%)
I B	203
II A	40
II B	54
III A	84
III B	15
III C	0
IV	9
不明	1
計	1,028

[R5年度集計]

原発性肺癌の手術症例 (22例、手術率: 46.8%)

臨床病期(例)	術後病期(例)
Occult	0
0	0
I A*	15(68.2%)
I B	2
II A	3
II B	0
III A	2
III B	0
III C	0
IV	0
不明	0
計	22

13
(59.1%)

I A の内訳……*臨床病期 I A1: 1例、I A2: 7例、I A3: 7例

**術後病期 I A1: 5例、I A2: 4例、I A3: 4例

b. 組織型分類

[R 5年度集計]

組織型	(例)
扁平上皮癌	188
腺癌	777(75.6%)
大細胞癌	16
小細胞癌	11
腺扁平上皮癌	16
腺様囊胞癌	1
カルチノイド	1
不明	18
計	1,028

組織型	(例)
扁平上皮癌	4
腺癌	18(81.8%)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様囊胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	22

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2	2
11~20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.0)	11	26(41.9)	14(29.2)	21(40.4)	10	13
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.1)	15	18	6	13(31.7)	26(40.0)
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8	15
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6	6
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0	1
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm	29.4mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm	68mm	80mm

腫瘍径 (mm)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	R元年度 (%)	R2年度 (%)	R3年度 (%)	R4年度 (%)	R5年度 (%)
0~10	1	4	3	3	0	1	8	1	1	9	1(2.6)	4(8.3)	2(4.3)
11~20	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(28.6)	13	14(25.5)	10(26.3)	12(25.0)	9(19.1)
21~30	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	15	16(27.1)	11	14(36.8)	13(27.1)	14(29.8)
31~40	6	8	8	7	14	13	2	5	16(27.1)	6	4(10.5)	8(16.7)	9(19.1)
41~50	4	6	5	6	5	2	7	8	6	4(10.5)	4(8.3)	2(4.3)	
51~	11	2	6	5	3	2	8	5	2	8	2(5.3)	6(12.5)	7(14.9)
不明	1	2	0	4	0	1	0	2	3	1	3(7.9)	1(2.1)	4(8.5)
計	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55	38	48	47
平均	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	32.1mm	29.5mm	27.7mm	28.0mm	30.9mm	31.4mm
最高	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm	83mm	71mm	68mm	80mm	60mm	80mm	77mm

5) 転移性肺腫瘍 (166例)

大腸癌	34例	乳癌	21例	前立腺癌	16例	甲状腺癌	14例	腎臓癌	13例
肝臓癌	9例	胃癌	8例	子宮癌	5例	胆管癌	4例	膵臓癌	5例
尿管癌	4例	胆のう癌	4例	膀胱癌	4例	肺癌	3例	食道癌	2例
卵巢癌	2例	子宮肉腫	2例	胸腺癌	1例	肛門癌	1例	頸下腺癌	1例
咽頭癌	1例	後腹膜腫瘍	1例	卵管肉腫	1例	腹膜癌	1例	不明	9例
						合計	166例		

[R 5年度集計] (2例)

甲状腺癌：1例、膵癌：1例

6) 令和5年度原発性肺がん確定者の施設健診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	16,867	35,636
要精検数	582 (3.45) 東部：205 (3.08) 中部：128 (2.75) 西部：249 (4.49)	1,355 (3.80) 東部：615 (3.81) 中部：200 (3.91) 西部：540 (3.76)
確定者数	12名 (0.071) (東：7、中：2、西：3)	35名 (0.098) (東：17、中：5、西：13)
発見方法	E1：11、E2：1	E1：19、E2：1、E：15
年 齢	80.4	75.2
性 差	男性：8名 女性：4名	男性：25名 女性：10名
臨床病期	0 0名 I A 3名、I B 1名 II A 0名、II B 1名 III A 1名、III B 0名、III C 1名 IV 5名 不明0名	0 0名 I A 12名、I B 1名 II A 1名、II B 3名 III A 6名、III B 0名、III C 1名 IV 8名 不明3名
組 織 型	扁平上皮癌3名、腺癌6名 腺扁平上皮癌0名、大細胞癌0名 小細胞癌2名 不明 1名	扁平上皮癌7名、腺癌23名 腺扁平上皮癌0名、大細胞癌1名 小細胞癌1名 不明 3名
手 術	あり6名、なし6名	あり16名、なし19名
腫瘍 径	3.06cm	3.17cm

4. 乳がん検診

1. 乳がん検診実績

令和5年度の対象者数109,121人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）のうち、受診者数16,850人、受診率15.4%で、令和4年度より0.1ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値は、対象者数36,251人、受診者数11,322人、受診率31.2%であった。

要精検者数1,106人、要精検率6.56%で前年度より0.57ポイント増加した。精検受診者数1,055人、精検受診率は95.4%で、令和4年度より0.1ポイント増加した。

精検の結果、乳がん76人、がん発見率（がん/受診者数）0.45%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）6.87%であった。令和4年度に比べ、がん発見率は0.03ポイント増加した。陽性反応適中度は0.13ポイント減少した。

国のプロセス指標（対象年齢40～74歳）と比較すると、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は国が示す基準値を満たしているが、要精検率は、基準値に届いていない状況である。

〈検診機関別受診結果〉

（1）一次検診

区分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	6,993 (41.5%)	380	5.43
施設検診 (病院・診療所)	9,857 (58.5%)	726	7.37
計	16,850 (100%)	1,106	6.56

（2）精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
車検診	359	94.5	31	0.44
施設検診	696	95.9	45	0.46
計	1,055	95.4	76	0.45

〈圏域別結果〉

区分	対象者数	受診者数	受診率（%）	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
東部	42,827	6,903	16.12	4.87	331	98.5	26	0.38
中部	20,991	3,179	15.14	5.32	159	94.1	17	0.53
西部	45,303	6,768	14.94	8.88	565	94.0	33	0.49
計	109,121	16,850	15.44	6.56	1,055	95.4	76	0.45

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

令和5年度の確定乳癌は現時点で77例で前年度（72例）よりわずかに増加したが、例年と大きな変化はなかった。年代としては60歳代が最も多かったが、40歳代から70歳代まで症例数の差は少なかった。このため患者の平均年齢は61.7歳と前年度より3歳低下した。非浸潤癌は11例、Stage Iが43例で、早期癌の比率は70.1%で前年度の63.9%より上昇した。また、Stage IV症例は認めなかった。術式に関しては乳房切除術、腋窩郭清省略例が多く、前年度とほぼ同様であった。治療の進歩に伴い、従来と比較して手術以外の治療選択が多様化している。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一次検診	対象者数(人) A	115,469	115,469	115,469	109,121	109,121	109,121
	受診者数(人) B	19,075	19,228	16,249	17,631	16,933	16,850
	受診率(%) C = B / A	31.9 16.5	33.1 16.7	29.8 14.1	0.0 16.2	0.0 15.5	0.0 15.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	17,935	18,131	15,149	16,523	15,919	15,744
	要精検者数(人) E	1,140	1,097	1,100	1,108	1,014	1,106
	要精検率(%) F = E / B	5.98	5.71	6.77	6.28	5.99	6.56
精密検査	精検受診者数(人) G	1,078	1,034	1,049	1,050	966	1,055
	精検受診率(%) H = G / E	94.6	94.3	95.4	94.8	95.3	95.4
精密検査結果	乳がんの者(人) I	60(1)	73(0)	96(0)	78(6)	71(3)	76(3)
	乳がん発見率(%) J = I / B	0.31	0.38	0.59	0.44	0.42	0.45
	陽性反応適中度(%) K = I / E	5.26	6.65	8.73	7.04	7.00	6.87
確定調査結果	確定がん数(人) L	60	73	96	78	72	77
	確定がん率(%) M = L / B	0.31	0.37	0.59	0.44	0.43	0.46

* 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上

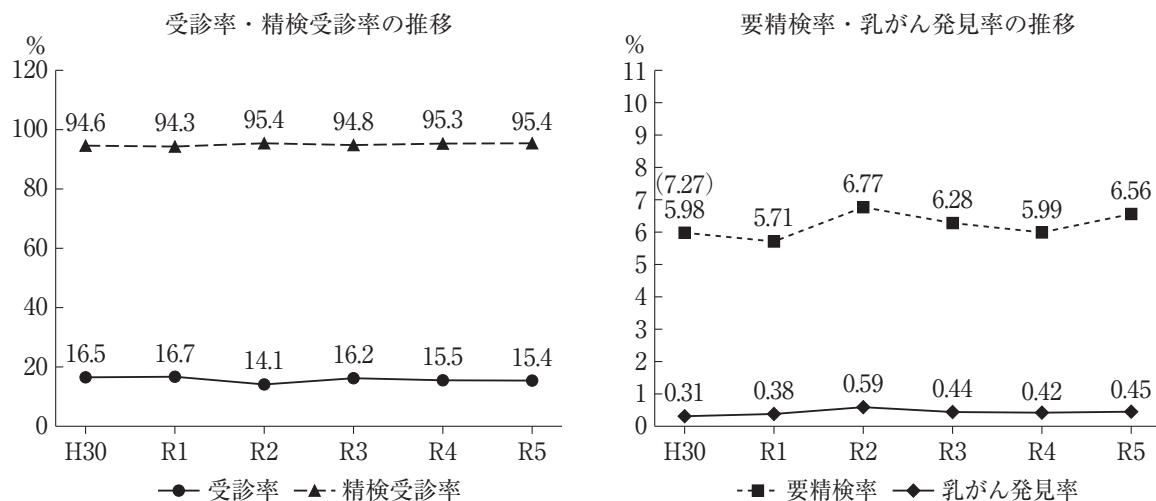
* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

* 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。

* 4 確定がん数について

・確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上

* 5 平成30年度報告（平成29年度実績）から、検診方法がマンモグラフィのみとなった。



(2) 令和5年度乳がん検診（マンモグラフィのみの受診者）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d / b
				要精検者数 d	異常認めず d	
40~44歳	3,512	1,714	48.8	183	1,531	10.68
45~49歳	3,799	1,600	42.1	168	1,432	10.50
50~54歳	3,589	1,825	50.8	140	1,685	7.67
55~59歳	4,281	1,542	36.0	90	1,452	5.84
60~64歳	7,615	2,365	31.1	133	2,232	5.62
65~69歳	13,455	2,276	16.9	132	2,144	5.80
70~74歳	17,509	2,865	16.4	139	2,726	4.85
75~79歳	15,094	1,578	10.5	79	1,499	5.01
80歳以上	40,267	1,085	2.7	42	1,043	3.87
計	109,121	16,850	15.4	1,106	15,744	6.56

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40~44歳	177	96.7	64	105	1	7	0.41	3.83
45~49歳	164	97.6	50	106	0	8	0.50	4.76
50~54歳	135	96.4	51	77	0	7	0.38	5.00
55~59歳	87	96.7	36	41	1	9	0.58	10.00
60~64歳	127	95.5	68	50	1	8	0.34	6.02
65~69歳	125	94.7	57	54	0	14	0.62	10.61
70~74歳	128	92.1	60	53	0	15	0.52	10.79
75~79歳	73	92.4	37	32	0	4	0.25	5.06
80歳以上	39	92.9	29	6	0	4	0.37	9.52
計	1,055	95.4	452	524	3	76	0.45	6.87

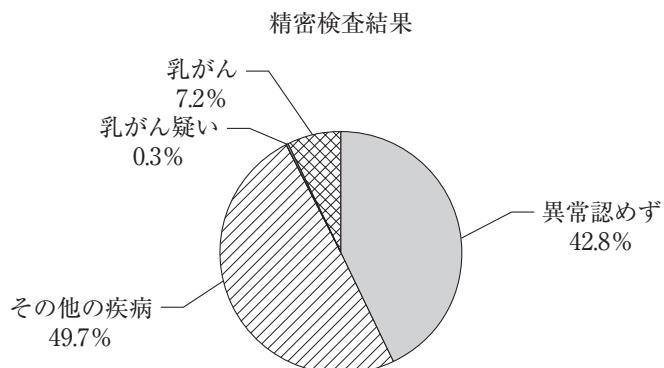
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果		要精検率(%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保健事業団	6,659	346	6,313	5.20
病院	7,789	552	7,237	7.09
診療所	2,068	174	1,894	8.41
中国労働衛生協会	334	34	300	10.18
計	16,850	1,106	15,744	6.56

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) f' = d' / b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) h' = g' / a'	陽性反応 適中度 (%) I' = h' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保健事業団	326	94.22	157	144	0	25	0.38	7.23
病院	524	94.93	227	257	3	37	0.48	6.70
診療所	172	98.85	51	113	0	8	0.39	4.60
中国労働衛生協会	33	97.1	17	10	0	6	1.80	17.65
計	1,055	95.4	452	524	3	76	0.45	6.87



4) 令和5年度乳がん検診受診状況（マンモグラフィのみの受診者）

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員			がん発見率(%)	陽性反応適中度(%)						
		B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M+N+0	Q = O/D	R = O/H
鳥取市	34,640	2,350	2,907	5,257	15.2	126	139	265	5.04	260	98.1	115	124	0	21	145	0.399	7.9
米子市	26,929	488	3,176	3,664	13.6	38	291	329	8.98	325	98.8	113	190	1	21	212	0.573	6.4
倉吉市	9,799	381	777	1,158	11.8	21	45	66	5.70	65	98.5	34	24	0	7	31	0.604	10.6
境港市	6,622	334	905	1,239	18.7	29	96	125	10.09	102	81.6	49	48	0	5	53	0.404	4.0
岩美町	2,446	151	332	483	19.7	3	15	18	3.73	18	100.0	7	9	0	2	11	0.414	11.1
八頭町	3,339	584	140	724	21.7	25	4	29	4.01	29	100.0	17	10	0	2	12	0.276	6.9
若桜町	785	127	25	152	19.4	5	1	6	3.95	6	100.0	2	4	0	0	4	0.000	0.0
智頭町	1,617	109	178	287	17.7	9	9	18	6.27	18	100.0	8	9	0	1	10	0.348	5.6
湯梨浜町	3,083	424	203	627	20.3	22	16	38	6.06	37	97.4	19	15	1	2	18	0.319	5.3
三朝町	1,393	190	49	239	17.2	9	2	11	4.60	8	72.7	8	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,070	429	143	572	18.6	20	15	35	6.12	30	85.7	15	10	0	5	15	0.874	14.3
琴浦町	3,646	440	143	583	16.0	9	10	19	3.26	19	100.0	5	11	0	3	14	0.515	15.8
南部町	2,199	177	263	440	20.0	10	20	30	6.82	30	100.0	17	13	0	0	13	0.000	0.0
伯耆町	2,425	155	152	307	12.7	12	14	26	8.47	24	92.3	11	12	0	1	13	0.326	3.8
日吉津村	628	55	82	137	21.8	5	11	16	11.68	16	100.0	2	12	0	2	14	1.460	12.5
大山町	3,632	364	163	527	14.5	29	15	44	8.35	40	90.9	14	22	0	4	26	0.759	9.1
日南町	1,288	90	41	131	10.2	4	1	5	3.82	3	60.0	3	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	828	145	4	149	18.0	4	0	4	2.68	4	100.0	2	2	0	0	2	0.000	0.0
江府町	752	0	174	174	23.1	0	22	22	12.64	21	95.5	11	9	1	0	10	0.000	0.0
合計	109,121	6,993	9,857	16,850	15.4	380	726	1,106	6.56	1,055	95.4	452	524	3	76	603	0.451	6.9
東部	42,827	3,321	3,582	6,903	16.1	168	336	4,87	331	98.5	149	156	0	26	182	0.377	7.7	
中部	20,991	1,864	1,315	3,179	15.1	81	88	169	5.32	159	94.1	81	60	1	17	78	0.535	10.1
西部	45,303	1,808	4,960	6,768	14.9	131	470	601	8.88	565	94.0	222	308	2	33	343	0.488	5.5

(3) 令和5年度乳がん検診発見乳がん確定調査結果

1) 登録届け出数 79例

組織学的に確定された乳癌 77例

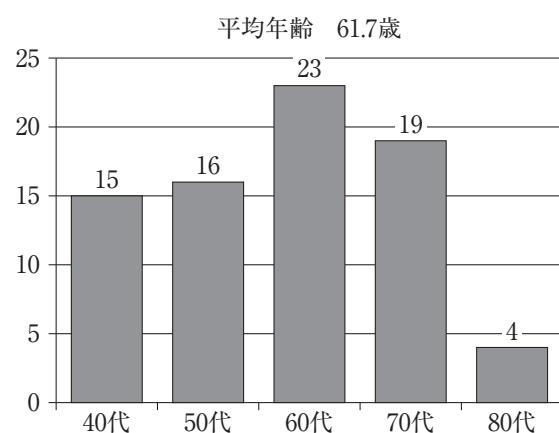
東部地区 (26例) 鳥取市21例 岩美町2例 八頭町2例 智頭町1例

中部地区 (18例) 倉吉市7例 北栄町5例 湯梨浜町3例 琴浦町3例

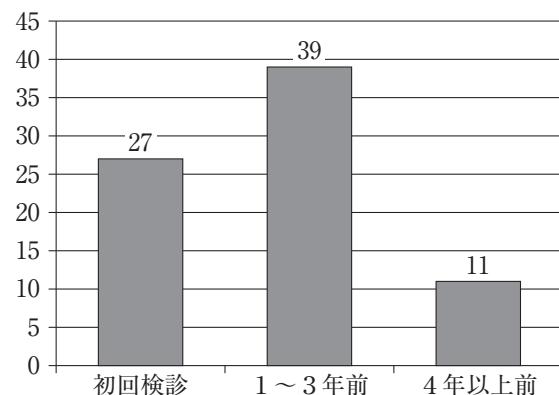
西部地区 (33例) 米子市21例 境港市5例 大山町4例 日吉津村2例

伯耆町1例

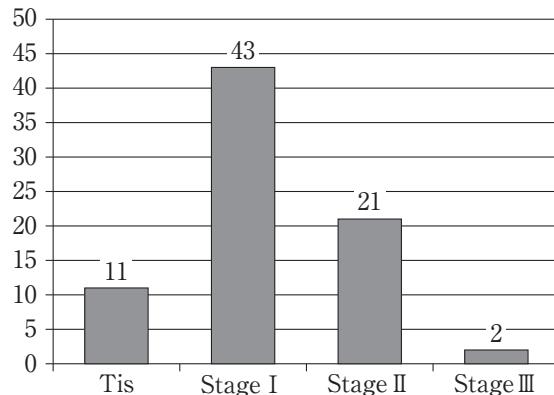
2) 年齢構成



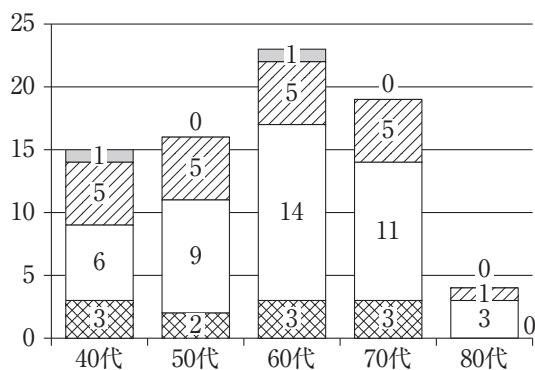
3) 検診歴



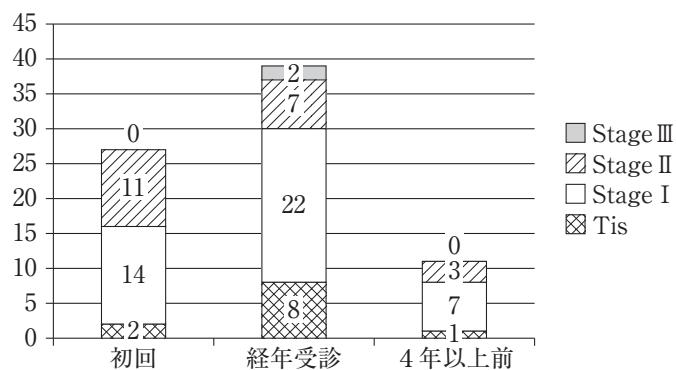
4) 病期



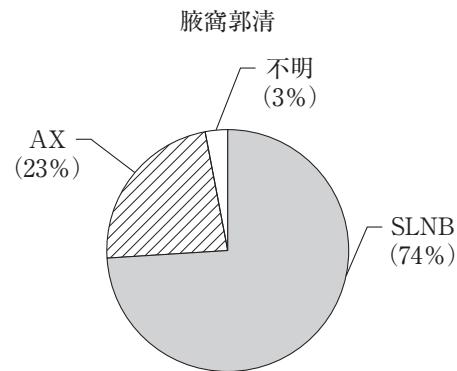
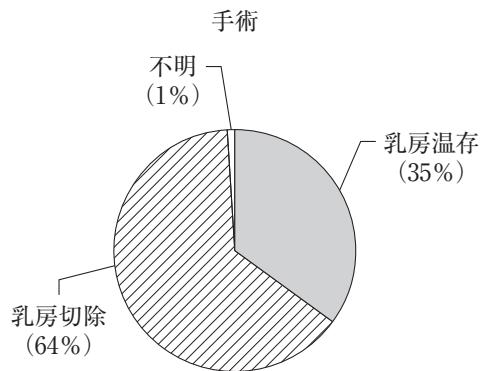
年代と病期



受診歴と病期



5) 治療



その他の治療

内分泌療法	61
化学療法	30
抗HER2薬	5
ICI	1
放射線療法	32

(重複あり)

まとめ

1. 令和5年度の確定乳癌は現時点で77例で前年度（72例）よりわずかに増加したが、例年と大きな変化はなかった。

年代としては60代が最も多いが、40代から70代まで症例数の差は少なかった。このため患者の平均年齢は61.7歳と前年度より3歳低下した。

2. 検診歴に関しては初回検診、経年検診の割合は前年度と変化を認めなかった。

3. 非浸潤癌は11例、Stage Iが43例で、早期癌の比率は70.1%で前年度の63.9%より上昇した。

また、Stage IV症例は認めなかった。

4. 年代、検診歴と病期の関係では60代、経年受診で早期癌の比率が高かった。

5. 術式に関しては乳房切除術、腋窩郭清省略例が多く、前年度とほぼ同様であった。

6. 治療の進歩に伴い、従来と比較して手術以外の治療選択が多様化している。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

令和5年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数は52,070人、受診率は28.7%で、前年度に比べ0.3ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値は、対象者数63,987人、受診者数22,166人、受診率34.6%であった。

要精検者数は3,870人、要精検率7.4%で、前年度より0.3ポイント増であった。精検受診者は2,900人、精検受診率74.9%で前年度より0.7ポイント減であった。精密検査の結果、大腸がんは118人で、前年度と同数となった。大腸がん疑いは12人であった。がん発見率（がん/受診者数）は0.23%で前年度に比べ0.01ポイント増であった。また、陽性反応適中度（がん/要精検者数）は3.05%で前年度に比べ0.10ポイント減であった。

要精検率は東部7.1%、中部7.9%、西部7.6%、がん発見率は東部0.222%、中部0.235%、西部0.227%、陽性反応適中度は東部3.1%、中部3.0%、西部3.0%であった。

国のプロセス指標（対象年齢40～74歳）と比較すると、要精検率及び陽性反応適中度は基準値を満たしているが、精検受診率及びがん発見率については、基準値に届いていない状況である。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	17,489 (33.6%)	1,090	6.2	6.2	6.1	6.4
施設検診 (病院・診療所)	34,581 (66.4%)	2,780	8.0	7.5	10.3	7.9
計	52,070 (100%)	3,870	7.4	7.1	7.9	7.6

(2) 精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）			
				計	東部	中部	西部
車検診	795	72.9	41	0.234	0.203	0.224	0.294
施設検診	2,105	75.7	77	0.223	0.231	0.251	0.206
計	2,900	74.9	118	0.227	0.222	0.235	0.227

〈圈域別結果〉

(1) 車検診

区分	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん疑い	がん	がん発見率(%)
東部	431	6.2	321	74.5	2	14	0.203
中部	352	6.1	255	72.4	0	13	0.224
西部	307	6.4	219	71.3	0	14	0.294
計	1,090	6.2	795	72.9	2	41	0.234

(2) 施設検診

区分	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん疑い	がん	がん発見率(%)
東部	1,136	7.5	882	77.6	2	35	0.231
中部	450	10.3	334	74.2	3	11	0.251
西部	1,194	7.9	889	74.5	5	31	0.206
計	2,780	8.0	2,105	75.7	10	77	0.223

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い130例について確定調査を行った結果、確定癌125例（地域検診45例、施設検診80例）、腺腫3例、その他2例であった。そのうち早期がんは77例、早期癌率は61.6%であった。令和4年度に比べ確定癌が4例増加し、早期癌率が2.9ポイント減少している。

調査の結果は以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、80歳代が一番多かった。令和5年度は40歳代から癌が3例発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」合わせて47.2%で、肉眼分類では「2」が26.4%であった。早期癌77例の肉眼分類では「Ip」「Isp」合わせて36.4%であった。
- (3) 大きさは10mm以下が27.2%、令和4年度の14.9%に比べ、小さい癌が多く見つかっている。
- (4) 深達度「m」が42.4%、「sm」が18.4%、「不明」が0.8%で、早期癌率は61.6%であった。
- (5) Dukes分類は「A」が62.4%、組織型分類は「Wel」が60.8%、「Mod」が30.4%であった。
- (6) 治療方法は外科手術が16例（12.8%）、内視鏡下手術が45例（36.0%）、内視鏡治療は59例（47.2%）であった。その他：高齢のため経過観察2例、がんセンター紹介のため詳細不明1例、化学療法1例、記載なしのため不明1例であった。
- (7) 逐年検診発見進行癌は20例（東部6例、中部5例、西部9例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

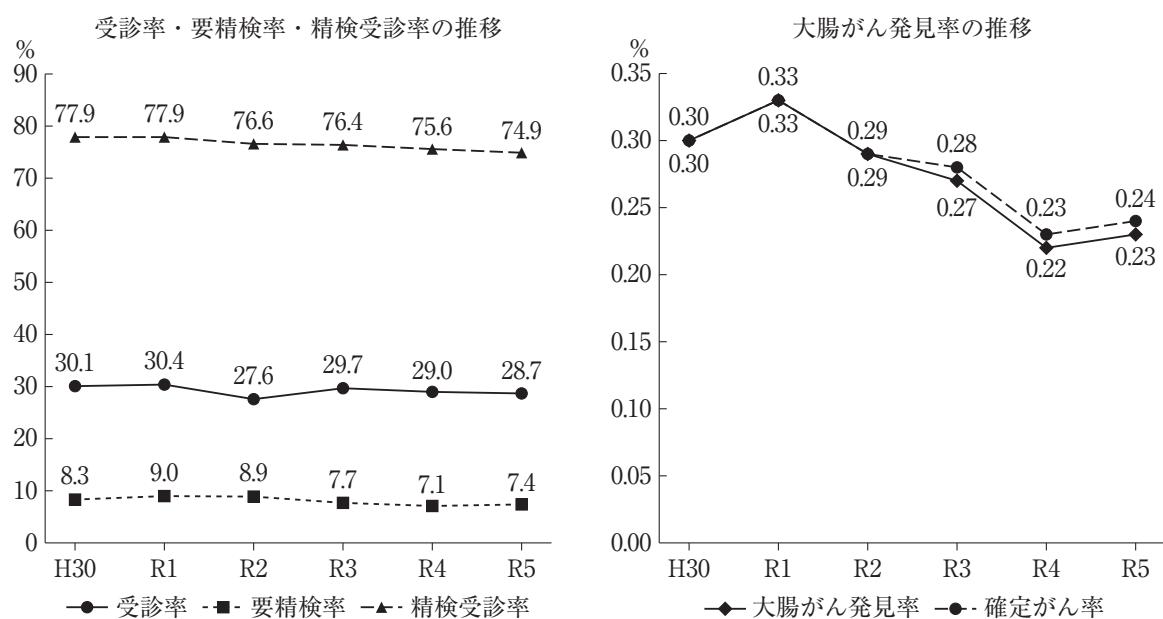
区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一次検診	対象者数(人) A	189,132	189,132	189,132	181,414	181,414	181,414
	受診者数(人) B	56,991	57,476	52,107	53,884	52,647	52,070
	受診率(%) C = B / A	30.1	30.4	27.6	29.7	29.0	28.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	52,245	52,330	47,453	49,741	48,904	48,200
	要精検者数(人) E	4,746	5,146	4,654	4,143	3,743	3,870
	要精検率(%) F = E / B	8.33	8.95	8.93	7.70	7.10	7.40
精密検査	精検受診者数(人) G	3,696	4,009	3,563	3,165	2,831	2,900
	精検受診率(%) H = G / E	77.9	77.9	76.6	76.4	75.6	74.9
精密検査結果	大腸がんの者(人) I	170(13)	190(6)	149(10)	144(12)	118(11)	118(12)
	大腸がん発見率(%) J = I / B	0.30	0.33	0.29	0.27	0.22	0.23
	陽性反応適中度(%) K = I / E	3.6	3.7	3.2	3.5	3.2	3.0
確定調査結果	確定がん数(人) L	170	190	149	153	121	125
	確定がん率(%) M = L / B	0.30	0.33	0.29	0.28	0.23	0.24

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和5年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数		一次検診		受診率 (%) c = b / a			一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b				
			受診者数					d		異常認めず					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女		
40~44歳	2,972	3,512	688	1,211	23.1	34.5	29.3	34	68	654	1,143	4.9	5.6	5.4	
45~49歳	3,210	3,799	723	1,413	22.5	37.2	30.5	31	69	692	1,344	4.3	4.9	4.7	
50~54歳	2,743	3,589	879	1,630	32.0	45.4	39.6	50	82	829	1,548	5.7	5.0	5.3	
55~59歳	2,891	4,281	830	1,777	28.7	41.5	36.3	54	81	776	1,696	6.5	4.6	5.2	
60~64歳	5,176	7,615	1,480	3,056	28.6	40.1	35.5	109	166	1,371	2,890	7.4	5.4	6.1	
65~69歳	10,744	13,455	3,473	5,006	32.3	37.2	35.0	276	304	3,197	4,702	7.9	6.1	6.8	
70~74歳	14,256	17,509	5,247	6,677	36.8	38.1	37.5	478	395	4,769	6,282	9.1	5.9	7.3	
75~79歳	11,216	15,094	4,131	5,322	36.8	35.3	35.9	412	368	3,719	4,954	10.0	6.9	8.3	
80歳以上	19,085	40,267	3,670	4,857	19.2	12.1	14.4	432	461	3,238	4,396	11.8	9.5	10.5	
計	72,293	109,121	21,121	30,949	29.2	28.4	28.7	1,876	1,994	19,245	28,955	8.9	6.4	7.4	
合計	181,414		52,070			28.7			3,870		48,200			7.4	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査 受診者数	精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果						大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d					
					異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		h						
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
40~44歳	20	48	58.8	70.6	66.7	5	32	15	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45~49歳	15	43	48.4	62.3	58.0	4	21	10	20	0	0	1	2	0.138	0.142	0.140	3.2	2.9	3.0
50~54歳	33	55	66.0	67.1	66.7	11	22	21	32	0	0	1	1	0.114	0.061	0.080	2.0	1.2	1.5
55~59歳	34	66	63.0	81.5	74.1	7	27	25	35	0	2	2	2	0.241	0.113	0.153	3.7	2.5	3.0
60~64歳	85	124	78.0	74.7	76.0	15	45	64	76	1	0	5	3	0.338	0.098	0.176	4.6	1.8	2.9
65~69歳	197	246	71.4	80.9	76.4	31	83	150	154	1	0	15	9	0.432	0.180	0.283	5.4	3.0	4.1
70~74歳	348	313	72.8	79.2	75.7	51	84	284	217	1	0	12	12	0.229	0.180	0.201	2.5	3.0	2.7
75~79歳	328	299	79.6	81.3	80.4	45	79	272	210	0	1	11	9	0.266	0.169	0.212	2.7	2.4	2.6
80歳以上	304	342	70.4	74.2	72.3	52	92	237	226	0	6	15	18	0.409	0.371	0.387	3.5	3.9	3.7
計	1,364	1,536	72.7	77.0	74.9	221	485	1,078	986	3	9	62	56	0.294	0.181	0.227	3.3	2.8	3.0
合計	2,900		74.9			706		2,064		12		118		0.227			3.0		

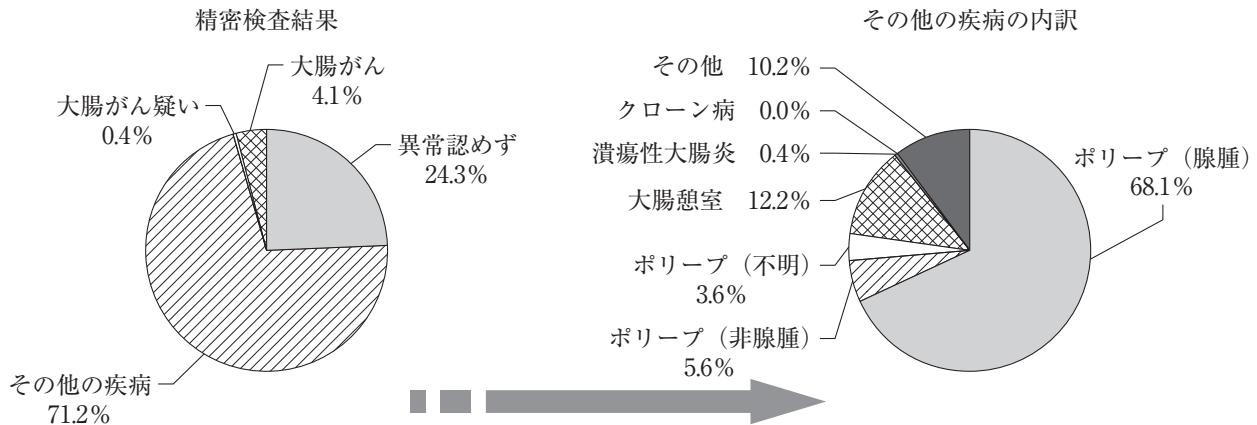
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果						要精検率 (%) c' = b'/a'		
			要精検者数 b'		異常認めず						
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	6,319	10,241	473	572	5,846	9,669	7.5	5.6	6.3		
中国労働衛生協会	310	619	19	26	291	593	6.1	4.2	4.8		
地域検診小計	6,629	10,860	492	598	6,137	10,262	7.4	5.5	6.2		
病院	4,472	5,664	481	403	3,991	5,261	10.8	7.1	8.7		
診療所	10,020	14,425	903	993	9,117	13,432	9.0	6.9	7.8		
施設検診小計	14,492	20,089	1,384	1,396	13,108	18,693	9.6	6.9	8.0		
計	21,121	30,949	1,876	1,994	19,245	28,955	8.9	6.4	7.4		
合計		52,070		3,870		48,200			7.4		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果						大腸がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'				
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
保健事業団	333	426	70.4	74.5	72.6	54	141	261	264	1	1	17	20	0.269	0.195	0.223	3.6	4.2	3.5
中国労働衛生協会	16	20	84.2	76.9	80.0	7	7	6	12	0	0	3	1	0.968	0.162	0.431	15.8	5.3	8.9
地域検診小計	349	446	70.9	74.6	72.9	61	148	267	276	1	1	20	21	0.302	0.193	0.234	4.1	3.5	3.8
病院	336	288	69.9	71.5	70.6	54	95	271	186	0	0	11	7	0.246	0.124	0.178	2.3	1.5	2.0
診療所	679	802	75.2	80.8	78.1	106	242	540	524	2	8	31	28	0.309	0.194	0.241	3.4	3.1	3.1
施設検診小計	1,015	1,090	73.3	78.1	75.7	160	337	811	710	2	8	42	35	0.290	0.174	0.223	3.0	2.5	2.8
計	1,364	1,536	72.7	77.0	74.9	221	485	1,078	986	3	9	62	56	0.294	0.181	0.227	3.3	3.0	3.0
合計						74.9		706		2,064		12		118		0.227		3.0	



4) 令和5年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数			精査結果別人員			がん発見率(%)	陽性反応適中度						
		車検診	施設検診	計	受診率(%)	車検診	施設検診	計	精査受診率(%)	精査受診者数	精査異常疾患認めめず	他の病常疾患	がん疑いがん	有所見者				
鳥取市	57,633	3,771	12,732	16,503	28.6	229	957	1,186	7.2	919	77.5	227	659	2	31	692	0.188	2.6
米子市	43,796	0	10,864	10,864	24.8	0	859	859	7.9	664	77.3	145	487	5	27	519	0.249	3.1
倉吉市	16,163	608	2,644	3,252	20.1	28	275	303	9.3	238	78.5	72	158	3	5	166	0.154	1.7
境港市	10,796	761	2,350	3,111	28.8	45	168	213	6.8	171	80.3	28	138	0	5	143	0.161	2.3
岩美町	4,245	929	579	1,508	35.5	68	46	114	7.6	83	72.8	10	64	1	8	73	0.531	7.0
八頭町	5,674	1,758	773	2,531	44.6	102	60	162	6.4	114	70.4	20	86	1	7	94	0.277	4.3
若桜町	1,336	129	420	549	41.1	8	32	40	7.3	33	82.5	8	23	0	2	25	0.364	5.0
智頭町	2,723	324	626	950	34.9	24	41	65	6.8	54	83.1	7	46	0	1	47	0.105	1.5
湯梨浜町	5,319	1,094	793	1,887	35.5	66	74	140	7.4	94	67.1	33	55	0	6	61	0.318	4.3
三朝町	2,336	543	246	789	33.8	28	28	56	7.1	34	60.7	12	20	0	2	22	0.253	3.6
北栄町	5,250	2,443	291	2,734	52.1	159	33	192	7.0	134	69.8	40	89	0	5	94	0.183	2.6
琴浦町	6,243	1,126	407	1,533	24.6	71	40	111	7.2	89	80.2	20	63	0	6	69	0.391	5.4
南部町	3,722	276	1,108	1,384	37.2	15	84	99	7.2	61	61.6	14	46	0	1	47	0.072	1.0
伯耆町	4,091	905	490	1,395	34.1	51	61	112	8.0	45	40.2	20	22	0	3	25	0.215	2.7
日吉津村	981	260	196	456	46.5	17	18	35	7.7	27	77.1	9	17	0	1	18	0.219	2.9
大山町	6,342	1,335	0	1,335	21.1	100	0	100	7.5	79	79.0	19	54	0	6	60	0.449	6.0
日南町	2,198	429	62	491	22.3	33	4	37	7.5	21	56.8	6	14	0	1	15	0.204	2.7
日野町	1,340	279	0	279	20.8	19	0	19	6.8	17	89.5	6	11	0	0	11	0.000	0.0
江府町	1,226	519	0	519	42.3	27	0	27	5.2	23	85.2	10	12	0	1	13	0.193	3.7
合計	181,414	17,489	34,581	52,070	28.7	1,090	2,780	3,870	7.4	2,900	74.9	706	2,064	12	118	2,194	0.227	3.0
東部	71,611	6,911	15,130	22,041	30.8	431	1,136	1,567	7.1	1,203	76.8	272	878	4	49	931	0.222	3.1
中部	35,311	5,814	4,381	10,195	28.9	352	450	802	7.9	589	73.4	177	385	3	24	412	0.235	3.0
西部	74,492	4,764	15,070	19,834	26.6	307	1,194	1,501	7.6	1,108	73.8	257	801	5	45	851	0.227	3.0

(3) 令和5年度大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	20	13	14	47	33	14	36	83	53	27	50	130
確定癌	19	12	14	45	33	12	35	80	52	24	49	125
腺腫	1	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	3
その他	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	2

表2 性及び年齢

年齢		40~	45~	50~	55~	60~	65~	70~	75~	80~	計
地域	男	0	0	0	0	2	2	3	8	7	22
	女	0	1	1	1	0	4	6	4	6	23
	計	0	1	1	1	2	6	9	12	13	45
施設	男	0	1	1	2	4	13	9	4	8	42
	女	0	1	0	2	3	5	6	5	16	38
	計	0	2	1	4	7	18	15	9	24	80
計	男	0	1	1	2	6	15	12	12	15	64
	女	0	2	1	3	3	9	12	9	22	61
総計		0	3	2	5	9	24	24	21	37	125

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	3	5	3	11	7	2	9	18	29(23.2)
S	4	4	5	13	6	3	8	17	30(24.0)
D	0	0	2	2	1	0	0	1	3(2.4)
T	2	1	1	4	1	4	5	10	14(11.2)
A	5	1	3	9	12	2	8	22	31(24.8)
C	5	1	0	6	6	1	3	10	16(12.8)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	2	2	2(1.6)
計	19	12	14	45	33	12	35	80	125

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	5	3	6	14	7	2	11	20	34(27.2)
11~20	2	3	5	10	11	4	7	22	32(25.6)
21~50	9	4	3	16	14	4	14	32	48(38.4)
51~	1	0	0	1	1	0	1	2	3(2.4)
不明	2	2	0	4	0	2	2	4	8(6.4)
計	19	12	14	45	33	12	35	80	125

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	27	50	77(61.6)
1	2	7	9(7.2)
2	13	20	33(26.4)
3	0	1	1(0.8)
4	0	1	1(0.8)
5	1	0	1(0.8)
不明	2	1	3(2.4)
計	45	80	125

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	4	4	8(10.4)
I sp	8	12	20(26.0)
I s	6	6	12(15.6)
II a	7	13	20(26.0)
II a + II c	0	5	5(6.5)
II b	0	0	0
II c	1	1	2(2.6)
III	0	0	0
その他	1	9	10(13.0)
不明	0	0	0
計	27	50	77

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	9	6	6	12	6	14	53(42.4)
sm	3	0	2	7	2	9	23(18.4)
不明	1	0	0	0	0	0	1(0.8)
小計	13	6	8	19	8	23	77(61.6)
mp	2	1	3	8	2	0	16(12.8)
ss	2	4	3	5	1	6	21(16.8)
se	1	0	0	0	0	4	5(4.0)
si	0	0	0	1	0	1	2(1.6)
不明	1	1	0	0	1	1	4(3.2)
計	19	12	14	33	12	35	125

表8 Dukes分類

Dukes分類	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	13	7	8	26	6	18	78(62.4)
B	0	2	2	3	0	2	9(7.2)
C	3	0	2	2	2	4	13(10.4)
D	0	0	0	0	1	1	2(1.6)
不明	3	3	2	2	3	10	23(18.4)
計	19	12	14	33	12	35	125

表9 組織型分類

組織型	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	15	10	9	17	7	18	76(60.8)
Mod	3	2	4	12	4	13	38(30.4)
Por	0	0	0	0	0	2	2(1.6)
Muc	0	0	0	0	0	1	1(0.8)
その他	0	0	1	4	0	0	5(4.0)
不明	1	0	0	0	1	1	3(2.4)
計	19	12	14	33	12	35	125

表10 治療法

治療方法	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外 科 手 術	0	2	2	4	2	6	16(12.8)
内視鏡下手術(腹腔鏡)	8	3	6	14	3	11	45(36.0)
内 視 鏡 治 療	9	7	6	15	6	16	59(47.2)
その 他 不 明	2	0	0	0	1	2	5(4.0)
計	19	12	14	33	12	35	125

6. 肝臓がん検診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H 10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H 14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H 10～13と同様
H 15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H 14～と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH 16で廃止（定期検査は継続）
H 17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H 14～と同様
H 19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等） ・H 23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 令和5年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

令和5年度は19市町村で実施し、対象者は205,618人（令和4年度210,599人）のうち受検者数は3,857人で、受検率は1.9%で、前年度と同じであった。要精検者数はHBs抗原陽性者46人で陽性率1.2%（前年度0.8%）、HCV抗体陽性者8人で陽性率0.2%（前年度0.3%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は34人であり、精検受診率は63.0%で、前年度に比べ7.2ポイント増であった。精検受診者34人中肝臓がんは0人であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は19市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定期 檢 査 結 果			
				慢 性 肝 炎	肝 硬 变	肝 臓 がん	がん 疑 い
B型肝炎	1,847人	913人	49.4%	146人 (16.0%)	10人 (1.1%)	3人 (0.3%)	3人 (0.3%)
C型肝炎	582人	255人	43.8%	28人 (11.0%)	5人 (2.0%)	8人 (3.1%)	3人 (1.2%)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から令和5年度の29年間を集計すると、受診者総数は187,514人、HBs抗原陽性者3,828人：陽性率2.04%、HCV抗体陽性者3,785人：陽性率2.02%であった。年齢別陽性率はB型で50-54歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 令和5年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんまたは疑いは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査7例について調査を行った結果、今回新規が6例あり、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが1例、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが3例、血管腫1例、肝臓がん疑い1例であった。
- (2) 平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは令和4年度までで31人で、現在生存中の患者は3人であった。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは、精査中も含めて令和4年度までで207人で、現在生存中の患者は49人である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 檢 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率 (%)	HCV陽性者	HCV陽性率 (%)
R 3	4,458	57	1.3	12	0.3
R 4	3,999	32	0.8	11	0.3
R 5	3,857	46	1.2	8	0.2

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
R 3	68	39	57.4	0	0.00
R 4	43	24	55.8	0	0.00
R 5	54	34	63.0	0	0.00

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	令和5年度			平成7～令和5年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)
40～44歳	817	0.5	0.0	21,608	1.55	0.43
45～49歳	302	1.0	0.3	14,311	2.54	1.04
50～54歳	331	0.6	0.0	15,719	2.77	1.27
55～59歳	297	1.3	0.3	18,993	2.48	1.77
60～64歳	484	0.8	0.0	32,386	2.15	2.16
65～69歳	683	0.9	0.4	35,270	2.04	2.38
70～74歳	639	3.0	0.3	29,295	1.78	2.75
75～79歳	171	1.8	0.0	11,233	1.49	3.41
80歳以上	133	0.8	0.8	8,699	1.36	3.17
計	3,857	1.2	0.2	187,514	2.04	2.02

(2) 令和5年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢階級	一次検診受診者数 a	一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%) e = (b + d) / a	HCV抗体陽性率 (%) f = (c + d) / a					
		異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d								
		男	女	男	女	男	女	男	女							
40～44歳	296	521	294	519	2	2	0	0	0	0.7	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	
45～49歳	123	179	120	178	2	1	1	0	0	0	1.6	0.6	1.0	0.8	0.0	0.3
50～54歳	154	177	152	177	2	0	0	0	0	0	1.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
55～59歳	138	159	136	156	2	2	0	1	0	0	1.4	1.3	1.3	0.0	0.6	0.3
60～64歳	216	268	213	267	3	1	0	0	0	0	1.4	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0
65～69歳	377	306	371	303	4	2	2	1	0	0	1.1	0.7	0.9	0.5	0.3	0.4
70～74歳	356	283	348	270	6	13	2	0	0	0	1.7	4.6	3.0	0.6	0.0	0.3
75～79歳	87	84	84	84	3	0	0	0	0	0	3.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0
80歳以上	63	70	62	69	0	1	1	0	0	0	0.0	1.4	0.8	1.6	0.0	0.8
計	1,810	2,047	1,780	2,023	24	22	6	2	0	0	1.3	1.1	1.2	0.3	0.1	0.2
合 計	3,857		3,803		46		8		0		1.2		0.2			

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査者 a	精密検査結果												検査結果						その他			
			無症候性キャリア			脂 肪 肝			慢 性 肝 炎			肝 硬 夘			アルコール性肝障害			肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40~44歳	B型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	とともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45~49歳	全 体	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50~54歳	全 体	3	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55~59歳	全 体	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60~64歳	全 体	1	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69歳	全 体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70~74歳	全 体	3	9	2	8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79歳	全 体	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	全 体	1	17	9	12	1	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	14	15	8	12	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	C型陽性	3	2	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全 体	17	17	9	12	1	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
	B型陽性	29	20	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	C型陽性	5	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
合 計	全 体	34	21	3	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
	全 体	34	21	3	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
	全 体	34	21	3	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000

※1 「その他」は、転出、死亡、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。
 ※2 「がん発見率」は、年齢階級別に算出された発見率を示す。

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$		
		異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	562	710	558	704	4	6	0	0	0	0.7	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0
中国労働衛生協会	23	45	23	45	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病 院	329	385	320	379	6	6	3	0	0	1.8	1.6	1.7	0.9	0.0	0.4
診 療 所	896	907	879	895	14	10	3	2	0	1.6	1.1	1.3	0.3	0.2	0.3
計	1,810	2,047	1,780	2,023	24	22	6	2	0	1.3	1.1	1.2	0.3	0.1	0.2
合 計	3,857		3,803		46		8		0		1.2		0.2		

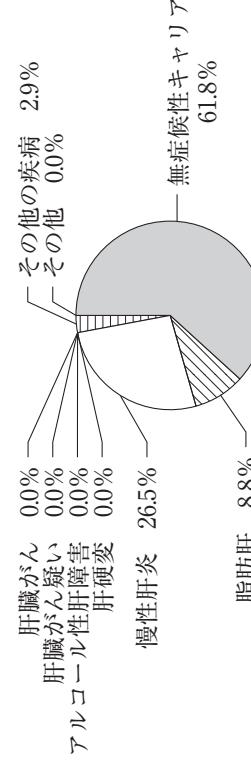
b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	区 分	精 密 検 査 受 け 者 a'	精 密 検 査 結果												肝 発 見 率 (%) $h' = g'/a'$						
			無症候性キャリア		脂 肪 肝		慢 性 肝 炎		健 康		指 導 対 象		診 断 名		肝 臓 が ん 疑 い		肝 臓 が ん		その他の疾病		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
直 営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健事業團	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	5	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	全 体	0	5	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病 院	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	2	3	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
診 療 所	B型陽性	13	7	8	5	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全 体	15	9	8	5	1	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
	B型陽性	14	15	8	12	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	C型陽性	3	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	17	17	9	12	1	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
	B型陽性	29	20	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
全 体	C型陽性	5	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	34	21	3	9	3	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾患の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」者のみを計上。

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



4) 令和5年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況（最終報告）
実施市町村数=19

市町村名	対象者数	受診者数		陽性者数		精密検査結果別人員													
		車検診	施設検診	計 [†]	受診率(%)	HBS抗原のみ陽性	HCV抗原のみ陽性	HBS抗原陽性	HCV抗原陽性とも陽性	精査受診者数	精査率(%)	精査受診者数	精査率(%)	かん疑い	かん	有所見者			がん発見率(%)
	A	B	C	E=D+C	F	G	H	I=(F+H)/D	J=(G+H)/D	K	L=k/[F+G+H]	M	N	O	P	Q=N+O+P	R=P/D		
鳥取市	61,708	494	645	1,139	1.8	12	1	0	1.1	0.1	12	4	0	0	4	0.000			
米子市	63,961	0	934	934	1.5	14	4	0	1.5	0.4	14	77.8	6	8	0	0	8	0.000	
倉吉市	15,689	48	227	275	1.8	4	1	0	1.5	0.4	2	40.0	2	0	0	0	0	0.000	
境港市	10,181	77	181	258	2.5	3	0	0	1.2	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000	
岩美町	4,352	38	0	38	0.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
八頭町	4,673	113	0	113	2.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
若桜町	1,416	0	11	11	0.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
智頭町	2,781	43	50	93	3.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
湯梨浜町	7,131	45	139	184	2.6	4	2	0	2.2	1.1	1	16.7	1	0	0	0	0	0.000	
三朝町	3,474	32	58	90	2.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
北栄町	5,516	35	59	94	1.7	4	0	0	4.3	0.0	2	50.0	1	1	0	0	1	0.000	
琴浦町	4,458	21	108	129	2.9	1	0	0	0.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
南部町	4,126	53	65	118	2.9	1	0	0	0.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
伯耆町	5,104	165	0	165	3.2	1	0	0	0.6	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
日吉津村	2,047	18	0	18	0.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
大山町	4,428	105	0	105	2.4	1	0	0	1.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
日南町	1,978	15	0	15	0.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
日野町	1,456	17	40	57	3.9	1	0	0	1.8	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	
江府町	1,139	21	0	21	1.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
合計	205,618	1,340	2,517	3,857	1.9	46	8	0	1.2	0.2	34	63.0	21	13	0	0	13	0.000	
東部	74,930	688	706	1,394	1.9	12	1	0	0.9	0.1	12	92.3	8	4	0	0	4	0.000	
中部	36,268	181	591	772	2.1	13	3	0	1.7	0.4	5	31.3	4	1	0	0	1	0.000	
西部	94,420	471	1,220	1,691	1.8	21	4	0	1.2	0.2	17	68.0	9	8	0	0	8	0.000	

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 平成7～令和5年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 令和5年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	健康指導対象者 (令和5年4月 1日現在の実 1人員)	受診者 (令和6年10月 31日現在の実 1人員)	健 康 指 導 対 象 者 檢 査 結 果												そ の 他											
			無症候性 キヤリア			脂 肪 肝			慢 性 肝 炎			肝 硬 変			アルコール性 肝 肝			肝臓がん疑い			肝 臓 が ん					
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	4	8	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	16	19	7	4	4	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	25	29	12	11	8	8	0	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	31	42	8	16	5	13	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	52	87	25	40	18	30	2	3	4	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	98	135	45	77	36	55	1	8	7	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	150	215	71	126	53	96	1	5	11	22	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2
75～79歳	152	230	81	134	56	104	4	5	18	19	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1
80歳以上	193	361	91	162	68	138	1	2	16	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	3	3
合計	721	1,126	341	572	249	450	10	25	65	81	7	3	1	0	1	2	2	1	3	4	3	6	9	(1.0)	(0.8)	
(比率(%)	1,847	913	699	766	35	146	(16.0)	(1.1)	(1.0)	(1.1)	(0.1)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	(0.3)	

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。

2) 令和5年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	健康指導対象者 (令和5年4月 1日現在の実 1人員)	受診者 (令和6年10月 31日現在の実 1人員)	健 康 指 導 対 象 者 檢 査 結 果												そ の 他											
			無症候性 キヤリア			脂 肪 肝			慢 性 肝 炎			肝 硬 変			アルコール性 肝 肝			肝臓がん疑い			肝 臓 が ん					
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	6	11	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	21	18	7	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	34	14	17	1	3	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	4	8	2
75～79歳	25	56	17	30	2	7	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	17	0	1	1
80歳以上	81	275	39	113	16	31	3	2	1	17	1	1	0	0	1	2	3	1	1	3	13	56	0	0	0	
合計	180	402	81	174	21	41	7	2	2	26	3	2	0	0	1	2	7	1	3	6	35	92	2	2	2	
(比率(%)	582	255	62	9	28	5	0	0	1	3	1	0	0	0	1	3	8	9	3	1	35	92	4	(49.8)	(1.6)	

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。

(4) 平成7～令和5年度肝臓がん検診結果（最終報告）

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率（%） C = B / A			陽性者数 D		陽性率（%） E = D / A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	7,279	14,329	138	196	1.90	1.37	1.55	42	51	0.58	0.36	0.43
45～49歳	4,755	9,556	136	228	2.86	2.39	2.54	46	103	0.97	1.08	1.04
50～54歳	4,872	10,847	152	284	3.12	2.62	2.77	42	158	0.86	1.46	1.27
55～59歳	5,965	13,028	153	318	2.56	2.44	2.48	83	253	1.39	1.94	1.77
60～64歳	12,724	19,662	331	366	2.60	1.86	2.15	222	479	1.74	2.44	2.16
65～69歳	15,636	19,634	352	367	2.25	1.87	2.04	314	527	0.00	2.68	2.38
70～74歳	12,787	16,508	244	278	1.91	1.68	1.78	324	482	2.53	2.92	2.75
75～79歳	4,562	6,671	80	87	1.75	1.30	1.49	151	232	3.31	3.48	3.41
80歳以上	3,284	5,415	35	83	1.07	1.53	1.36	117	159	3.56	2.94	3.17
計	71,864	115,650	1,621	2,207	2.26	1.91	2.04	1,341	2,444	1.87	2.11	2.02
合計	187,514		3,828		2.04			3,785		2.02		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見肝臓がん追跡調査結果について

(1) 令和5年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

※発見がんなし

(2) 令和5年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	市町村	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	76	女	鳥取市	血管腫											ダイナミックCT、US、血液検査施行。指摘されていた肝腫瘍は肝血管腫と考える。明らかにHCCは認められなかった。(鳥取赤十字病院) 6か月に1回USTGの予定(こばやし内科)
2	64	女	米子市	肝臓がん疑い											HBV-DNA 2023.09.14: 1.1 2024.05.07: 1.1 肝SOLなし。PIVKA高値。
3	60	男	伯耆町	肝臓がん	cTACE	2023.10.11	3個	S3 S6 S7	15 20 30	腫瘍 有	B	5.83	106	生存	S3にTACE、S7にMWA、S6は後に放射線
4	85	女	鳥取市	肝臓がん	経過観察		单発	S5	33×33	腫瘍 有	C	11.3	11	生存	2023.11.29 EOBMRIでS5に3cmの大肝細胞癌を認めた。 経過観察の方針となつた。
5	75	男	倉吉市	肝臓がん	肝切除 ラジオ波焼灼療法	2023.05.02	2個	S1・S8	13×12 15.3×12.3	腫瘍 無	C	5.5	16	生存	2023.05.02肝S1, 13mm大HCC異所性に対して手術 2024.07.26肝S8, 15mm大HCC異所性再発に対してRFA
6	71	男	倉吉市	肝臓がん	TAE ラジオ波焼灼療法	2014.05.14	多発	S8	30×20	浸潤 有	C	4.9	53	生存	初発時よりVp4腫瘍あり動注。2016年1月にCR。以後 は2018年5月より異所性再発を繰り返し、TACE, RFA 繰り返していた。2023.11.10以降は肝予備能不良のため BSCとしている。
7	91	男	境港市	肝臓がん	経過観察		2個	S2・S3	45×32 33×29	腫瘍 無	C	288	27	生存	高齢なため、積極的な治療を望まれなかつた。

(3) 平成10年度～令和4年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査
1	71	男	切除	95. 8.	単	発発	S8	30×30	腫瘍	有	C		再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単	発発	S68	30×30	腫瘍	有	C		4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2	個	S2	10×10	腫瘍	無	C		再発、5年9か月後死亡	
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単	発発	S8	20×20	腫瘍	有	B		12年11か月後他病死	
5	59	男女	TAE	98. 5.	単	発発	S8	30×30	腫瘍	有	C		再発、3年2か月後死亡	
6	76	男女	TAE	98. 6. 30	単	発発	S8	40×30	腫瘍	有	C		再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単	発発	S8	27×27	腫瘍	有	C		再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4	個	S2377	40×30	腫瘍	有	C		再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4	個	S35678	55×40	腫瘍	有	C		11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単	発発	S8	32×32	腫瘍	有	C		8か月後死亡	
11	64	男	切除	00. 2. 8	2	個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	有	C		再発、3年6か月後死亡	
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単	発発	S6	10×10	腫瘍	有	B		8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2	個	S65	15×15	腫瘍	有	B		再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単	発発	S4	55×40	腫瘍	有	C		1年2か月後他病死	
15	74	女	切除	00. 2. 28	単	発発	S2	32×32	腫瘍	有	C		再発、4年4か月後死亡	
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4	個	S23457	10×10	腫瘍	有	C		再発、5年8か月後死亡	
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単	発発	S7	30×30	腫瘍	有	C		4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4	個	S4568	25×25	腫瘍	有	C		4年1か月後他病死	
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単	発発	S4	15×15	腫瘍	有	C		7年9か月後他病死	
20	70	女		01. 7. 2									同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単	発発	S1	90×90	腫瘍	有	B	28396	3年10か月後死亡	
22	67	男	切除	01. 11. 19	単	発発	S8	13×13	腫瘍	有	B	5	3年8か月後再発、2021/10 県外へ転出	
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単	発発	S7	15×15	腫瘍	有	C	3	再発、4年3か月後死亡	
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単	発発	S7	10×10	腫瘍	有	C	8	無再発生存中	
25	75	男	T/P	02. 3. 4	単	発発	S5/6	37×31	腫瘍	有	C	719	5年1か月後他病死	
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単	発発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2074	7か月後死亡	
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単	発発	S5	20×20	腫瘍	有	C	4	2年1か月後他病死	
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4	個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	83	1年10か月後死亡	
29	79	女	切除	03. 2. 26	単	発発	S3	30×30	腫瘍	有	C	538	再発、3年6か月後死亡	
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単	発発	S5	35×35	腫瘍	有	B	5	再発、2年5か月後死亡	
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単	発発	S8	40×40	腫瘍	有	C	4	1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単	発発	S6	20×20	腫瘍	有	B	6215	再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2	個	S28	50×50	腫瘍	有	C	22	再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単	発発	S8	25×20	腫瘍	有	C	59	再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単	発発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	29	再発、6年8か月後死亡	
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4	個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	15	3年10か月後死亡	
37	91	女	未治療		>4	個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	NT	2か月後死亡	
38	74	女	TAE	03. 10.	>4	個	S8	23×23	腫瘍	有	C	239	2年10か月後死亡	
39	75	女	TAE	04. 3. 15	単	発発	S8	30×20	腫瘍	無	C	6	再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA										再発、6年4か月後死亡	
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単	発発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	8	無再発生存中 ウルソ服用中	
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単	発発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	1447	再発、7年3か月後死亡	
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3	個	S568	15×15	腫瘍	有	C	80	再発、1年3か月後死亡	
44	68	男	切除	04. 9. 13	単	発発	S6	30×20	腫瘍	有	C	5	再発、8年2か月後死亡	
45	72	女	T/R	04. 10.	2	個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	44	再発、1年5か月後死亡	
46	62	男	TAE	03. 4.	不	明	S8	40×40	腫瘍	無	C	1055	再発、3年後死亡	
47	86	女	TAE	04. 6	單	発発	S8	10×10	腫瘍	有	C	55	5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単	発発	S8	不明	腫瘍	有	B		再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単	発発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	2	4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除 再発なし。 他病死 (2022. 7月)	
50	64	男	TAE	09. 1.	単	発発	S5	10×10	腫瘍	有	C	28	再発、3年3か月後死亡	
51	73	男	未治療		>4	個	S278	7×7	腫瘍	有	C	270	4年10か月後死亡	
52	75	男	切除	06. 3. 29	単	発発	S7/8	43×25	腫瘍	有	C	170	再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単	発発	S7	18×18	腫瘍	有	C	3	5年5か月後死亡	
54	75	男	T/R	05. 8.	2	個	S67	25×25	腫瘍	有	C	11	4年2か月後死亡	
55	87	女	未治療		2	個	S2	20×20	腫瘍	有	C	22	4年後他病死	
56	89	女	T/P	05. 12.	単	発発	S2	15×15	腫瘍	有	C	210	4年1か月後他病死	
57	82	女	T/R	05. 10.	単	発発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1	1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2	個	S68	20×20	腫瘍	有	C	20	2年11か月後再発 H28. 9. 26 死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単	発発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	35	再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単	発発	S5	15×15	腫瘍	無	B	4	6年3か月後再発 生存不明	
61	68	男	肝癌否定		(単	発発	S6	13×13	腫瘍	無	B	2	生存不明	
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2	個	S57	15×15	腫瘍	有	C	147	再発、3年6か月後死亡	
63	79	男	TAE	06. 11.	多	個	S8	20×20	腫瘍	有	C	54	1年10か月後死亡	
64	87	女	T/R	06. 11. 15	單	発発	S4	16×23	腫瘍	無	C	158	再発、6年4か月後死亡	
65	79	男	T/R	06. 11. 20	單	発発	S8	30×30	腫瘍	無	C	10	再発、6年10か月後他病死	
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単	発発	S8	35×35	腫瘍	無	C	14	再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2	個	S67	22×20	腫瘍	無	C	12	H28. 5 再発S5 43mm 治療希望されず 12年7か月後死亡、死亡原因不明	
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単	発発	S6	15×15	腫瘍	有	C	79	再発、4年10か月後死亡	
69	81	女	切除	97. 3. 24	単	発発	S8	31×27	腫瘍	無	C	251	再発、12年11か月後死亡	
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4	個	S84	37×31	腫瘍	有	C	42	再発、6年1か月後死亡	
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4	個	S853	35×35	腫瘍	無	C	28	1年6か月後死亡	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単	発発	S5	35×35	腫瘍	無	C	14	2年10か月後再発、13年5か月後死亡、肝閑連死	
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単	発発	S1	20×20	腫瘍	有	C	22	再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9.	単	発発	S8	20×20	腫瘍	無	C	2.4	再発、9年6か月後死亡	

2024. 10再発PIVKA II 上昇。S8に1.5cmのLDAをみとめ再発が疑われるが、現在の全身状態を考慮して経過観察中

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査
75	63	女	T/R	07.5.8	単発	S8	16×16			B	17		7年1か月後再発、2020/2 S6 8mmRFA 2022.5.19 S5 (以前のRFA瘢痕の中軸側Φ1cm) 2022.11 鳥大にてS5部分切除施行 2022.11ベムリディ隔日服用中 再発、8年後死亡 再発、3年後死亡 再発、8年10か月後死亡 3年4か月後再発。再発あり(2022.3月) 2022.10.26 TACE 2023.12.15 脳卒中でリハビリ施設へ	再発なし生存中
76	73	男	M/R	03.8.5	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	58.6			
77	73	男	切除	05.3.14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	289			
78	74	男	切除	06.12.21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4.7			
79	60	女	RFA	07.7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	9.8			
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2.8			
81	80	女	TAE	03.3.	単発	S2/3	20×20	腫瘍	無	C	7.0			
82	77	女	TAE	08.10.7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3.2			
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	4			
84	77	女	TAE	09.3.24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	2012			
85	84	女	T/P	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	3643			
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	7.8			
87	79	女	TAE	10.11.18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	197			
88	89	男	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍		C	3.7			
89	76	女	T/R	08.5.12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9			
90	76	女	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	11.8			
91	79	男	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23	腫瘍	有	C	9			
92	85	女	切除	10.3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	3.9			
93	66	男	TAE	09.7.	>4個	S1	浸潤	腫瘍	有	B	58			
94	73	男	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	2.8			
95	68	女	切除	09.8.21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	4.9			
96	75	男	TAE	08.1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	10.9			
97	78	男	精査中		単発	S6			無	C	189			
98	75	男	TAE	07.2.11	単発	S6			無	B	5.3			
99	66	男	TAE	11.1.20	2個	S5/6	12×12	腫瘍		C	5			
100	80	女	RFA	10.11.09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	48.4			
101	64	女	TAE	10.11	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	26			
102	75	女	切除	08.7.30					無	C				
103	75	男	TAE	10.12.08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	有	C				
104	69	女	RFA	10.4	単発	S6	18×18	腫瘍	無	C	19			
105	79	男	TAI	09.10.26	2個	S7/8	18×15	腫瘍	有	C	60.3			
106	71	女	切除	07.8.17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	148			
107	85	女	RFA	10.7	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	16.6			
108	84	女	RFA	09.10.30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	1.9			
109	65	男	T/R	10.03.	単発	S5	24×24	腫瘍	有	B	7.8			
110	57	女	切除	11.1.18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	4			
111	78	女	肝がん否定		単発	S5	5×5	腫瘍	有	C	4.9			
112	87	男	RFA	11.4.7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	7.8			
113	67	男	肝がん否定		単発	S5			無	C	14.2			
114	77	女	RFA	11.7	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.9			
115	92	女	TAE	11.10.4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.2			
116	78	女	T/R	10.3.24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	31			
117	76	男	切除	11.7.26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	8.7			
118	75	男	RFA	11.7	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	5.3			
119	84	男	転移性肝癌(肺大細胞癌)							B	2			
120	75	男	RFA	13.10.2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	52			
121	75	男女	切除	11.6.	単発	S4	27×20	腫瘍	有	B	17			
122	70	女	PEI	12.5.9	単発	S4	35×30	腫瘍	無	C	21			
123	83	男	TAE	11.8.30	単発	S6				C	5			

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査	
124	75	女	RFA	8. 1	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	9.2		2016.4再発 RFA。2021年に重症認知症で施設入所。生存不明		
125	80	女	TAE	12. 11. 20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	5.7		R5.4.18 老衰にて死亡		
126	86	男	T/R	13. 11	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	36.6		再発、1年11か月後死亡		
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	16.2		無再発生存中 1年10か月後再発 H27.10 H28.5 TACE H29.1 RFA 2020/6再発S6 RFA 2021/6再発S4 TACE 2023年調査：体力+認知症のため追加治療困難 2024.01.29 肝左葉ほぼ占拠に至っている。 2年10か月後死亡	2024.08.09 死亡	
128	82	女	RFA	12. 3. 14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	10.1				
129	87	女	TAE	12. 7. 6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	414.5		再発、2年5か月後死亡		
130	85	女	RFA	12. 2. 13	単発	S5	10×17	腫瘍	無	C	15.2		再発、3年8か月後死亡		
131	76	男	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	82		3年1か月後死亡		
132	81	女	TAE	10. 11. 10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C			再発、2年6か月後死亡		
133	68	男	切除	13. 5. 20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	52		2年9か月後死亡 死因不明		
134	60	女	TAE	13. 8. 26	単発	S3	18×15	腫瘍	有	B	3548		再発、4年5か月後死亡、肝癌死		
135	70	女	RFA	14. 4	単発	S1	14×14	腫瘍	無	B	2.9		無再発生存中		
136	83	女	T/R	13. 10	単発	S7	26×26	腫瘍	無	C	2638		再発、5年7か月後死亡		
137	88	男	TAE	13. 10. 31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	28.9		1年後再発 肺転移 左副腎転移 肝内再発、3年2か月後死亡		
138	79	女	切除	13. 3	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	32		1年3か月後死亡		
139	73	男	T/R	13. 7. 2	>4個	両葉	24×24	浸潤	無	C	19		1年8か月後死亡		
140	80	女	T/P	13. 5. 1	単発	S5	30×30	腫瘍	無	C	21		9か月後再発 7年4か月後死亡、心不全死、肝がん死を除く閑連死		
141	94	男	TAE	12. 8. 6		S157		浸潤	有	C			2年4か月後死亡		
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	10250		再発、7年後死亡 2022.4月再発あり		
143	67	男	切除	14. 5. 27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	3.0	14	2022.5.18 RFA。2022.6.22 CT RFA後LDA形成 新たなHCCなし	2024.10.30 再診再発なし	
144	66	女	T/R	14. 9. 10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	32.0		2016.10 再発 TACE		
145	73	男	T/R	14. 4. 16	2個	S45	10×17	腫瘍	無	B	3.0	26	2021/7/5死亡 再発、6年4か月後死亡、肝癌死		
146	77	女	TAE	12. 10. 17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	119.1		3年2か月後死亡		
147	78	女	切除	15. 12. 17	単発	S5	15×15	腫瘍	無	C	2.1	9799	再発無死	他院へ転院	
148	89	女								B	1.7	16	生存不明、2018.1月以降来院なし 生存不明		
149	85	男	TAE	15. 11. 13	単発	S8	32×28	腫瘍	無	B	2.5	23	再発なし、2021/7/7他病死		
150	74	男	T/R	15. 9. 7	単発	S4	24×22	腫瘍	無	B	8.4	1.7	再発、1年1か月後死亡、肝癌死		
151	76	女	TACE	17. 8. 2	>4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	31.7	811	再発なし		
152	76	男	切除	16. 3. 16	単発	S8	23×20	腫瘍	有	NBNC	7.8	226	1年後再発 RFA施行		
153	80	女	TAE・RFA	16. 9. 23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C	4.1	123	2020/10/8肝癌死 4年4か月後 他病死 脳出血		
154	90	女	RFA	13. 5	2個	S6S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C	15.5	12		2024年5月S4に10mmのHCC再発を認め、7月17日RFAを予定していたが脳梗塞の再燃があり延期。9月26日MRIにてS4のSOLは増大なし。次回11月21日再診予定	
155	81	男	RFA	16. 10. 5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C	7.0	19	生存、再発なし (2022.10月)		
156	79	女	RFA	16. 6. 15	単発	S6	7×8	腫瘍	無	C	1.6	14.6	SVR後発癌、生存、再発なし (2023年) 生存不明		
157	73	女	無治療	18. 1. 15	単発	S8	10×10	腫瘍	有	C	7.0	62	Pugh10にて無治療を希望 9か月後死亡 再発、生存		
158	68	男	肝切除	17. 10. 20	単発	S8	13×13	腫瘍	無	B	6.8	26	再発あり (2022.11月) テセントリク・アバスチンで化学療法 2023.03.19 肝がんにて死亡		
159	75	女	TAE+RFA	16. 2. 17	単発	S7	11	腫瘍	有	B	2	15	生存、再発なし ペムリディ服用中 再発、生存 2020/11再発	再発なし生存中	
160	77	女	TAE/RFA	17. 4. 1	2個	S2、S6	12、19	腫瘍	有	C	46	20	2020/11/17 TACE(S3/4) 2021/6/8 TACE(S3/4) 2021/7/27 RFA。 2022.10.13 TACE 生存 (2022.10.19) 2023.04 S3に35mm再発あり。 放射線治療 (定位) 2023.09 S3/4に35mm、S6に10mm再発あり。TACE	肝細胞癌、食道靜脈瘤の治療を繰り返していたが、高齢になりADLも低下し肝硬変が非代償しており今後積極的な治療は困難と考えられ、2024.05.07尾崎病院へ転院	

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査
161	74	男	TAE / TAE+ RFA	15. 6. 2	2 個	S5 S7	14、13	腫瘍	有	C	2	9	再発、生存 2022. 10. 20～ 両下肢浮腫 増悪 蜂窩 博愛病院消化器内科へ入院 中	
162	85	男	RFA	14. 2. 18	単 発	S4	15	腫瘍	有	C	2	12	2023. 04. 29 施設にて死亡 再発、4年9か月後死亡	
163	82	男	TAE	17. 5. 10	4個以上	S4578	46	腫瘍浸潤腫瘍	有	C	446	346	2年1か月後死亡	
164	70	男	TAE	17. 6. 26	4個以上	S3S7	14×13		有	C	11. 57	54	2年10か月後死亡 再発あり(2022. 2月) 2022. 2. 24 TACE 肝S6: 1.8cm	
165	70	女	RFA	14. 8. 15	単 発	S6	20	腫瘍	無	C			2023. 10. 05再 診。 AFP: 5 PIVKA: 22 CT:明らかなHCC再発なし。右胸水減少。次回2024. 01. 04再診予定 再発、生存、 2021/1/11死亡	2024. 10. 02 CT : 明らかなHCC再発なし 2024. 11. 21.念のため造影のCT予定
166	82	男	肝切除	10. 7. 15	単 発	S5	13	腫瘍	有	C			再発、生存、 2021/2/16死亡	
167	85	女	TAE	16. 1. 26	単 発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1		再発、生存、 1年後死亡、肝癌死	
168	88	女	無	19. 1. 21	単 発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688. 9	54		
169	69	女	肝切除	19. 2. 25	不 明	S7	30mm	腫瘍	無	B	2. 1	11	生存、再発なし	
170	77	男	肝切除	19. 6. 11	単 発	S2		腫瘍	無	B	2. 04	3500	肝がん死(2022. 7月) 再発、生存	
171	71	男	RFA	18. 1. 31	2 個	S7	21×19	腫瘍	有	B	3. 5	28	再発あり(2019. 5月) 2019. 6. 21 RFA	再発なし生存中
172	74	女	TAE		3 個	S358	10×10	腫瘍	無	C	1603	27	再発、生存、 2021/6/1死亡	
173	97	女	無	19. 3. 22	単 発	右葉	50	腫瘍	有	C	866. 4		2か月後死亡	
174	85	男	無	18. 5. 9	2 個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966		2年5か月後死亡	
175	83	女	肝切除	19. 5. 8	単 発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3. 5	17	生存、再発なし	2024. 06再発S8 1.5cm 2024. 07. 05 RFA
176	80	男	BSC		単 発	S8	26×20	腫瘍	有	B	16. 16	66	HB+アルコール Pugh C のため治療はされず 尾崎病院に転院 2019年11月8日診断 2020. 08. 17尾崎病院退院後、とつとり在宅・漢方クリニックに依頼。 2021. 04. 14とつとり在宅・漢方クリニック最終診療で県立中央病院に入院。 2021. 09 県立中央病院生存確認。以後不明。	
177	81	女	肝切除	18. 10. 16	単 発	S5	30×23	腫瘍	無	B	3. 1	34	2018/6/19診断 前区域切除 + S6領域切除 2020. 11. 02再発なし	2024. 11. 11再発なし生存中
178	74	女	TAE+ RFA	16. 3. 15	単 発	S8	15×15	腫瘍	無	B	27. 2	17	2020. 10. 22 再発なし	2024. 10. 08再発なし生存中
179	72	女	肝切除	19. 5. 10	単 発	S3	25×25	腫瘍	無	B	6. 1	68	2019. 04. 08診断 腹腔鏡下外側区域切除 2020. 10. 29再発なし	2024. 10. 29再発なし生存中
180	81	男	TACE	16. 7. 12	多 発	S8(S3)	15	腫瘍	有	C	7	172	2016. 7. 12 TACE AFP7 2017. 5. 25 TACE AFP7 2021. 2. 16 TACE AFP7 2022. 5. 24 AFP7, 356 2022. 5. 30 肝がん死(肝細胞癌) 2019/7/5診断 2020. 09. 02再発なし	
181	85	男	TAE	19. 9. 6	単 発	S7	32×32	腫瘍	無	C	3	1581	2023. 11に右腸骨骨転移で再発有 肝癌破裂にてTACEにて止血 2019. 09以後に死亡	2024. 06. 18 他院へ転院
182	86	女	TAE	19. 7. 25	単 発	S4	38×28	腫瘍	有	C	53. 1	32		
183	80	女	RFA	19. 3. 29	単 発	S8	17×11	腫瘍	無	C	3	20	2020. 10. 08再発なし	2024. 10. 02 再発なし生存中
184	98	女	BSC		多 発	S8	30	腫瘍	無	C	4	535	鳥取赤十字 2020. 10 HCC多発転移 要確認 緩和ケア 2022. 05. 13肝がん死 肝切後時期不明 多発骨転移 放射線療法2020. 11. 09 2019/6/骨転移にて対して放射線治療開始。以後も骨転移病巣判明しては放射線治療を行っている経過。 2019. 4. 10 CT:明らかなHCC再発なし 他院へ情報提供 半年ごとのフォローとされているが、来院なし 2020. 10. 2 膝の手術で県外にいるとの連絡が最後、来院なし	
185	84	男		20. 11. 10						C	2. 7	195		生存中
186	83	女	肝切除	15. 5. 18	単 発	S2	27×22	腫瘍	有	C	13	38		

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査
187	85	男	その他	21. 6. 10	単発	S7	45×30	腫瘍	無	B	2.6	820	胃癌、前立腺癌、上行結腸癌の合併あり 2021/7/9胃垂全摘術施行、結腸切除、肝切除術、両側精巣切除 2021/7/19死亡（急性心不全）	
188	85	女	TAE	20. 11. 26	単発	S7	12×10	腫瘍	無	B	2.4	25	2020/12/4 TACE実施 2021/1/28 エコー下にRFAを行った。	2023. 10. 13 他院へ転医
189	73	女	RFA	21. 1. 28	単発	S5	8×8	腫瘍	有	B	2.6	16.22	2023.08 再発 2023.09.14 肝S2、22mm大異所性再発に対しRFA	2024. 09 再発なし生存中
190	64	男	肝切除	17. 11. 24	2個	S2、S5	33×26 20×20	腫瘍	無	B	18.8.	48	2017/11/24 部分切除2か所 2014年2月 S5:12mm大肝がんに対しRFA 以後再発なく経過観察中 2024.03.27 神経内科通院中、肝がんに対する検査は数年していないが現在特に症状なし	2024. 10. 23 再発なし生存中
191	79	女	RFA	14. 2	単発	S3	12	腫瘍	有	C			2021年9月8日のMRIで肝細胞癌の所見を認めため、精査加療目的に鳥取大学医学部附属病院に紹介 2023.7.5時点生存、再発なし	再発なし生存中
192	89	男	肝切除	2021. 11. 19	単発	S5	3.3	腫瘍	無	B	3.6	66	2021年11月18日 S5:8mm大HCCにRFA 2022年8月18日 S7:18mm大HCCにRFA 2024.01再発 2024.02.15肝S4、10mm大異所性再発に対しRFA 肝臓がん治療後のため、調査票に記入なし 死亡	2022年9月再発あり、S6 1cm マイクロ波アブレーションその後、再発なし生存中
193	74	男	RFA	2021. 11. 18	単発	S5	8.1 × 6.2	腫瘍	有	B	20.0	94.07	2024.02.18肝S4、10mm大異所性再発に対しRFA 肝臓がん治療後のため、調査票に記入なし 死亡	2024. 02再発 S410mm大HCC異所性再発に 対してRFA
194	81	男	肝臓がん (治療後)											
195	89	男	TAE RFA		2個	S3 S8	40×46 28×38	腫瘍	無	B	2.2	1447	2016/11初発stage II 2017/1/22他院で肝前区域切除術施行 無再発で経過良好 肝機能変動あるも再発なく経過	
196	67	男	肝切除	2017. 1. 22	単発	S8	30×30	腫瘍	有	B	2.4	208	平成30年7月11日に定期検査で腫瘍マーカーが上昇したことから、ふじせクリニックより紹介受診。平成30年8月29日、S2に対して肝外側区域切除、S5/6にに対して生検+RFAを実施した。(S5/6は悪性所見なし) 2024.03.08 他病死（山陰労災）	再発なし生存中
197	81	男	肝切除	2018. 8. 29	単発	S2	39.7 × 16.1	浸潤	無	C	16.0	149	C型肝炎治療後、経過観察中に定期検査で、S8にHCCが出現。鳥大にて令和4年3月11日にS8区域切除術を施行し、以後再発なく現在に至る。現在、山陰労災病院でフォロー中 2022.10.19 CTにHCC再発なし。1年1回はCTフォロー 次回2023.1.11再診予定。 無再発生存中	
198	72	男	肝切除	2022. 3. 11	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	4.0	35	2023.10.19 CTにHCC再発なし。1年1回はCTフォロー 次回2023.1.11再診予定。 無再発生存中	再発なし生存中
199	80	女	RFA		単発	S5	14	腫瘍	無	C	3.0	57	RFA2014.9.8 RFA2017.9.4 TACE2020.12.10 2022.6.1当院外科にて(S4)肝部分切除施行。同年7月1日外科終診。内科にて定期フォロー。2022.11.9 CTに明らかなHCC再発なし。腹水少量あり。門脈血栓縮小。糖尿病コントロール良好。肝機能著変なし。腫瘍マーカー正常。次回2023.2.1予定。 2023.04多発HCC再発 2023.05.12化学療法開始 2023.12.06本日の化学療法(11回目) 1剤で実施 血液検査: AFP横ばい PIVKA II増加あり 次回12.28再診。	2024. 04. 10CT: 明らかなHCC再発なし(千代水の森おながと内科のクリニックへ紹介)
200	81	女	肝切除	2022. 6. 1	単発	S4	2.5	腫瘍	有	C	7.0	228	2024. 01. 24 TACE 2024. 07 多再骨転移出現 2024. 07. 19 ~ 07. 25 HCCの腰椎骨転移に対する放射線治療。高齢で大動脈弁狭窄も重症のためBSCの方針 2024. 11. 01 ~ 鳥取赤十字病院へ入院	

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2025調査
201	72	女	動注化学療法分子標的薬	2022.09.14	4個以上	S8	44×45 49×42	腫瘍	無	B	2833.0	365	2022.09.14～2023.01.18 肝動注療法→PD 2023.02.14～2023.03.28 Atez/Bev→PD7 2023.04.19～2023.12.05 LEN→PD 2023.12.19RAM開始	2024.09.11 肝臓がん死
202	60	男	肝切除	2023.07.06	単発	S2・S3	45×37	腫瘍	無	B	10.8	ワーファリン有	2024.10.16再発なし生存中	
203	65	男	肝切除	2022.04.22	単発	S6	14×13 57×40 S4/8 10×10 S7/8 4×4 S8	腫瘍	無	B	20.2	72	2022.04.22肝S6部分切除術	2024.10.17再発なし生存中
204	77	男	肝切除	2023.10.25	3個	S8、S4/8、S7/8		腫瘍	有	B	257.0	10900	肝硬変で精密精査し肝がんと診断。手術施行。	2024年09月無再発。術後定期フォロー中
205	74	男	肝切除	2022.01.12	単発	S1	30×25	腫瘍	無	C	3.0	519	2023.10.03 CT：術後肝内に再発所見を疑う腫瘍はありません。次回2024.01.16再診予定。	無再発生存中
206	72	女	ラジオ波焼灼療法	2023.05.09	単発	S3	12	腫瘍	無	C	4.0	21	2023.09.27再診。CT：門脈血栓なし。HCC：再発なし。腹水なし。血液検査：貧血なし。肝機能著変なし。次回12/20再診予定。	2024.05 無再発生存中。 2024.05.29 千代水の森おなかと内科のクリニックへ紹介
207	71	男	TACE	2023.04.17	単発	S2	25×20	腫瘍	無	C	2.0	244	04.17鳥取大学医学部付属病院でTACE、その後当院で経過観察。	再発なし生存中

(4) 平成7年度～令和4年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C			再発、7年7か月後死亡	
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C			再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C			再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C			再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C			再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B			9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—			再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C			再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C			再発、6年1か月後死亡	
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C			3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C			7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B			1年後死亡	
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C			9か月後死亡	
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B			4か月後死亡	
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—			再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	260		1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1、5	25×25	腫瘍	有	C	219		再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1、4	30×30	腫瘍	有	C	25		再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘍	無	B			無再発生存中	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	28.9		3年後再発、生存不明	
22	72	男	切除	08.4.21	右葉		100×100	腫瘍	無	C	22.3		37日後死亡	
23	60	男	TAE	08.4.	>4個		40×40	腫瘍	有	C	594		2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移			無	B	2200		10か月後死亡	
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	18.3		1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	7.2		無再発生存中、2019/6/8肝癌死	
27	72	男	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	960		1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S45	72×72	腫瘍	有	C	3106		死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60	腫瘍	有	C	14219		死亡	
30	48	男	切除	16.7.13	単発	S7	23×19	腫瘍	無	B	4923		2016.12動注 2017.3ネクサバール2018/1/11生存、2021/9/5肝部分切除再発あり(2022.4月)肺転移2022.6月肺切除再発、生存2021/8胸骨転移→胸骨腫瘍切除2021/12胸椎転移→放射線治療	2024.07 S8HCC再発TACE
31	60	男	切除	19.8.6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16		2024.10 肺転移VATSにて切除
													化学療法継続中	

7. 全国がん検診実績との比較

令和4年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

区分	令和4年度実績 (鳥取県)	令和4年度実績 (全国)	留意事項
胃がん検診	対象者数（人）	63,987	49,706,662 ○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ
	受診者数（人）	21,867	1,194,599 ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値
	受診率（%）	34.2	2.4 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く（以下の部位も同じ）
	要精検者数（人）	208	54,591
	要精検率（%）	4.55	4.57
	精検受診者数(人)	166	42,939
	精検受診率（%）	79.8	78.7
	がんの者（人）	47	557
子宮頸部がん検診	がん発見率（%）	0.21	0.05
	対象者数（人）	49,063	37,574,549 ○「頸部のみ」の数値
	受診者数（人）	23,923	3,359,476 ○全国と比較するための受診率
	受診率（%）	48.8 (70.2)	(15.9) 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{\text{(前年度受診者数)} + \text{(当該年度受診者数)} - \text{(前年度及び当該年度2年連続受診者数)}}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数（人）	342	76,686 ※受診率の計算（厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用）
	要精検率（%）	1.43	2.28 全国 $\frac{(3,453,280) + (3,359,476) - (820,778)}{(37,792,382)} \times 100 = 15.9$
	精検受診者数(人)	278	59,754 鳥取 $\frac{(24,472) + (23,923) - (13,968)}{(49,063)} \times 100 = 70.2$
	精検受診率（%）	81.3	77.9
肺がん検診	がんの者（人）	6	835
	がん発見率（%）	0.03	0.02
	対象者数（人）	63,987	49,804,259 ○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値（「喀痰のみ」は除く）
	受診者数（人）	21,147	3,002,787
	受診率（%）	33.0	6.0
	要精検者数（人）	540	45,529
	要精検率（%）	2.55	1.52
	精検受診者数(人)	477	37,475
	精検受診率（%）	88.3	82.3
	がんの者（人）	14	758
	がん発見率（%）	0.07	0.03

区分	令和4年度実績 (鳥取県)	令和4年度実績 (全国)	留意事項
乳がん検診	対象者数(人)	36,251	24,790,489
	受診者数(人)	11,758	2,126,527
	受診率(%)	32.4 (63.9)	(16.2)
	要精検者数(人)	798	130,402
	要精検率(%)	6.79	6.13
	精検受診者数(人)	760	116,771
	精検受診率(%)	95.2	89.5
	がんの者(人)	41	7,113
	がん発見率(%)	0.35	0.33
大腸がん検診	対象者数(人)	63,987	49,805,063
	受診者数(人)	23,418	3,457,381
	受診率(%)	36.6	6.9
	要精検者数(人)	1,313	177,585
	要精検率(%)	5.61	5.14
	精検受診者数(人)	994	124,945
	精検受診率(%)	75.7	70.4
	がんの者(人)	32	5,314
	がん発見率(%)	0.14	0.15

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「がん検診事業のあり方について」
 がん検診のあり方に関する検討会（令和5年6月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

令和5年度

〈胃がん：X線〉

	50歳-74歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	5.6%	—
要精検率	7.6%以下	6.91%	○
精検受診率	90%以上	83.80%	×
がん発見率	0.11%以上	0.06%	×
陽性反応的中度	1.5%以上	0.9%	×

(参考)

	50歳-69歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	6.4%	—
要精検率	7.0%以下	5.87%	○
精検受診率	90%以上	84.2%	×
がん発見率	0.08%以上	0.03%	×
陽性反応的中度	1.1%以上	0.5%	×

〈肺がん〉

	40歳-74歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	33.8%	—
要精検率	2.4%以下	3.15%	×
精検受診率	90%以上	87.8%	×
がん発見率	0.1%以上	0.05%	×
陽性反応的中度	4.1%以上	1.6%	×

(参考)

	40歳-69歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	31.3%	—
要精検率	2.0%以下	2.91%	×
精検受診率	90%以上	87.7%	×
がん発見率	0.06%以上	0.01%	×
陽性反応的中度	3.0%以上	0.5%	×

〈大腸がん〉

	40歳-74歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	35.6%	—
要精検率	6.8%以下	6.44%	○
精検受診率	90%以上	74.1%	×
がん発見率	0.21%以上	0.19%	×
陽性反応的中度	3.0%以上	3.0%	○

(参考)

	40歳-69歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	34.6%	—
要精検率	6.2%以下	5.97%	○
精検受診率	90%以上	73.0%	×
がん発見率	0.16%以上	0.18%	○
陽性反応的中度	2.6%以上	3.1%	○

〈子宮頸がん〉

	20-74歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	40.3%	—
要精検率	2.5%以下	0.75%	○
精検受診率	90%以上	84.0%	×
がん発見率（※1）	0.15%以上	0.06%	×
陽性反応的中度（※1）	5.9%以上	8.5%	○

(参考)

	20-69歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	47.8%	—
要精検率	2.7%以下	0.82%	○
精検受診率	90%以上	85.0%	×
がん発見率（※1）	0.16%以上	0.07%	×
陽性反応的中度（※1）	5.9%以上	8.3%	○
がん検診受診率	—	43.9%	—
要精検率	4.2%以下	1.80%	○
精検受診率	90%以上	84.2%	×
がん発見率（※1）	0.18%以上	0.07%	×
陽性反応的中度（※1）	4.4%以上	4.0%	×
がん検診受診率	—	49.2%	—
要精検率	2.0%以下	0.52%	○
精検受診率	90%以上	85.9%	×
がん発見率（※1）	0.15%以上	0.07%	×
陽性反応的中度（※1）	7.4%以上	13.0%	○

〈乳がん〉（※2）

	40歳-74歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	26.4%	—
要精検率	6.4%以下	6.94%	×
精検受診率	90%以上	95.7%	○
がん発見率	0.31%以上	0.48%	○
陽性反応的中度	4.8%以上	6.9%	○

(参考)

	40歳-69歳		
	国指標	鳥取県実績	達成状況
がん検診受診率	—	31.2%	—
要精検率	6.8%以下	7.47%	×
精検受診率	90%以上	96.3%	○
がん発見率	0.29%以上	0.47%	○
陽性反応的中度	4.3%以上	6.3%	○

（※1）CIN3以上を対象とした値

（※2）国指標は連続受診者がいることを考慮した値

Ⅲ. 令和6年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和6年度がん検診従事者講習会及び症例研究会等開催状況

事 業 名	開 催 日 時	場 所	出席 者	内 容
胃がん 胃がん検診従事者講習会 及び症例研究会	令和7年2月8日(土) 午後4時～午後6時	ハイブリッド開催 ①現地会場／ 1. 鳥取市 鳥取県健康会館 2. 倉吉市 倉吉交流プラザ ②オンライン	内訳 ① 22名 1. 12名 2. 10名 ② 158名	演題：「胃がん検診の㊙テクニック～ビロリ未感染時代の注意点～」 講師：東京女子医科大学病院消化器内視鏡科教授 症例検討 東部ー1例：鳥取生協病院 中部ー1例：鳥取県立厚生病院 西部ー1例：米子医療センター 官崎慎一先生 岡本尚先生 原田賢一先生
子宮がん 子宮がん検診従事者講習会 及び症例研究会	令和7年2月9日(日) 午後4時～午後5時45分	倉吉市 倉吉交流プラザ	44名	演題：「わが国におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診」 講師：杏林大学医学部産科婦人科学教室准教授 症例提示5例：鳥取大学医学部附属病院 森定徹先生 小松宏彰先生
肺がん 肺がん検診従事者講習会 及び症例研究会	令和7年2月22日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	58名	演題：「種々の疾患の「影」：胸部画像診断の基礎」 講師：横浜市立大学附属病院核医学診療科部長 (横浜市立大学医学部放射線診断学准教授)山城恒雄先生 症例検討 東部ー4例：鳥取県立中央病院 中部ー1例：鳥取県立厚生病院 西部ー1例：鳥取大学医学部附属病院 滝川崇先生 野坂祐仁先生 和田杜甫先生
乳がん 乳がん検診従事者講習会 及び第30回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	令和7年2月15日(土) 午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	25名	演題：「乳がんに対するラジオ波焼灼療法」 講師：鳥取大学医学部附属病院乳腺内分泌外科助教 田中裕子先生 門永太一先生 大田里香子先生 万木洋平先生 症例検討 東部ー1例：鳥取県立中央病院 中部ー1例：鳥取県立厚生病院 西部ー2例：米子医療センター
大腸がん 大腸がん検診従事者講習会 及び症例研究会(令和6年度鳥取県医学 会ランチョンセミナー)	令和6年7月28日(日) 午後0時05分～午後1時15分	倉吉市 倉吉体育文化会館	63名	演題：「大腸の病理診断」 講師：鳥取県立厚生病院病理診断科部長 堀江靖先生 野口直哉先生 症例検討 中部ー1例：鳥取県立厚生病院 狩山和也先生
肝臓がん 肝臓がん検診従事者講習会	令和7年3月1日(土) 午後4時～午後5時40分	倉吉市 倉吉交流プラザ	90名	演題：「食事性肝障害と新規肝線維化スコアFIB-3 index」 講師：岡山市立市民病院副院長 狩山和也先生 松木由佳子先生 三好謙一先生 永原天和先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和7年2月8日(土) 午後4時～午後6時

場 所 ハイブリッド開催(現地会場+オンライン)

現地会場：鳥取県健康会館、倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取生協病院 宮 崎 慎 一

症 例：60歳代 女性

既往歴：特記事項なし、H.pylori (HP) 除菌歴なし

検診歴：2020年2月に内視鏡検診を受け、異常は指摘されていなかった。

経 過：2021年1月の内視鏡検診で、穹隆部大弯に4～5cm大の平坦な褪色調隆起性病変を認めた。

生検結果はGroup3 (mild atypia) であった。広範な病変であり、腺腫内癌が疑われたため内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した。

病 理：一般型胃腺窩上皮型腫瘍 (tubular adenoma / severe atypia)

考 察：発見前年の内視鏡画像を見直すと、穹隆部大弯に褪色粘膜領域がわずかに指摘できた。空気量が少なめで病変の一部しか認識できず、多発性白色扁平隆起と誤認した可能性もある。HP未感染の胃には本症例の様な病変が存在することも念頭におきつつ、積極的な色素散布にて見落としを防ぐ必要があるものと考えられた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 岡 本 尚

症 例：70歳代 女性

既往歴：特記事項なし HP抗体陽性

経 過：2021年10月に胃癌検診として、胃透視を受けたが、明らかな異常は指摘されてなかった。

2023年1月の胃透視検診で、胃体部小弯から前庭部にかけて全周性の胃壁硬化像、前庭部拡張不全を指摘された。2023年2月に当院で、上部内視鏡検査が施行され、胃体下部～前庭部にかけて全周性の4型腫瘍があり、生検にてGroup5(sig>por2)の診断であり、当院消化器外科に紹介後、胃全摘術が施行された。

病 理：Adenocarcinoma、stomach、resected、por2、SE、Ly1a、V0、INFc、scirrhous type、LN+、PM(-:39mm)、DM(-:18mm)

考 察：本症例は、HP現感染の胃に発生した4型進行胃癌であった。胃透視では、胃体部小弯～前庭部にかけて胃壁硬化像を認めたが、発見前年の胃透視を見直すと、同部位の軽度胃角開大を認めた。化学療法後に胃全摘術が施行され、術後経過は良好であるが、内視鏡検査と違い、胃透視読影の難しさを再認識させられた症例であった。

[西部症例]

提出者：米子医療センター 原 田 賢 一

症 例：60歳代 男性

既往歴：胃潰瘍、除菌歴なし (今回HP抗体陽性判明)

検診歴：毎年、胃がん検診（車検診）受検（2021年度、2022年度）。以前にEGD受検歴あり。2024年1月（2023年度）、胃がん検診で異常所見を認め、同年3月当科受診。

経 過：2021年度検診では異常指摘なし。2022年度（発見前年）で胃体下部に襞集中を疑う所見が

あったが精査とならなかった。2023年度（発見年）では胃体下部前壁に襞集中を伴う不整形の陥凹性病変を認め、陥凹内には複数の小隆起が存在した。集中した一部襞は癒合して描出された。上部消化管内視鏡検査で胃体下部前壁に襞集中を伴う不整形の陥凹性病変を認め、瘢痕様に観察され、襞の癒合所見も認めた。胃X線所見と同様、陥凹内には小隆起が存在した。生検でtub1、深達度は粘膜下層深層と判断、非切除因子を認めなかつたため、2024年5月に腹腔鏡補助下幽門側胃切除術を施行した。

病 理：M、Ant、type 0-IIc、29×24mm、tub1、pT1b1(SM1)、ly0、v0、pN0、M0、pStage IA
考 察：発見前年（2022年度）の胃X線検診で襞集中所見が疑われ、追加撮影もされていたが、理由は不明だが読影医は拾い上げていなかった。同年に診断がなされた場合、病期や切除方法が異なったか否かは不明であるが、本症例を通して読影医は検査技師の指摘を真摯に受け入れるべきと考えた。

2. 子宮がん検診症例研討会

日 時 令和7年2月9日(日) 午後4時～午後5時45分

場 所 倉吉交流プラザ

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科学分野講師 佐藤慎也先生の進行により、4例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科学分野講師 小松宏彰先生より下記の4症例が提示された。

症例1は40代女性。2023年の施設検診でSCCであった。その後の精密検査でHSIL/CIN3であり、2024年に円錐切除術を施行。最終診断はHSIL/CIN3であった。細胞診判定が過大評価であったが、早期例を拾い上げるための細胞診という意味では問題はなかった。

症例2は30代女性。2023年2月にASC-USと判定されたが、HPVは陰性であった。2023年6月に細胞診でLSIL/CIN1と判定、その後も細胞診異常が持続し、2024年5月に円錐切除術が施行され、最終診断はHSIL/CIN3であった。徐々に進行を認めた症例であった。

症例3は30代女性。2020年の細胞診でASC-US、HPV16型が陽性であった。翌月の精密検査で頸部組織診：LSIL/CIN1であり、半年ごとの細胞診によるフォローとなった。その後はLSILおよびNILMがみられたが、2023年7月に頸部組織診でHSIL/CIN3であった。同年9月に円錐切除術を施行され、病理組織学的所見はHSIL/CIN2であった。症例2と同様に徐々に進行した症例であった。

症例4は60代女性。2019年の細胞診はNILM、HPV併用検診でその他の型が陽性であった。その後も1年毎に検診を行い、2021年まではNILMであったが、HPV陽性が持続した。2022年11月の細胞診でASC-US、2023年9月にはHSIL/CIN3であった。同年12月にレーザー円錐切除を施行され、最終診断はHSIL/CIN3、切除断端陽性であった。その後、頸部細胞診はNILMであったが、HPV陽性が持続しており、現在も経過観察中である。HPV陽性の持続は子宮頸部異形成を進行させたが、レーザー治療かつ切除断端例はHPV陽性となることもあり、今後も慎重な管理が望まれる。

各症例の細胞診所見を供覧し、診断治療に至るまでの問題点の有無を検討した。細胞判定がASC-USであっても、その後のフォローや正常と判定された細胞像を再確認することで細胞診判定精度の再評価に繋がり、最悪の事態を回避できる可能性があることを再確認できた。

令和6年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例 1	47歳	鳥取市	2023/10/24	鳥取北クリニック	SCC	鳥取県立中央病院	CIN3			鳥取県立中央病院
症例 2	35歳	鳥取市	2019/9/28 2021/2/3 2023/2/17 2023/9/12	タグチレディースクリニック タグチレディースクリニック タグチレディースクリニック田園町 さくらレディースクリニック田園町	NILN、HPV(+) NILM ASC-US ASC-US	さくらレディースクリニック田園町 さくらレディースクリニック田園町	CIN1 CIN3			鳥取県立中央病院
症例 3	34歳	琴浦町	2021/6/30 2023/6/20	打吹公園クリニック はまよしレディースクリニック	LSIL ASC-US	打吹公園クリニック 打吹公園クリニック	CIN1 CIN3			鳥取県立厚生病院
症例 4	43歳	米子市	2019/12/4 2020/10/5 2021/11/22 2022/11/16 2023/9/28	腸田ワイメンズヘルスケアセンター 腸田ワイメンズヘルスケアセンター 腸田ワイメンズヘルスケアセンター 腸田ワイメンズヘルスケアセンター 腸田ワイメンズヘルスケアセンター	NILN、HPV Other(+) NILN、HPV Other(+) NILN、HPV Other(+) ASC-US、HPV Other(+) HSIL、HPV Other(+)	その他疾患、 コルポ診異常	CIN3			
症例 5	64歳	米子市	2021/12/17 2023/12/11	ミオ・ファティリティ・クリニック ミオ・ファティリティ・クリニック	Adeno. ca AIS	未受診 鳥取大学医学部附属病院	AIS			鳥取大学医学部 附属病院

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 令和7年2月22日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 澄 川 崇

症例1：73歳 男性

高脂血症、高尿酸血症で治療中、ペースメーカー植え込み後。

20本/日×40年の既喫煙者。

X-1年12月の検診で要精査となりX年1月に当院を受診した。単純X線では右下肺野の結節影を認めた。過去の画像を振り返ると1年前にも指摘可能であるが、2年前と比較することで早期に指摘できた可能性が示唆された。

右下葉切除が行われ、術後診断は肺腺癌、pT1bN0M0、stage IA2であった。

症例2：72歳 男性

高血圧症で治療中、前立腺肥大症術後。

20本/日×25年の既喫煙者。

X年の検診で右下肺野斑状影を指摘され当院を受診した。胸部CTでは指摘された部位ではなく、右上葉に1.5cm大の結節影を認めた。

経時的に単純X線でも増大傾向であり、右上葉切除が行われ、術後診断は肺腺癌、pT1bN1M0、stage IIBであった。

症例3：75歳 男性

高血圧症、高脂血症で治療中。

20本/日×40年の既喫煙者。

腰部脊柱管狭窄症術前の胸部単純X線で右下肺野腫瘤影を指摘され受診した。X-1年のX線を確認すると指摘可能であったが、その時は他疾患で受診されており、ルーチンとして胸部X線が撮影されたもので、読影が不十分であった可能性がある。

右下葉切除が行われ、術後診断は肺扁平上皮癌、pT3N2M0、stage IIIBであった。

症例4：61歳 男性

高血圧、高脂血症、糖尿病で治療中、狭心症PCIの既往あり。

20本/日×30年の既喫煙者。X年2月の検診で要精査となり同年3月に当院を受診した。

単純X線では心陰影に重なる部位に結節影を認めた。

左下葉切除が行われ、術後診断は肺腺癌、pT4N0M0、stage IIIAであった。

画像上、指摘しづらいが、過去との比較で指摘可能な陰影、他疾患通院中のルーチン撮影の問題点などについて報告した。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 野 坂 祐 仁

症 例：70歳代 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで検診で異常を指摘されたことはなかった。X年の検診で異常を指摘され、当院呼吸器内科紹介受診となった。

既往歴：2型糖尿病、高血圧、脂質異常症

喫煙歴：former smoker、30~40本/日×50年（20~70歳）

臨床経過：胸部X線では右中肺野に結節影を認めた。胸部CTでは右上葉S3に $1.9 \times 1.5 \times 1.8$ cm大、C/T比：1.0の結節影を認めた。結節影は気管支B3a内腔へ進展を認めた。気管支鏡検査では、気管支B3aを閉塞する隆起性病変を認め、生検で扁平上皮癌の診断に至った。右上葉肺癌（squamous cell carcinoma : cT1bN0M0 stage IA2）の診断で、手術目的に当科紹介となった。生検から9日後、当科紹介初診時の胸部X線、CTで右肺に広範な肺炎像を認めた。腫瘍を閉塞起点とした閉塞性肺炎を呈していたため、緊急入院とし抗生素治療を行った。器質化像は残るもの抗生剤治療にて肺炎は軽快した。閉塞性肺炎治療開始から5週間で胸腔鏡下右肺上葉切除+ND1bを施行した。閉塞性肺炎の影響で、上葉-胸壁間、上-中葉間に強い瘻着を認めた。術後病理病期診断は、squamous cell carcinoma、keratinizing type、pT2a（病変全体径=浸潤径： $\geq 1.0 \times 0.8$ cm）N0M0、pStage IBであった。

考 察：本症例は検診を契機に発見されたが、腫瘍を起点とした閉塞性肺炎を呈した。

閉塞性肺炎発症前に発見できたとも捉えられるが、より早く見つかっていれば閉塞性肺炎には至らなかつた可能性もある。検診発見前後で2年間受診間隔が空いていたため、やはり毎年検診を受けることが早期発見につながると考えさせられた症例であった。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 和田杜甫

症 例：50歳代 男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：X年、検診で胸部異常陰影を指摘されるも受診せず。X+1年、検診で再度胸部異常陰影を指摘され、近医受診。CTで右中葉に結節影を認めたため当院呼吸器内科紹介となった。気管支鏡生検で肺腺癌と診断され、手術目的に当科紹介となった。

既往歴：特記事項なし

喫煙歴：非喫煙者

臨床経過：検診時胸部X線では、右中肺野に索状影を認めた。CTでは、右中葉の上中葉間胸膜直下に、腫瘍径 3.1×2.1 cm、充実成分径 2.2 cmのpart solid noduleを認めた。PET-CTでは、原発巣にSUV max6.3の集積を認めた。明らかな肺門縦隔リンパ節の集積は認めなかった。気管支鏡生検にて肺腺癌と診断され、右中葉肺癌（cT1cN0M0、Stage IA3）に対してロボット支援下右中葉切除+ND2a-2を行なった。術後経過は良好で、術後2日目に胸腔ドレーン抜去し、術後5日目に退院となった。術後病理診断は、Invasive adenocarcinoma papillary-predominant、pT2a ($2.5 \times 1.4 \times 1.2$ cm、inv. 2.5cm)、pII、G2、Ly0、V0、pN1 (#12m)、p-Stage IIB、PD-L1: TPS<1%、Exon19 del陽性であった。術後補助化学療法として、CDDP+VNR治療後に現在Osimertinib投与中である。

考 察：本症例は、胸部X線において右中肺野に索状影を認めた。索状影とは、線状影よりもやや太く、幅が2~3mm程度のものである。原因としては、肺炎後などの炎症性変化や瘢痕などの良性疾患が多いとされる。索状影を呈する肺癌として考えられるものは、葉間胸膜直下を進展する肺癌や気管支壁内を進展する肺癌などが挙げられる。本症例のように索状影を呈する肺癌もあるため、判定には注意が必要である。

4. 乳がん検診症例研討会

日 時 令和7年2月15日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 門 永 太 一

症 例：50歳代 女性

主 訴：乳癌検診異常

現病歴：X年に左乳房石灰化を指摘され、当院精査。X+1年 フォローで変化なく、検診復帰。

X+3年、他院の乳癌検診で、左乳房石灰化を指摘されたが、当院精査で著変なく、検診復帰。X+4年、当院人間ドックで、左乳房石灰化、FAD指摘されたが、当院精査のUSで所見なく、フォロー継続の方針。X+5年、フォローで変化なし。X+6年、石灰化の増加とUSで新規の腫瘤を指摘され、針生検で浸潤性乳管癌の診断となった。

所 見：(MMG) 左M 多形性石灰化 集簇、FAD カテゴリー4。後方視的にみるとX+3年から多形性石灰化出現していた。(視触診) 腫瘤触知せず。(US) 左C区域 11.1×9.6×13.6mm大の不整形低エコー域。内部に点状高エコー。(CNB) 浸潤性乳管癌、Ki-67LI；30%、ER；≥90%、PgR；80-90%、HER2；2+、HER2-FISH；境界域。(MRI) 左乳腺CA区域 9×12×13mm大の造影結節。(PET-CT) 左乳腺C区域 10mm大の結節、SUV max 5.16。

診 断：左乳癌 (C) cT1cN0M0、stage I、Luminal B

手 術：左Bt+SLNB

病理診断：Invasive ductal carcinoma、pT2 (浸潤径22×11mm、全体径30×14mm)、pN0(i+) [SN=0/1(i+)]、Level I=0/1]、Ki-67LI；60%、Ly1、V0、ER；100%、PgR；80%、HER2；2+→HER2-FISH；陽性。

術後診断：左乳癌 (C)、pT2N0(i+)M0、stage IIA、Luminal B/ HER2

術後治療：dose dense EC→DTX+HP (途中からHPをフェスゴに変更) →フェスゴ、ANA

まとめ：初回の乳癌検診精密検査から、数年間経過して乳癌と診断された症例を提示した。比較読影は重要だが、良性の所見に惑わされないよう読影する必要がある。早期診断のためには、診断カテゴリーに応じて、追加の検査の検討や、フォロー間隔を短くすることが重要である。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 大 田 里香子

症 例：70代 女性

現病歴：自覚症状なし。乳癌検診で右M石灰化カテゴリー3にて当科受診。

所 見：(MG) 右MOに淡い石灰化の集簇、カテゴリー3。(視触診) 腫瘤は触知しない。(US) 右C18×3.4×8mm境界明瞭、索状低エコー域。(CNB) 非浸潤性乳管癌、ER AS4、PgR0

診 断：右乳癌 (C)、c-TisN0M0、c-stage 0

手 術：右Bt+SN

術後診断：右乳癌 (C)、p-TisN0M0、p-stage 0

術後治療：なし

まとめ：自覚症状のない非浸潤性乳管癌を検診発見で治療することができた。比較のため取り寄せた1年前のマンモグラフィではごく淡い石灰化陰影を少数認めた。

[西部症例]

提出者：米子医療センター 万木 洋平

〈症例1〉

症 例：40歳代 女性

主 訴：なし（乳がん検診異常）

既往歴：関節リウマチ、うつ病、パニック障害

現病歴：乳がん検診で石灰化病変にて要精密検査となり受診。

所 見：(MMG) 左M、微小円形石灰化、集簇、少数、カテゴリー3。(視触診) 異常なし。(US)

左CD境界部、腫瘤、 $19.9 \times 17.4 \times 10.3\text{mm}$ 、境界不明瞭。(CNB) 浸潤性乳管癌、ER 3b、PR 3b、HER2 2+/FISH(-)。(MRI) 広範囲の乳管内進展あり。

診 断：左乳癌 (AB)、cT1cN0M0、Stage I、luminal type、BRCA遺伝子病的バリエント陰性。

手 術：左Bt+SLNB。術中迅速病理診断でSLNに微小転移のみ、永久病理診断でマクロ転移が判明。後日Ax(II)を追加。

病理診断：(初回手術) Invasive ductal carcinoma、20mm、NG1、HG I、Ly1、V0、pN1a (sn2/3)
(追加手術) Level I (0/18)、Level II (0/2)

術後診断：左乳癌 (AB)、pT1cN1aM0、Stage IIA、luminal type

術後治療：TC×4コース、PMRT50Gy/25回、TAM+S-1内服。

〈症例2〉

症 例：50歳代 女性

主 訴：なし（乳がん検診異常）

既往歴：帝王切開

現病歴：乳がん検診で石灰化病変にて要精密検査となり受診。USで異常所見なく半年毎にフォローの方針とした。初診から1年後、右乳房に腫瘤が出現した。

所 見：(MMG) 右M/I、微小円形石灰化、集簇、少数、カテゴリー3。(視触診) 異常なし。(US)右E、腫瘤、 $7.0 \times 10.4 \times 5.8\text{mm}$ 、境界明瞭粗造。(CNB) 浸潤性乳管癌、ER 0、PR 0、HER2 3+。

診 断：右乳癌 (E)、cT1cN0M0、Stage I、HER2 type

手 術：右Bp+SLNB

病理診断：Invasive ductal carcinoma、10mm、NG2、HG II、Ly0、V0、pN0(sn0/2)

術後診断：左乳癌 (E)、pT1bN0M0、Stage I、HER2 type

術後治療：HP-PTX×4コース、HP×14コース、RT50Gy/25回。

まとめ：2例とも少数の微小円形石灰化の集簇を認め、ともすれば見落とされかねない軽微な所見であったが、カテゴリー3で要精査となり浸潤癌が発見された。慎重な読影が重要と考えられた。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和6年7月28日(日) 午後0時15分～午後1時15分

場 所 倉吉体育文化会館

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 野 口 直 哉

症 例：67歳 女性

経 過：大腸がん検診を毎年連続で受診しているが、異常を指摘されなかった。

2023/11月の大腸がん検診で便潜血+/-となり、当科受診となった。

2024/1月、大腸内視鏡を行った。盲腸に2cm大の2型腫瘍を認め、生検でgroup5、adenocarcinoma、tub1と診断した。

2024/3月 回盲部切除術を行った。病理でpT2N0M0 pStage I (adenocarcinoma with adenoma、tub1、MP、Ly0、V1b、PT2) と診断した。

考 察：毎年、連続で大腸がん検診を受診していたが進行がんが発見された症例である。大腸がん検診では左側結腸の病変が発見されやすく、右側結腸の病変は発見されにくい傾向にあると指摘されている。今回の患者さんもこの傾向に当てはまると考えられた。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和7年3月1日(土) 午後4時～午後5時40分

場 所 倉吉交流プラザ

[東部症例]

提出者：鳥取赤十字病院 松 木 由佳子

症 例：60歳代 男性

主 訴：特になし

現病歴：X-9年検診で肝障害を指摘され、近医総合病院でアルコール性非代償性肝硬変（Child-Pugh分類B、8点）として内服治療開始となった。X-8年には肝性脳症にて当科入院、以後も近医総合病院で肝硬変治療と肝細胞癌サーベイランスが継続されていた。X年に定期サーベイランス目的で撮像された肝ダイナミックCTで門脈血栓症を指摘され、またPIVKA-II高値であり精査治療目的に当科紹介となった。

既往歴：50歳代 アルコール性肝硬変、肝性脳症

生活歴：飲酒 焼酎3合/日×40年、8年前より禁酒、喫煙なし

常用薬：フロセミド、スピロノラクトン、ポラプレジン、ラクツロース、分岐鎖アミノ酸製剤

現病歴：B型慢性肝炎のため近医通院中の患者様。腹部超音波検査で肝SOLを認めなかつたが AFPの持続上昇があり、精査目的に紹介となった。

入院時検査所見：WBC 2750/ μ L、RBC 425万/ μ L、Hb 14.7g/dL、PLT 6.8万/ μ L、PT % 68%、PT-INR 1.28、APTT 39.7sec、Fbg 172mg/dL、AT-III 60%、D-Dimer 2.1 μ g/mL、TP 7.3g/dL、Alb 3.6g/dL、T-Bil 2.4mg/dL、D-Bil 0.7mg/dL、AST 43IU/L、ALT 36IU/L、ALP 128IU/L、 γ -GTP 62IU/L、BUN 12mg/dL、Cr 0.62mg/dL、CK 76IU/L、NH3 105 μ g/dL、CRP 0.06mg/dL、血糖 140mg/dL、HbA1c 5.9%、HBs Ag(−)、HCV Ab(−)、AFP 9ng/mL、PIVKA-II 179mAU/mL、CEA 2.8ng/mL、CA19-9 14U/mL、mALB score -2.00、grade 2b、Child-Pugh 7B

前医肝ダイナミックCT：肝は表面凹凸が目立つ肝硬変で、S5に境界不明瞭な濃染域を認める。門脈本幹から右枝に血栓を認める。腹水なし。

入院後経過：門脈血栓はアンチトロンビンIII製剤で縮小し、維持療法として抗凝固薬内服を継続した。EOB-MRIではCTで指摘された濃染域と一致して、門脈P5に沿って早期濃染、wash-outを伴う領域を認め、拡散強調像で高信号、肝細胞相で低信号を呈していた。腹部超音波検査ではBモードでの観察ではこの領域に明らかな腫瘍を同定できず、ペルフルブタン造影のクッパー相で27×18mm大の造影欠損域がかろうじて描出された。同領域の肝生検で中分化型肝細胞癌の診断に至った。Child-Pugh分類B（8点）の非代償性肝硬変であり、外科切除や全身化学療法の適応外であるため肝動注療法の方針となった。血管造影検査で門脈P5、8の腫瘍浸潤が確認され、肝細胞癌（单発、27mm、Vp2）、UICC Stage II（T2N0M0）原発性肝癌取扱規約Stage III（T3N0M0）と診断し肝動注療法（シスプラチニン65mg/m2）を行った。治療直後はアルブミン低下やビリルビン上昇などを認めたが徐々に改善した。1か月後には肝内病変、門脈腫瘍栓ともほぼ消失し、現在シスプラチニンを減量しながら治療継続中である。

考 察：肝癌診療ガイドラインでは非ウイルス性肝硬変は超高危険度群として半年ごとの肝細胞癌スクリーニングの対象である。本症例は非ウイルス性肝硬変ではあるものの線維化が強く、

超高危険度群であるウイルス性肝硬変と同様に3か月ごとに画像検査と腫瘍マーカー測定を継続していたこと、また超音波検査で肝内が見づらいため、造影CTでのスクリーニングを継続されていたことが病変の発見につながった。

近年、切除不能肝細胞癌に対しては複数の免疫複合療法を含む全身化学療法が認可され、実臨床でも使用されるようになっている。しかし、いずれの薬剤もChild-Pugh分類Aの代償性肝硬変に限られ、肝予備能低下を来たした肝細胞癌患者では治療選択肢は局所治療、IVR、放射線治療に限られる。本症例は、Child-Pugh Bの非代償性観肝硬変で脈管侵襲が疑われる境界不明瞭な腫瘍であった。肝予備能が低下していることから切除適応外、境界不明瞭でありTACE不適、また塞栓後症候群による更なる肝予備能の低下が懸念されたため肝動注療法を選択し、腫瘍縮小効果が得られた。

結語：肝硬変患者は定期的な肝細胞癌サーベイランスの対象であるが、適宜CTやMRIを組み合わせることで肝細胞癌や合併症の発見につながることがある。肝予備能低下例では肝細胞癌治療の選択肢は少なくなるものの、肝動注療法が奏功する場合もあり、治療方針の十分な検討が必要である。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 三好謙一

はじめに：検診の腹部超音波検査で偶発的に診断し得た発癌リスクに乏しい早期肝細胞癌の1例を報告する。

症例：50歳代 女性

主訴：なし

現病歴：検診で施行された腹部超音波検査で肝腫瘍を疑われたため精査目的に当院を初診された。

検診は毎年受けておられたが、要精査となったのは今回がはじめてであった。

既往歴：47歳時、子宮筋腫および卵巣チョコレート嚢胞に対し手術、ピル内服既往なし

生活歴：機会飲酒、喫煙なし

内服薬：なし

身体所見：身長155.7cm、体重50.4kg (BMI 20.8)、腹部平坦軟、腸雜音正常

血液検査：Alb 4.4g/dL、T-Bil 0.9mg/dL、AST 23U/L、ALT 20U/L、γGTP 18U/L、LD 140U/L、UN 20.1mg/dL、Cr 0.88mg/dL、Glu 92mg/dL、CRP 0.04mg/dL、WBC 5100/μL、Hb 14.4g/dL、Plt 24.8万/μL、CEA 4.5ng/mL、CA19-9 8.9U/mL、AFP 4.2ng/mL、PIVKA II 26mAU/mL、FIB4-index 1.07

肝dynamic-CT：肝S8：10mm大のfill-in patternを呈する類円形腫瘍あり。また肝S6門脈後区域枝に接するように10mm大の早期濃染/washoutを呈する類円形腫瘍あり。

超音波検査：肝S8：10mm大marginal strong echo patternを呈する高エコーSOLあり。肝S6病変はBモードでの同定は困難であったが、fusion imagingを用いておおよその解剖学的位置は把握できた。Sonazoid造影超音波でS6病変の描出を試みたが、血管相を捉えることはできなかった。後血管相では周囲肝実質と比較し淡いdefectを呈した。

経過：肝S8病変は肝血管腫と診断した。肝S6病変は肝血管筋脂肪腫や限局性結節性過形成も鑑別に挙がるもの肝細胞癌の除外を要する所見であり、肝腫瘍生検を施行した。病理検査は肝細胞癌の所見であった。ラジオ波焼灼術を施行し現在無再発生存中である。

本症例は肝炎ウイルス陰性、アルコール多飲はなく代謝疾患も有しておらず、肝臓の画像形態もほぼ正常の所見であり、肝細胞癌の発癌リスクを見出すことはできなかった。検

診結果通知票の腹部超音波結果は「肝腫瘍疑い」との記載にとどまっていた。S6病変はBモードでの描出が不可能であったことからも、肝血管腫の発見を契機に施行したdynamic-CTで偶発的に発見された早期肝細胞癌と考える。検診等での腹部超音波検査で高エコーSOLを認めた際に「血管腫疑い」とし、経過観察区分とされたケースを見かけることがあるが、組織学的検討を割愛した判定であり、誤診リスクを多分にはらんだものと考える。本症例は非常に稀な発癌形式であったと考えるが、あくまでも要精査区分に対し実施した精査をもとに発見された症例である。考察と言えるほどの内容ではないが、日常診療の質の担保が早期発見・早期治療につながった症例であり、今回報告させていただいた。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 永 原 天 和

はじめに：われわれが県内多施設共同で行っている鳥取県の初発肝がんの実態調査で、B型肝炎およびC型肝炎（非SVR）による肝がん症例においてサーベイランスによって発見されたものの割合が50%に満たないことが明らかになっている。また腹痛・黄疸などの症候性発見例は、進行したステージが70%以上を占め、根治的治療が行えない場合も少なくない。従来ウイルス性肝炎患者には、定期的な腫瘍マーカー測定とエコー検査による肝細胞癌（HCC）のサーベイランスを行うことが推奨されているが、わが県のサーベイランス実施率やその精度は十分とは言えない。

症 例：70歳代 男性

主 訴：右季肋部痛、肝機能障害

病 歴：40年くらい前にB型肝炎としてインターフェロン治療を受けたとのことだが詳細不明であった。その後、B型肝炎に関して定期的な検査は受けてこなかった。高血圧等にて近医を通院していた。

20XX/○月 夕方に右季肋部痛あり、かかりつけ医院を受診。肝障害と腹部エコーで肝腫瘍を指摘された。地域の病院へ紹介され、DynCTで肝右葉前区域に12cm大の内部に出血を伴った肝腫瘍を指摘された。

○月△日 精査・加療目的に当科紹介受診。HBs抗原陽性で、PIVKAI高値であることからHCCと診断した。当科受診の翌日に腹痛再燃あり、救急搬送。HCCの腫瘍内出血による疼痛と考えられ、同日入院。

既往歴：心房細動に対するカテーテルアブレーション術

生活歴：飲酒：焼酎水割り 2-3杯/日、喫煙：50歳で禁煙 それまでは50本/日

内服薬：アムロジピン、ボノプラザン、ビソプロロールフルマロ酸、エプレレノン

入院時検査所見：WBC 9400/ μ L、Hb 13.4g/dL、PLT 20.4万/ μ L、PT% 93.7%、PT-INR 1.00、Na 137mmol/L、K 4.1mmol/L、Cl 100mmol/L、Ca 9.8mg/dL、補正Ca 10.0mg/dL、BUN 16.6mg/dL、Cr 1.01mg/dL、T.P 7.6g/dL、ALB 3.8g/dL、T.Bil 1.7mg/dL、AST 112U/L、ALT 106U/L、ALP 491U/L、 γ -GTP 940U/L、LDH 225U/L、Glu 136mg/dL、HbA1c 6.6%、CRP 9.06mg/dL、FIB-4 3.95、mALBI Grade2b、M2BPGi 0.87、AFP 1.72ng/mL、PIVKA-II 4350mAU/mL、HBs抗原定性(+)、HBs抗原定量7558IU/mL、HBs抗体定性(-)、HBc抗体定性(+)、HBe抗原定性(-)、HBe抗体定性(+)、HBV-DNA定量1.5logIU/mL、HBcr抗原4.3logU/mL、HBV遺伝子型C、HCV抗体(-)

画像所見：Dyn-CTでは、内部が一部壊死した多血性腫瘍を認め最大径は13cmであった。明らかな

腹腔への造影剤漏出はなかった。ソナゾイド造影エコーでは、血管相での濃染とクッパー相でのdefectを呈しHCCパターンであった。EOB-MRIでは、肝細胞相で一部プリモビストの取り込みを認め、いわゆる胆汁排泄型HCC green hepatomaと呼ばれるタイプと考えられた。中肝静脈への主要浸潤を認めた。

以上の所見から、肝細胞癌、Stage III、BCLC-Cと診断した。新しい切除可能性分類ではBR2に該当した。当科、消化器外科、放射線科での合同カンファレンスで残肝容積が不十分であり切除適応外と判断した。

経過：直ちにB型肝炎に対する核酸アナログ投与を開始し、HCCに対してはレンバチニブとTACEを組み合わせるLEN-TACE療法を行った。TACEを繰り返すごとに腫瘍縮小とPIVKA-IIの低下が得られ、9cmまで縮小しPRと判定した。TACEを反復したが、肝予備能はALBIは2aから2bの間で推移しており明らかな予備能低下なく、今後コンバージョン切除に向かう方針である。

考察：B型肝炎およびC型肝炎ウイルス感染者に対する肝細胞癌（HCC）サーベイランスは、「腹部超音波検査と腫瘍マーカー（AFPおよびPIVKA-II）の併用を、6ヶ月ごとに実施する」ことが推奨されている。本症例では、かかりつけ医によるHCCサーベイランスが実施されていなかった。これには、患者側および医療側の二つの問題点が関与していると考えられる。まず患者側の問題として、本人がB型肝炎ウイルス陽性であることを自覚していないながら、かかりつけ医へその情報を伝えていなかった点が挙げられる。一方、医療側の問題として、かかりつけ医は肝障害を認めていたにもかかわらず、これを飲酒によるものと判断し、肝炎ウイルス検査や腹部超音波検査を実施しなかった点が指摘される。

今後は、「過去に一度でも肝炎ウイルス検査で陽性を指摘されたことがある者は、肝がんのリスクがある」という事実を、患者および一般市民に対して周知・啓発していくことが重要である。また、医療従事者においては、肝障害が認められた場合、非専門医であっても適切な肝疾患のスクリーニングを行うべきである。自院で十分な検査が困難な場合や精密検査が必要と判断された場合には、消化器内科または肝臓内科などの専門医療機関へ速やかに紹介することが求められる。さらに、HCCのサーベイランスを実施する際には、推奨される検査手法および実施間隔を遵守し、肝がんの早期発見に努める必要がある。

肝炎・肝がん患者を支える医療連携の一環として、肝臓がん検診精密検査登録医療機関および地域のかかりつけ医の先生方には、肝炎ウイルス検査の推進と、陽性者への確実な精査および継続的なフォローの実施をお願いしたい。その際には、患者・医療機関・行政をつなぐ「鳥取県肝炎医療コーディネーター」の活用が有効である。また、精査や治療が必要な場合には、大学病院や地域の肝疾患専門医療機関との連携を強化し、切れ目のない医療体制の構築を目指すことが重要である。肝炎医療コーディネーターは、患者と医療機関、行政機関を結ぶ橋渡し役として、検査・診断・治療への導入支援や継続的な受診支援、医療費助成の案内、専門医療機関への円滑な紹介など、多面的な支援を担っており、肝疾患の早期発見・早期治療において欠かせない存在である。今後は、こうしたコーディネーターの積極的な活用を通じて、地域における肝疾患医療の質の向上と、患者支援体制のさらなる充実が期待される。

IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたものについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回 更新手続き時期
子宮がん検診実施 (一次検診) 医療機関	令和7. 4. 1～令和8. 3. 31 (2025. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中
肺がん一次検診医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中
乳がん検診一次検査 (乳房X線撮影) 医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回 更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31 (2024. 4. 1～2027. 3. 31)	令和8年度中	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31
子宮がん検診精密検査	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31 (2024. 4. 1～2027. 3. 31)	令和8年度中	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	令和7. 4. 1～令和10. 3. 31 (2025. 4. 1～2028. 3. 31)	令和9年度中	令和7. 4. 1～令和10. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回／年 西部 1回／年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	3点
胃疾患研究会	東部 11回／年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回／年	3点
消化器病研究会	中部 6回／年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	3点
消化管研究会	西部 5回／年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただることとなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び 子宮がん検診症例検討会	全県 1回／年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回／年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回／年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回／年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回／年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回／年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。

なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。

なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。

また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び 鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回／年	5点
日本乳癌学会	1回／年	5点
日本乳癌検診学会	1回／年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回／年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回／年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回／年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

〔附則2〕

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回／年	2点
胃疾患研究会	東部 11回／年	1点
消化器病研究会	中部 6回／年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	2点
消化管研究会	西部 5回／年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（令和4年4月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKAⅡ検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）
- ※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。また、各種学会については、出席したことが証明できる書類等の写しを提出すること。

（別記）対象となる講習会等

講習会の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回／年	5点
山陰肝・胆・脾疾患研究会	全県 1回／年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回／年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回／年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回／年	2点
肝・胆・脾研究会	西部 3回／年	2点
消化器超音波研究会	西部 2回／年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回／年	3点
山陰肝癌治療研究会	全県 1回／年	3点
日本消化器病学会（総会、大会、支部例会）	総会 大会 各1回／年 支部例会 各2回／年	2点
日本肝臓学会（総会、大会、支部会）	各 1回／年	2点
日本超音波医学会（学術集会、地方会）	各 1回／年	2点
日本肝癌研究会	各 1回／年	2点

（注）上記以外の講演会等については、協議会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あとがき

令和7年度は、「JA共済ピンクリボンキャンペーン鳥取2025」として鳥取県健康対策協議会も協力しピンクリボンキャンペーンが予定されています。乳がんに関する情報を地域住民に広く普及させる機会を充実させ、乳がんに関する意識の向上と乳がん検診の受診率の増加を図り、さらには乳がん患者とその家族の不安の軽減及び生活の質の向上を目的とされています。メディアを積極的に活用したイベントなどを展開し、その効果については、今後のがん検診受診率対策を考える上でも重要な情報となるものと思われます。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第32報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像を一覧いただけるものと考えております。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますのでご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の皆様にはいつものように強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から感謝申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 岡田克夫